

付録

「付録 1 通信」では、GP と接続機器（PLC など）がつながるための通信方式のご紹介と、内部デバイスのしくみを、「付録 2 接続機器デバイスの現在値を一覧で確認したい（デバイスモニタ）」では、通信機器のデバイスを GP 上でモニタする機能について説明しています。

「付録 3 スイッチ操作で複数のアクション（プログラム）を実行したい」では、トリガアクション部品について説明しています。

「付録 4 外国語で作画したい」では、中国語（簡体字）を例に、外国語入力のための準備から実際のスイッチの銘板入力までの手順をご紹介します。

「付録 5 CF カードと USB ストレージ間でデータを移動したい」では、ファイルマネージャを使用して CF カードと USB ストレージ間のデータを移動する方法について説明しています。

「付録 6 FTP サーバを用いてデータを表示器の外部ストレージにバックアップしたい」では、FTP サーバを使用してデータを表示器にコピーする方法についてご説明しています。

「付録 7 システム変数」では、GP-Pro EX で使用できるシステム変数の詳細について説明しています。

「付録 8 Microsoft[®] Visio[®] で作成したパッケージファイルを GP-Pro EX で使用したい」では Microsoft[®] Visio[®] で作成したファイルを GP-Pro EX で使用する方法について説明します。

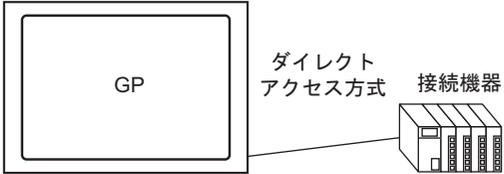
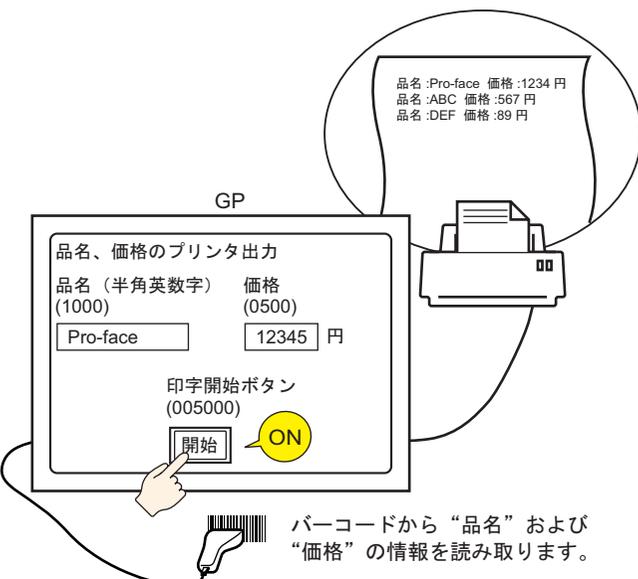
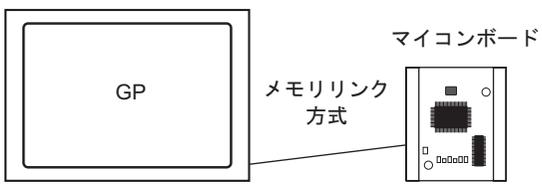
付録 1 通信	A-2
付録 2 接続機器デバイスの現在値を一覧で確認したい（デバイスモニタ）.....	A-45
付録 3 スイッチ操作で複数のアクション（プログラム）を実行したい	A-57
付録 4 外国語で作画したい	A-73
付録 5 CF カードと USB ストレージ間でデータを移動したい	A-82
付録 6 FTP サーバを用いてデータを表示器の外部ストレージにバックアップしたい	A-88
付録 7 システム変数	A-93
付録 8 Microsoft [®] Visio [®] で作成したパッケージファイルを GP-Pro EX で使いたい	A-127

付録 1 通信

MEMO

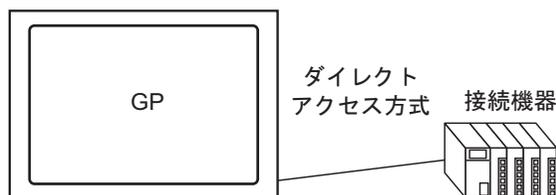
- GP と接続機器（PLC など）の接続方法については GP-Pro EX 機器接続マニュアルをご参照ください。

付録 1.1 設定メニュー

負荷をかけずに接続機器(PLCなど)と通信したい(ダイレクトアクセス方式)	
<p>GP に対応する接続機器（PLC など）と接続する場合に適しています。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ☞ 設定手順（A-3 ページ） ☞ 詳細（A-3 ページ）
対応していない接続機器と通信したい(メモリリンク方式)	
<p>バーコードを USB に接続し読み取ったデータを、COM1 に接続したシリアルプリンタへ出力する拡張スクリプトを作成します。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ☞ 設定手順（21-34 ページ） ☞ 詳細（21-21 ページ）
<p>パソコン、マイコンボードなど、接続機器側で通信のためのすべてのプログラムを作成、実行します。（メモリリンク方式）</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ☞ 設定手順（A-5 ページ） ☞ 詳細（A-5 ページ）

付録 1.2 負荷をかけずに接続機器（PLC など）と通信したい（ダイレクトアクセス方式）

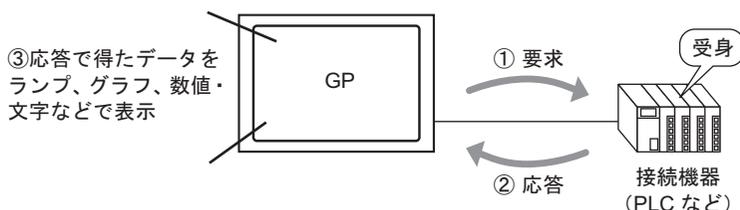
付録 1.2.1 詳細



接続機器（PLC など）と通信するために、接続機器にかかるプログラム負荷を少なくした「ダイレクトアクセス」という通信方式を使用します。

ダイレクトアクセス方式

「ダイレクトアクセス方式」では、下図のように GP 側から接続機器（PLC など）に問い合わせ（要求）を行います。接続機器は GP からの要求に対して応答します。



使用可能なアドレス

通信時に GP が接続機器（PLC など）から表示に必要なデータを得られるように、部品やスクリプト機能などの設定では、データを参照できるアドレスを指定します。参照先として設定できるアドレスには次の 2 種類があります。

- 接続機器のアドレス

接続機器（PLC など）のデータを参照できます。

GP と通信する接続機器名（例「PLC1」）を選んで、アドレス（例「D00000」）を入力します。（例「ワードスイッチ」でのアドレス入力画面）



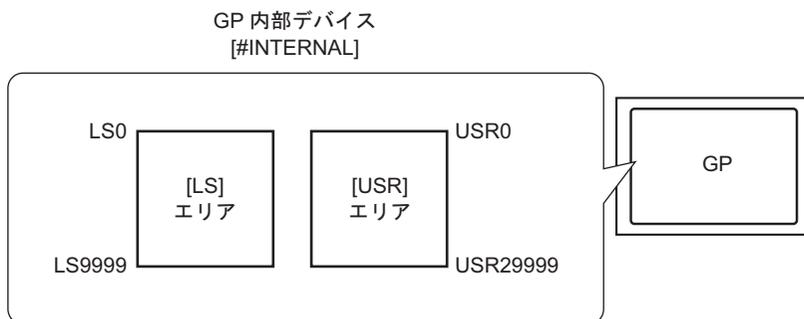
- GP 内部デバイスのアドレス

GP 内部デバイスとは、例えば、GP 内部で演算した値を一時的に格納したり、GP 内部で一時的に処理（制御）する場合のデータ格納先として適しています。そのデータを参照する場合、[接続機器] で [#INTERNAL]（GP 内部デバイスを示します）を選択し、アドレス（例「USR0000」）を入力します。

（例「ワードスイッチ」でのアドレス入力画面）



GP の内部デバイス [#INTERNAL] は、下図のように [LS] エリアと [USR] エリアの 2 つの領域で構成されています。



- [LS] エリア

自由に使用できるユーザーエリアのほか、GP の運転のために使用する領域もあります。

☞ 「付録 1.4 LS エリア（ダイレクトアクセス方式専用）」（A-7 ページ）

システム設定ウィンドウ [接続機器設定] の [文字列データモード] の設定により、データの格納順序は変わります。

☞ 「 [接続機器設定] の設定ガイド」（5-176 ページ）

LS9130 にデータ格納モードを設定してデータの格納順序を変更することもできます。

☞ 「 データ格納モード」（21-106 ページ）

- [USR] エリア

30,000 ワード、すべての領域を自由に使用できるユーザーエリアです。

システム設定ウィンドウ [接続機器設定] の [文字列データモード] の設定にかかわらず、データの格納順序は LH 順固定となります。

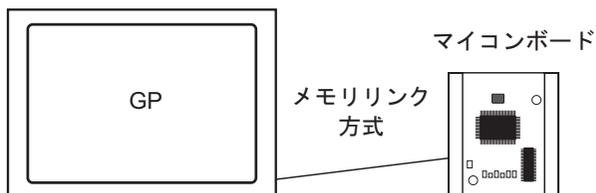
☞ 「付録 1.6.4 USR エリア使用時の制限事項」（A-44 ページ）

GP 内部デバイス (LS/USR) のデバイスコード

デバイス	デバイスコード	アドレス範囲
LS	0x0000	0 ~ 9999
USR	0x0001	0 ~ 29999

付録 1.3 対応していない接続機器と通信したい (メモリリンク方式)

付録 1.3.1 詳細



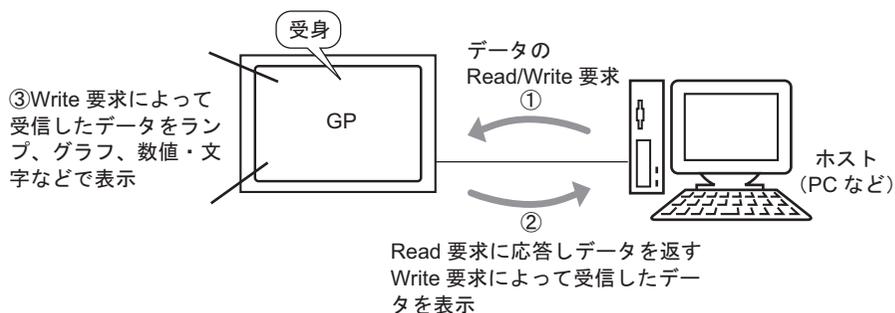
パソコンやマイコンボードなど、それ自身が通信プロトコルを持たない機器（ここでは「ホスト」と称します）と接続するために「メモリリンク」という通信方式を使用します。

メモリリンク方式

「メモリリンク方式」では、下図のようにホスト側から GP にデータの書き込み・読み込み要求を行います。GP はホストの書き込み要求によって送られてくる表示用データを画面表示したり、読み込み要求に応答して、GP 内部に格納しているデータをホストに渡します。

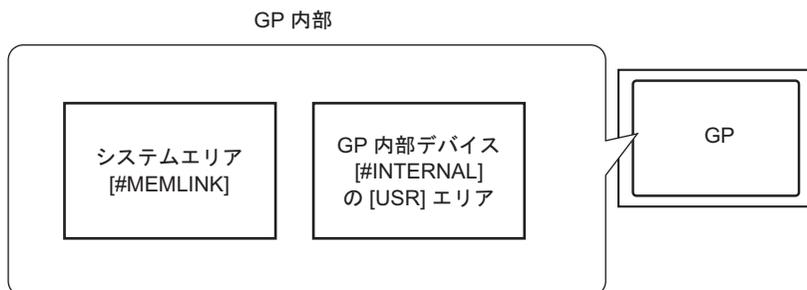
MEMO

- メモリリンク方式による通信は、ホスト側のプログラムを実行させることで実現します。



使用可能なアドレス

通信時に GP がホストから表示に必要なデータを得られるように、データを参照できるアドレスを指定して部品やスクリプト機能などを設定します。参照先として設定できるアドレスは GP 内部に 2 種類あります。



- メモリリンク専用システムエリアのアドレス

システムエリアは、ホストの書き込み・読み込み要求のための媒体となる領域です。メモリリンク方式での通信専用エリアです。

システムエリアの内容と領域については、「付録 1.5 システムエリア（メモリリンク専用エリア）」（A-27 ページ）をご覧ください。

例えば、「ワードスイッチ」でのアドレス設定では、[接続機器] で [#MEMLINK] を選択し、アドレス（例「0100」）を入力します。

（例「ワードスイッチ」でのアドレス入力画面）



- GP 内部デバイスのアドレス

例えば、GP 内部で演算した値を一時的に格納された先を参照する時などに指定します。メモリリンク方式での通信には使用できません。

[接続機器] で [#INTERNAL]（GP 内部デバイスを示します）を選択し、アドレス（例「USR00100」）を入力します。

（例「ワードスイッチ」でのアドレス入力画面）

**MEMO**

- メモリリンク方式では GP の内部デバイス [#INTERNAL] は、[USR] エリアのみ使用できます。ダイレクトアクセス方式で他の接続機器ドライバも使用している場合は、[#INTERNAL] の [LS] エリアも使用できます。

付録 1.4 LS エリア (ダイレクトアクセス方式専用)

ダイレクトアクセス方式で通信する GP 内部には LS エリアが確保されています。

この領域は、接続機器 (PLC など) のアドレスなしに GP 内部だけで一時的な制御処理や (例「スイッチのインターロック設定」) GP 内部で演算した値を一時的に格納するのに適しています。

付録 1.4.1 LS エリア一覧

<ダイレクトアクセス方式のLSエリア>

LS0000	システムデータエリア
LS0020	読み込みエリア
(LS0276* ¹)	ユーザーエリア
LS2032	特殊リレーエリア
LS2048	予約
LS2096	ユーザーエリア
LS9000	LS9000 エリア
LS9999	

重要

- システムデータエリアと読み込みエリア、または読み込みエリアとユーザーエリアの間にまたがって部品などのアドレスを設定しないでください。
- システムデータエリア内のアドレスを部品などのアドレスに設定する場合、データ長は 16 ビットで指定してください。

- システムデータエリアは最大 20 ワード、読み込みエリアは最大 256 ワード占有します。ユーザーエリアの先頭アドレスは読み込みエリア先頭アドレス (20) + 読み込みエリアサイズです。

領域名称	内容
システムデータエリア	GP の画面制御データやエラー情報など、システムの稼動に必要なデータを格納する領域です。 ☞「付録 1.4.2 システムデータエリア」(A-9 ページ) 接続機器 (PLC など) から GP が表示している画面番号を参照したり、画面を切り替えるなど、GP のデータを自動的に参照・制御するには、接続機器 (PLC など) にこのエリアとリンクする領域を設けます。 ☞「付録 1.4.4 接続機器へのシステムデータエリアの割り付け手順」(A-24 ページ)
読み込みエリア	全画面共通で使用するデータなどを格納する領域です。 エリアサイズは可変で、最大 256 ワード分まで設定できます。 接続機器 (PLC など) から GP が表示している画面番号を参照したり、画面を切り替えるなど、GP のデータを自動的に参照・制御するには、接続機器 (PLC など) にこのエリアとリンクする領域を設けます。 ☞「付録 1.4.4 接続機器へのシステムデータエリアの割り付け手順」(A-24 ページ)
ユーザーエリア	接続機器 (PLC など) 側には割り付けられない GP 内部だけのデバイスです。GP のみで処理できる部品のアドレスとして使用します。接続機器 (PLC など) 側からの制御はできません。

次のページに続きます。

領域名称	内容
特殊リレーエリア	GPの通信時における各種ステータス情報を格納する領域です。 ☞「付録 1.4.3 特殊リレー」(A-21 ページ)
予約	GP 内部で使用しています。この領域は使用しないでください。正常に動作しません。
LS9000 エリア	折れ線グラフの過去データ、通信スキャンタイムなど GP の内部処理情報などが格納されています。一部設定可能な領域も存在します。 ☞「7.3.2 設定手順 通信を切断する」(7-13 ページ)

MEMO

- LS エリアの指定のしかたは、次のとおりです。

ワードアドレス指定の場合

(例)「LS0000」

0000 ~ 9999 で設定

ビットアドレス指定の場合

(例)「LS0000 00」

00 ~ 15 (ビット番号) で指定

0000 ~ 9999 で指定

タッチした GP 画面の位置座標を LS エリアに格納する

GP 画面上のタッチ位置の座標は以下の LS エリアに格納されます。

LS9235	タッチ状態 ON または OFF
LS9236	X 座標
LS9237	Y 座標

表示できる座標の範囲は、GP の解像度によって違います。

実際の設置方向が縦型・横型に関わらず座標範囲は以下で固定です。縦型設置にした場合は、以下の座標範囲外の縦方向のエリアは格納されません。

解像度	X 座標範囲	Y 座標範囲
QVGA	0 ~ 319	0 ~ 239
VGA	0 ~ 639	0 ~ 479
SVGA	0 ~ 799	0 ~ 599
XGA	0 ~ 1023	0 ~ 767
SXGA	0 ~ 1279	0 ~ 1023

MEMO

- 以下の操作は、タッチしても座標は格納されません。
 - オフラインモードでの操作
 - 画面データ転送中の操作
 - システムメニューの操作
 - 輝度、コントラスト調整バーの操作
- 機種によっては表示エリア外をタッチしても値が取得される場合があります。その場合は表示範囲外の数値が取得されます。
- キャリブレーションが正しく設定されていない場合、範囲外の数値が取得されることがあります。
- 2点同時にタッチされた場合はその中心の座標が格納されます。
- GP-Viewer 使用時はタッチ座標は取得できません。
- Ether マルチリンクで通信方式がメモリリンクの場合は、マスタ GP のタッチ座標のみ取得できます。
- タッチエリア内をタッチしたまま指をスライドしてエリア外に出た場合、エリア外に出た時点でタッチ状態が OFF になります。
WinGP の場合は、エリア外に出てもタッチ状態は ON のままです。
この場合、エリア内での最後のタッチ位置の座標が格納されます。

付録 1.4.2 システムデータエリア

システムデータエリアの各アドレスに格納されるデータの内容を次に示します。

1 アドレスが 16 ビット長の接続機器 (PLC など) と通信する場合

MEMO

- 下表の「ワードアドレス」欄には、接続機器にシステムデータエリアを割り付ける場合に、指定した先頭アドレスから加算される領域を示します。(GP の LS0000 ~ LS0019 すべての項目を選択する場合)
- LS0000 ~ 0007 は GP→PLC の書き込み専用エリア、LS0008 ~ 0019 は読み込み専用エリアです。

GP 内部 アドレス	ワード アドレス	内容	ビット	詳細	H システム変数
LS0000	+0	表示中画面番号	—	1 ~ 9999 (BIN) 1 ~ 7999 (BCD)	#H_CurrentScreenNo
LS0001	+1	エラーステータス	0 ~ 2	未使用	—
			3	画面記憶メモリチェックサム	
			4	SIO フレミング	
			5	SIO パリティ	
			6	SIO オーバーラン	
			7 ~ 9	未使用	
			10	バックアップ電池の電圧低下	
			11	PLC 通信異常	
12 ~ 15	未使用				
LS0002	+2	時計「年」の現在値	—	西暦の下 2 桁 (BCD2 桁)	#H_CurrentYear
LS0003	+3	時計「月」の現在値	—	01 ~ 12 月 (BCD2 桁)	#H_CurrentMonth
LS0004	+4	時計「日」の現在値	—	01 ~ 31 日 (BCD2 桁)	#H_CurrentDay
LS0005	+5	時計「時分」の現在値	—	00 ~ 23 時、00 ~ 59 分 (BCD4 桁)	時: #H_CurrentHour 分: #H_CurrentMinute
LS0006	+6	ステータス	0 ~ 1	予約	—
			2	プリント中	#H_Status_Print
			3	データ表示部品 設定値書き込み	—
			4 ~ 6	予約	—
			7	シリアルマルチリンク時に他の 表示器が PLC 専有	#H_Status_ PLCmonopoly
			8	データ表示部品 入力エラー	—
			9	表示 ON/OFF 0:ON、1:OFF	#H_Status_DisponOff
			10	バックライト切れ検出	—
			11 ~ 15	予約	—

GP 内部 アドレス	ワード アドレス	内容	ビット	詳細	Hシステム変数
LS0007	+7	予約	—	予約	—
LS0008	+8	切り替え画面番号	—	1 ~ 9999 (BIN) 1 ~ 7999 (BCD) ¹	#H_ChangeScreenNo
LS0009	+9	画面表示の ON/OFF	—	FFFFh で画面表示を OFF 0h で画面表示	—
LS0010	+10	時計「年」の設定値	—	西暦の下 2 桁 (BCD2 桁) (15 ビットめは時計データの 書き換え用フラグ)	—
LS0011	+11	時計「月」の設定値	—	01 ~ 12 月 (BCD2 桁)	—
LS0012	+12	時計「日」の設定値	—	01 ~ 31 日 (BCD2 桁)	—
LS0013	+13	時計「時分」の設定値	—	00 ~ 23 時、00 ~ 59 分 (BCD4 桁)	—
LS0014	+14	コントロール	0	バックライト OFF	—
			1	ブザー ON ²	#H_Control_Buzzer
			2	プリント開始	#H_Control_HardcopyPrint
			3	予約	—
			4	ブザー音	#H_Control_BuzzerEnable
			5	AUX 出力 ²	—
			6	予約	—
			7	シリアルマルチリンク接続時 に PLC を専有	#H_Control_PLCmonopoly
			8 ~ 10	予約	—
			11	印字中止	#H_Control_PrintCancel
			12 ~ 15	予約	—
LS0015	+15	予約	—	予約	—
LS0016	+16	ウィンドウ コントロール	0	ウィンドウ表示 0:OFF、1:ON	#H_ GlobalWindowControl
			1	ウィンドウの重なり順序の 入れ替え 0:可、1:不可	
			2 ~ 15	予約	
LS0017	+17	ウィンドウ登録番号	—	間接指定で選択したグロー バルウィンドウの登録番号 1 ~ 2000 (BIN/BCD)	#H_GlobalWindowNo
LS0018	+18	ウィンドウ表示位置 (X 座標)	—	間接指定で選択したグロー バルウィンドウの左上隅の表示 位置	#H_ GlobalWindowPosX
LS0019	+19	ウィンドウ表示位置 (Y 座標)	—	(BIN/BCD)	#H_ GlobalWindowPosY

- 1 システム設定ウィンドウ [本体設定] の [表示設定] タブで [接続機器へ反映] を指定していない場合、タッチで切り替えられた画面番号を接続機器から元の番号に戻すことができません。これを強制的に変更させるには、アドレスのビット 15 を ON にし、ビット 0 ~ 14 に切り替えたい画面番号を設定します。(つまり 8000h+ 切り替えたい画面番号の値をアドレスに入力します。)

例) 画面番号 1999 に強制画面切り替えを行う場合

8000(h)+1999(h)=9999(h) 「9999」をアドレスに書き込む。

注意)

強制画面切り替えが有効の間(ビット 15 が ON の間)は、タッチによる画面切り替えはできません。

データ形式が BCD の場合は、2000 番以降の画面に切り替えることはできません。

- 2 使用するには [システム設定ウィンドウ] - [本体設定] - [操作設定] の [タッチブザーの音] にチェックを入れてください。

重要

- 通常、画面表示の OFF を行う場合、+14 番地 (コントロール) の「バックライト OFF」ビットを使用せず、+9 番地 (画面表示の ON/OFF) をご使用ください。

1 アドレスが8ビット長の接続機器（PLC など）と通信する場合

MEMO

- 下表の「ワードアドレス」欄には、接続機器にシステムデータエリアを割り付ける場合に、指定した先頭アドレスから加算される領域を示します。（GPのLS0000～LS0019すべての項目を選択する場合）
- LS0000～0007はGP→PLCの書き込み専用エリア、LS0008～0019は読み込み専用エリアです。
- 各内容の示すバイトアドレスの上下関係は、PLCによって異なります。

GP 内部 アドレス	バイト		内容	位	ビット	詳細	Hシステム変数
	10 進 数	8 進 数					
LS0000	+0	+0	表示中画面番号		—	1～9999(BIN) 1～7999(BCD)	#H_CurrentScreenNo
	+1	+1					
LS0001	+2	+2	エラーステータス	下位	0～2	未使用	—
					3	画面記憶メモリチェックサム	
					4	SIO フレミング	
					5	SIO パリティ	
	+3	+3		上位	6	SIO オーバーラン	
					7	未使用	
					0～1	未使用	
					2	バックアップ電池の電圧低下	
+3	+3			3	PLC 通信異常		
				4～7	未使用		
LS0002	+4	+4	時計「年」の現在値		—	西暦の下2桁 (BCD2桁)	#H_CurrentYear
	+5	+5					
LS0003	+6	+6	時計「月」の現在値		—	01～12月(BCD2桁)	#H_CurrentMonth
	+7	+7					
LS0004	+8	+10	時計「日」の現在値		—	01～31日(BCD2桁)	#H_CurrentDay
	+9	+11					
LS0005	+10	+12	時計「時分」の現在値		—	00～23時、 00～59分 (BCD4桁)	時:#H_CurrentHour 分:#H_CurrentMinute
	+11	+13					

GP 内部 アドレス	バイト		内容	位	ビット	詳細	Hシステム変数
	10 進数	8 進数					
LS0006	+12	+14	ステータス	下位	0 ~ 1	予約	—
					2	プリント中	#H_Status_Print
					3	データ表示部品 設定値書き込み	—
					4 ~ 6	予約	—
	+13	+15		上位	7	シリアルマルチリンク 時に他の表示器が PLC 専有	#H_Status_PLCmonopoly
					0	データ表示部品 入力エラー	—
					1	表示 ON/OFF 0:ON、1:OFF	#H_Status_DisponOff
					2	バックライト切れ検出	—
3 ~ 7	予約	—					
LS0007	+14	+16	予約	—	予約	—	
	+15	+17					
LS0008	+16	+20	切り替え画面番号	—	1 ~ 9999 (BIN) 1 ~ 7999 (BCD) ¹	#H_ChangeScreenNo	
	+17	+21					
LS0009	+18	+22	画面表示の ON/ OFF	—	FFFFh で画面表示を OFF 0h で画面表示	—	
	+19	+23					
LS0010	+20	+24	時計「年」の設定 値	—	西暦の下 2 桁 (BCD2 桁) (15 ビットめは時計 データの 書き換え用フラグ)	—	
	+21	+25					
LS0011	+22	+26	時計「月」の設定 値	—	01 ~ 12 月 (BCD2 桁)	—	
	+23	+27					
LS0012	+24	+30	時計「日」の設定 値	—	01 ~ 31 日 (BCD2 桁)	—	
	+25	+31					
LS0013	+26	+32	時計「時分」の設 定値	—	00 ~ 23 時、00 ~ 59 分 (BCD4 桁)	—	
	+27	+33					

GP 内部 アドレス	バイト		内容	位	ビット	詳細	H システム変数
	10 進 数	8 進 数					
LS0014	+28	+34	コントロール	下位	0	バックライト OFF	—
					1	ブザー ON ²	#H_Control_Buzzer
					2	プリント開始	#H_Control_HardcopyPrint
					3	予約	—
					4	ブザー音	#H_Control_BuzzerEnable
					5	AUX 出力 ²	—
					6	予約	—
	7	シリアルマルチリンク 接続時に PLC を専有		#H_Control_PLCmonopoly			
	+29	+35		上位	0 ~ 2	予約	—
					3	印字中止	#H_Control_PrintCancel
4 ~ 7			予約		—		
LS0015	+30	+36	予約	—	予約	—	
	+31	+37					
LS0016	+32	+40	ウィンドウコン ロール	下位	0	ウィンドウ表示 0:OFF、1:ON	#H_GlobalWindowControl
					1	ウィンドウの重なり順 序の入れ替え 0: 可、1: 不可	
					2 ~ 7	予約	
	+33	+41		上位	0 ~ 7	予約	
LS0017			+34		+42	ウィンドウ登録番 号	—
	+35	+43					
LS0018	+36	+44	ウィンドウ表示位 置 (X 座標)	—	間接指定で選択したグ ローバ ルウィンドウの左上隅 の表示 位置 (BIN/BCD)	#H_GlobalWindowPosX	
	+37	+45					
LS0019	+38	+46	ウィンドウ表示位 置 (Y 座標)	—		#H_GlobalWindowPosY	
	+39	+47					

1 システム設定ウィンドウ [本体設定] の [表示設定] タブで [接続機器へ反映] を指定していない場合、タッチで切り替えられた画面番号を接続機器から元の番号に戻すことができません。これを強制的に変更させるには、アドレスのビット 15 を ON にし、ビット 0 ~ 14 に切り替えたい画面番号を設定します。(つまり 8000h+ 切り替えたい画面番号の値をアドレスに入力します。)

例) 画面番号 1999 に強制画面切り替えを行う場合
8000(h)+1999(h)=9999(h) 「9999」をアドレスに書き込む。

注意)

強制画面切り替えが有効の間 (ビット 15 が ON の間) は、タッチによる画面切り替えはできません。
データ形式が BCD の場合は、2000 番以降の画面に切り替えることはできません。

- 2 使用するには [システム設定ウィンドウ] - [本体設定] - [操作設定] の [タッチプザーの音] にチェックを入れてください。

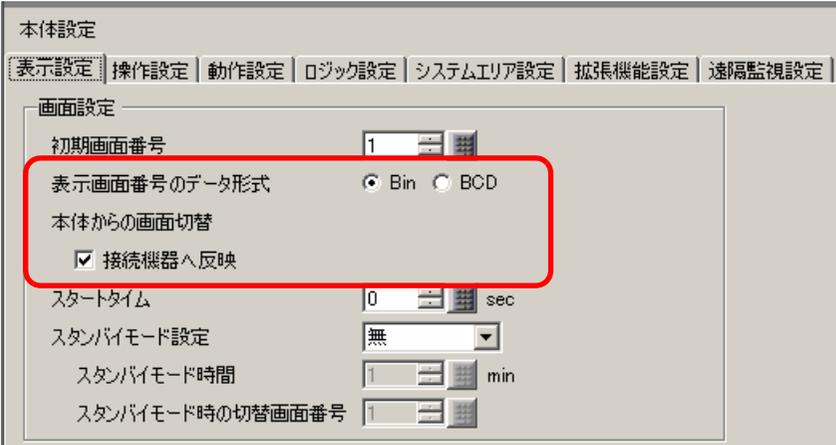
重要

- 通常、画面表示の OFF を行う場合、10 進数で +28 バイトアドレス、8 進数で +34 バイトアドレス (コントロール) のバックライト OFF のビットを使用せず、10 進数で +18 バイトアドレス、8 進数で +22 バイトアドレス (画面表示の ON/OFF) をご使用ください。
-

各アドレスの詳細

内容	詳細																																												
表示中画面番号	現在 GP が表示している画面の番号が格納されます。																																												
エラーステータス	GP のエラー発生時に、対応するビットが ON します。一度 ON になったビットは電源を OFF してから再度 ON するか、オフラインモードから再度運転モードに切り替わるまで保持されます。																																												
	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="385 372 502 455">ビット (16 ビット長)</th> <th data-bbox="502 372 614 455">ビット (8 ビット長)</th> <th data-bbox="614 372 886 455">内容</th> <th data-bbox="886 372 1260 455">詳細</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="385 455 502 488">0 ~ 2</td> <td data-bbox="502 455 614 488">0 ~ 2</td> <td data-bbox="614 455 886 488">未使用</td> <td data-bbox="886 455 1260 488"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="385 488 502 571">3</td> <td data-bbox="502 488 614 571">3</td> <td data-bbox="614 488 886 571">画面記憶メモリチェックサム</td> <td data-bbox="886 488 1260 571">プロジェクトファイルに異常があります。再度転送してください。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="385 571 502 604">4</td> <td data-bbox="502 571 614 604">4</td> <td data-bbox="614 571 886 604">SIO フレミング</td> <td data-bbox="886 571 1260 604"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="385 604 502 637">5</td> <td data-bbox="502 604 614 637">5</td> <td data-bbox="614 604 886 637">SIO パリティ</td> <td data-bbox="886 604 1260 637"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="385 637 502 670">6</td> <td data-bbox="502 637 614 670">6</td> <td data-bbox="614 637 886 670">SIO オーバーラン</td> <td data-bbox="886 637 1260 670"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="385 670 502 703">7</td> <td data-bbox="502 670 614 703">7</td> <td data-bbox="614 670 886 703">未使用</td> <td data-bbox="886 670 1260 703"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="385 703 502 736">8 ~ 9</td> <td data-bbox="502 703 614 736">0 ~ 1</td> <td data-bbox="614 703 886 736">未使用</td> <td data-bbox="886 703 1260 736"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="385 736 502 846">10</td> <td data-bbox="502 736 614 846">2</td> <td data-bbox="614 736 886 846">バックアップ電池の電圧低下</td> <td data-bbox="886 736 1260 846">バックアップ用リチウム電池の電圧が低下したときに ON。バックアップ電池は時計と SRAM に使用されています。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="385 846 502 909">11</td> <td data-bbox="502 846 614 909">3</td> <td data-bbox="614 846 886 909">PLC 通信異常</td> <td data-bbox="886 846 1260 909">ビット 4 ~ 6 の原因、その他による接続機器 (PLC など) との通信異常</td> </tr> <tr> <td data-bbox="385 909 502 942">12 ~ 15</td> <td data-bbox="502 909 614 942">4 ~ 7</td> <td data-bbox="614 909 886 942">未使用</td> <td data-bbox="886 909 1260 942"></td> </tr> </tbody> </table>	ビット (16 ビット長)	ビット (8 ビット長)	内容	詳細	0 ~ 2	0 ~ 2	未使用		3	3	画面記憶メモリチェックサム	プロジェクトファイルに異常があります。再度転送してください。	4	4	SIO フレミング		5	5	SIO パリティ		6	6	SIO オーバーラン		7	7	未使用		8 ~ 9	0 ~ 1	未使用		10	2	バックアップ電池の電圧低下	バックアップ用リチウム電池の電圧が低下したときに ON。バックアップ電池は時計と SRAM に使用されています。	11	3	PLC 通信異常	ビット 4 ~ 6 の原因、その他による接続機器 (PLC など) との通信異常	12 ~ 15	4 ~ 7	未使用	
	ビット (16 ビット長)	ビット (8 ビット長)	内容	詳細																																									
	0 ~ 2	0 ~ 2	未使用																																										
	3	3	画面記憶メモリチェックサム	プロジェクトファイルに異常があります。再度転送してください。																																									
	4	4	SIO フレミング																																										
	5	5	SIO パリティ																																										
	6	6	SIO オーバーラン																																										
	7	7	未使用																																										
	8 ~ 9	0 ~ 1	未使用																																										
10	2	バックアップ電池の電圧低下	バックアップ用リチウム電池の電圧が低下したときに ON。バックアップ電池は時計と SRAM に使用されています。																																										
11	3	PLC 通信異常	ビット 4 ~ 6 の原因、その他による接続機器 (PLC など) との通信異常																																										
12 ~ 15	4 ~ 7	未使用																																											
時計データの現在値	いずれも BCD で格納されます。[年] は西暦の下 2 桁、[月] は 01 ~ 12 月の 2 桁、[日] は 01 ~ 31 日の 2 桁、[時分] は 00 ~ 23 時の 2 桁と 00 ~ 59 分の 2 桁で合計 4 桁です。																																												
	<p data-bbox="385 1074 477 1107">MEMO</p> <ul data-bbox="385 1122 1260 1180" style="list-style-type: none"> • 曜日の現在値は、LS9310 に格納されます。この曜日は、GP に搭載されている時計 IC(RTC) の年、月、日から計算した曜日です。 <p data-bbox="385 1209 861 1238">LS9310 に格納される値は以下のとおりです。</p> <table border="1" data-bbox="636 1238 1002 1528"> <thead> <tr> <th data-bbox="636 1238 732 1271">数値</th> <th data-bbox="732 1238 1002 1271">内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="636 1271 732 1304">0</td> <td data-bbox="732 1271 1002 1304">日曜日</td> </tr> <tr> <td data-bbox="636 1304 732 1336">1</td> <td data-bbox="732 1304 1002 1336">月曜日</td> </tr> <tr> <td data-bbox="636 1336 732 1369">2</td> <td data-bbox="732 1336 1002 1369">火曜日</td> </tr> <tr> <td data-bbox="636 1369 732 1402">3</td> <td data-bbox="732 1369 1002 1402">水曜日</td> </tr> <tr> <td data-bbox="636 1402 732 1435">4</td> <td data-bbox="732 1402 1002 1435">木曜日</td> </tr> <tr> <td data-bbox="636 1435 732 1468">5</td> <td data-bbox="732 1435 1002 1468">金曜日</td> </tr> <tr> <td data-bbox="636 1468 732 1501">6</td> <td data-bbox="732 1468 1002 1501">土曜日</td> </tr> <tr> <td data-bbox="636 1501 732 1534">7 以降</td> <td data-bbox="732 1501 1002 1534">未使用</td> </tr> </tbody> </table> <p data-bbox="385 1541 1260 1626">更新は、時計 IC の日付が変わった時点で更新されます。常時書き込みは行っていないため、部品などでこの領域を変更した場合、次回、時計 IC の日付が変わるまでは、この領域は更新されません。</p>	数値	内容	0	日曜日	1	月曜日	2	火曜日	3	水曜日	4	木曜日	5	金曜日	6	土曜日	7 以降	未使用																										
数値	内容																																												
0	日曜日																																												
1	月曜日																																												
2	火曜日																																												
3	水曜日																																												
4	木曜日																																												
5	金曜日																																												
6	土曜日																																												
7 以降	未使用																																												

内容	詳細			
ステータス	必要ビットのみをビット単位で監視してください。予約ビットはGPのシステムで使用している場合がありますのでON/OFFはしないでください。			
	ビット (16ビット 長)	ビット (8ビット 長)	内容	詳細
	0, 1	0, 1	予約	-
	2	2	プリント中	印刷中にビットがONします。このビットON中にオフライン画面に切り替えると、出力が乱れる場合があります。
	3	3	設定値書き込み	データ表示部品(設定値入力)による書き込みが発生することにビットが反転します。
	4 ~ 6	4 ~ 6	予約	-
	7	7	シリアルマルチリンク時に他の表示器がPLC専用	シリアルマルチリンク接続時に他の表示器がPLCを専有するとONします。
	8	0	データ表示部品 入力エラー	現在入力中のデータ表示部品が警報設定されている場合、警報範囲外の値を入力するとビットがONします。警報範囲内の値を入力するか画面が切り替わるとOFFになります。
	9	1	表示 ON/OFF (0:ON、1:OFF)	GP画面の表示のON/OFFを、接続機器(PLCなど)から検出できます。このビットは以下の場合に変化しません。 システムデータエリアの表示ON/OFFにFFFFhを書き込み、表示をOFFした場合 スタンバイ時間が経過し、自動で表示OFFになった場合 表示OFF時から画面切り替えやタッチなどで表示ONになった場合 MEMO • LS0014「コントロール」の0ビットめ(バックライトOFF)ではこのビットは変化しません。
	10	2	バックライト切れ検出	バックライト切れを検出するとこのビットがONします。
11 ~ 15	3 ~ 7	予約	-	

内容	詳細																		
<p>切り替え画面番号</p>	<p>切り替える画面番号を設定します。システム設定 [本体設定] - [基本設定] タブの、 [表示画面番号のデータ形式] と [本体からの画面切替 - 接続機器へ反映] の設定の有無により設定範囲が異なります。</p>  <p>[表示画面番号のデータ形式] が [BIN] の場合</p> <table border="1" data-bbox="436 813 1210 909"> <thead> <tr> <th>接続機器へ反映</th> <th>接続機器から画面切替</th> <th>本体 (スイッチ等) から画面切替</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>有</td> <td>1 ~ 9999</td> <td>1 ~ 9999</td> </tr> <tr> <td>無</td> <td>1 ~ 9999</td> <td>1 ~ 9999</td> </tr> </tbody> </table> <p>[表示画面番号のデータ形式] が [BCD] の場合</p> <table border="1" data-bbox="436 973 1210 1070"> <thead> <tr> <th>接続機器へ反映</th> <th>接続機器から画面切替</th> <th>本体 (スイッチ等) から画面切替</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>有</td> <td>1 ~ 7999</td> <td>1 ~ 7999</td> </tr> <tr> <td>無</td> <td>1 ~ 1999</td> <td>1 ~ 7999</td> </tr> </tbody> </table>	接続機器へ反映	接続機器から画面切替	本体 (スイッチ等) から画面切替	有	1 ~ 9999	1 ~ 9999	無	1 ~ 9999	1 ~ 9999	接続機器へ反映	接続機器から画面切替	本体 (スイッチ等) から画面切替	有	1 ~ 7999	1 ~ 7999	無	1 ~ 1999	1 ~ 7999
接続機器へ反映	接続機器から画面切替	本体 (スイッチ等) から画面切替																	
有	1 ~ 9999	1 ~ 9999																	
無	1 ~ 9999	1 ~ 9999																	
接続機器へ反映	接続機器から画面切替	本体 (スイッチ等) から画面切替																	
有	1 ~ 7999	1 ~ 7999																	
無	1 ~ 1999	1 ~ 7999																	
<p>画面表示の ON/OFF</p>	<p>「0h」のときは画面表示し、「FFFh」のときは画面表示が消えます。それ以外の値の場合は予約となります。画面表示が消えると (「FFFh」になると) 画面消去後 1 回目のタッチ入力は画面表示 ON の動作となります。</p>																		
<p>時計データの設定値</p>	<p>いずれも BCD で設定します。 [年] は西暦の下 2 桁、 [月] は 01 ~ 12 月の 2 桁、 [日] は 01 ~ 31 日の 2 桁、 [時分] は 00 ~ 23 時の 2 桁と 00 ~ 59 分の 2 桁で合計 4 桁です。</p> <p>設定例 <05 年 10 月 19 日 21 時 57 分></p> <p>現在のワードアドレス「+10」のデータが「0000」とした場合、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「月」→ワードアドレス「+11」に「0010」を書き込む ・「日」→ワードアドレス「+12」に「0019」を書き込む ・「時分」→ワードアドレス「+13」に「2157」を書き込む <p>ワードアドレス「+10」に「8005」を書き込むと、「+10」の 15 ビット目が ON になり時計データが書き換えられます。「8005」とは、「8000」で 15 ビット目を ON させ、「05」で「年」を設定します。</p>																		

内容	詳細			
コントロール	<p>MEMO</p> <ul style="list-style-type: none"> このアドレスは必ずビット単位で書き込んでください。ワードデータで書き込むと値が変わる場合があります。 予約ビットは GP のシステムでメンテナンスなどに使用している場合がありますので、必ず OFF にしてください。 			
	ビット (16ビット長)	ビット (8ビット長)	内容	詳細
	0	0	バックライト OFF	ON でバックライトが消灯し、OFF で点灯します。(LCD は点灯したままで、画面に配置しているスイッチ等の部品も動作する状態です) MEMO ・通常、画面表示を OFF する場合、ワードアドレス「+9」(画面表示の ON/OFF) をご使用ください。
	1	1	ブザー ON	0: 非出力、1: 出力
	2	2	プリント開始	0: 非出力、1: 出力 ON すると画面のハードコピーを開始します。 MEMO ・ステータス「ビット 2」(プリント中) が ON になったら、手動で OFF に戻してください。
	3	3	予約	0 固定
	4	4	ブザー音	コントロール「ビット 1」(ブザー ON) が ON の間のみ次の動作をします。 0: 出力、1: 非出力 ブザーを鳴りやめるときはこのビットを ON します。
	5	5	AUX 出力	コントロール「ビット 1」(ブザー ON) が ON の間のみ次の動作をします。 0: 出力、1: 非出力 AUX のブザー出力をやめるときはこのビットを ON します。
	6	6	予約	0 固定
	7	7	シリアルマルチリンク接続時に PLC を専有	シリアルマルチリンク接続時に PLC を専有すると ON します。
	8 ~ 10	0 ~ 2	予約	0 固定
	11	3	印字中止	0: 出力、1: 非出力 ON すると現在印字中のすべての印字機能を中止します。 MEMO ・印字中止後、ステータス「ビット 2」(プリント中) が OFF になったら、手動で OFF に戻してください。 ・印字中止ビットが ON しても、すでにプリンタ側のメモリに取り込まれているデータは印字されます。
12 ~ 15	4 ~ 7	(予約)	0 固定	

内容	詳細
ウィンドウ登録番号	間接指定で選択したグローバルウィンドウの登録番号を格納します。1 ~ 2000 (BIN / BCD)
ウィンドウ表示位置	間接指定で選択したグローバルウィンドウの左上隅の表示位置を格納します。「+18」は X 座標を、「+19」は Y 座標を示します。データ形式は BIN または BCD です。

付録 1.4.3 特殊リレー

- ⊘ 特殊リレーはライトプロテクトされていません。部品などでの ON/OFF やワード書き込みしないでください。

特殊リレーの構成は次のとおりです。

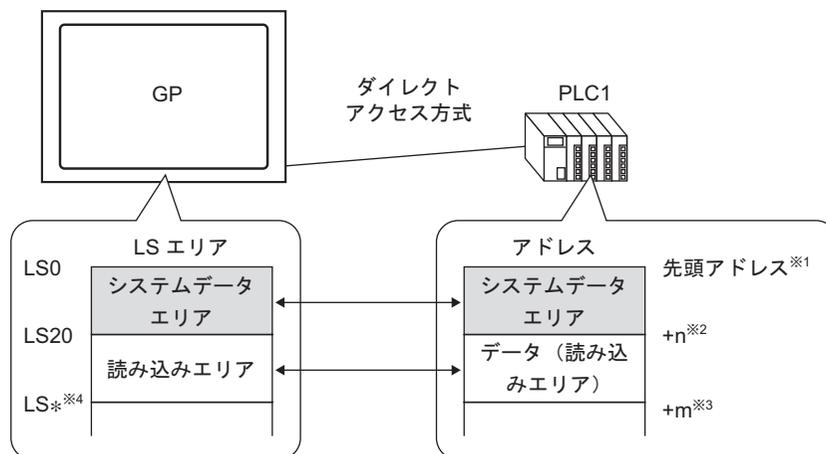
ダイレクトアクセス方式

アドレス	内容	Hシステム変数
LS2032	共通リレー情報	—
LS2033	ベース画面情報	—
LS2034	予約	—
LS2035	1秒バイナリカウンタ	—
LS2036	表示スキャンタイム	#H_DispscanTime
LS2037	通信サイクルタイム	—
LS2038	表示スキャンカウンタ	#H_DispscanCounter
LS2039	通信エラーコード	—
LS2040	トークン周回速度最大値	#H_MAXTokenSpeed
LS2041	トークン周回速度現在値	#H_CurrentTokenSpeed
LS2042	予約	—
LS2043		
LS2044		
LS2045		
LS2046		
LS2047		

内容	詳細
1 秒バイナリカウンタ (LS2035)	電源投入直後より 1 秒ごとにカウントアップします。データはバイナリです。
表示スキャンタイム (LS2036)	表示画面に設定されている部品の 1 つめの処理開始から、最後の部品の処理終了までの時間です。データはバイナリで単位は ms で格納されます。データは対象部品の全処理が完了した時点で更新されます。データの初期値は 0 です。 ± 10ms の誤差があります。
通信のサイクルタイム (LS2037)	システムデータエリアを割り付けられた接続機器 (PLC など) 内部のシステムデータエリア、および各種デバイスの処理開始から終了までの 1 サイクルの時間です。データはバイナリで単位は 10ms で格納されます。データはシステムデータエリアと対象デバイスの全処理が完了した時点で更新されます。データの初期値は 0 です。± 10ms の誤差があります。 MEMO <ul style="list-style-type: none"> 1 台の GP に対して複数の接続機器を接続している場合、システムデータエリアの割り付けができる接続機器は 1 台のみです。
表示スキャンカウンタ (LS2038)	表示画面に設定されている部品処理がひとつとおり完了するごとにカウントアップされます。データはバイナリです。
通信エラーコード (LS2039)	通信エラー発生時、最後に表示された通信エラーコードがバイナリで格納されます。
トークン周回速度最大値 (LS2040)	シリアルマルチリンク接続時のみ使用します。 トークンパケット (PLC へのコマンド発行権) の受け渡しが、複数台接続された表示器間で一周する時間の最大値です。単位は 10ms で格納されます。データは最大値が変化すること、または画面切り替えごとに更新されます。データの初期値は 0 です。± 10ms の誤差があります。
トークン周回速度現在値 (LS2041)	シリアルマルチリンク接続時のみ使用します。 トークンパケット (PLC へのコマンド発行権) の受け渡しが、複数台接続された表示器間で一周する時間の現在値です。単位は 10ms で格納されます。データは最大値が変化すること、または画面切り替えごとに更新されます。データの初期値は 0 です。± 10ms の誤差があります。

付録 1.4.4 接続機器へのシステムデータエリアの割り付け手順

接続機器（PLC など）から GP が表示している画面番号を参照したり、画面を切り替えるなど、GP のデータを自動的に参照・制御するには、GP 内部のシステムデータエリアを接続機器（PLC など）に割り付けてデータを共有します。



- 1 先頭アドレスは次に記載の手順どおり設定してください。
- 2 $n=0 \sim 20$ GP 内部で設定したシステムデータエリアの選択項目数によります。
- 3 読み込みエリアサイズです。
- 4 $\ast =$ 読み込みエリア先頭アドレス (20)+ 読み込みエリアサイズ (m)

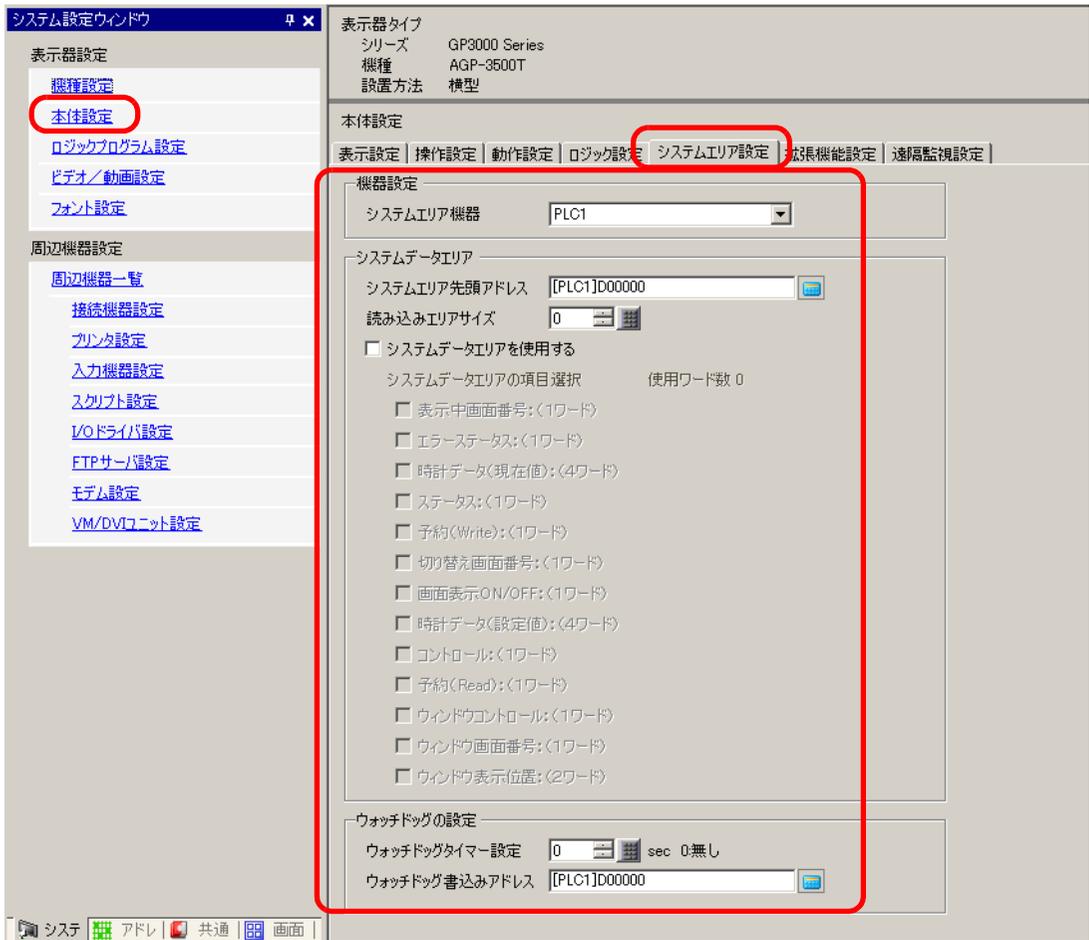
重要

- 1 台の GP に対して複数の接続機器を接続している場合、システムデータエリアの割り付けができる接続機器は 1 台のみです。
- システムデータエリアと読み込みエリア、または読み込みエリアとユーザーエリアの間にまたがって部品などのアドレスを設定しないでください。
- システムデータエリア内のアドレスを部品などのアドレスに設定する場合、データ長は 16 ビットで指定してください。

MEMO

- システムデータエリアに設定できるアドレスは接続機器（PLC など）により異なります。詳しくは GP-Pro EX 機器接続マニュアルをご参照ください。

- 1 [プロジェクト (F)] メニューから [システム設定 (C)] を選択するか、 をクリックし、システム設定ウィンドウの [本体設定] で [システムエリア設定] タブをクリックすると、次のような画面が表示されます。



- 2 GP と通信する接続機器 (PLC など) にアドレスを割り付けます。[システムエリア機器] で割り付け先の接続機器を選び (例「PLC1」) 連続 16 ワード分以上のアドレスを確保できる領域の先頭アドレスを [システムエリア先頭アドレス] に指定します。(例 [PLC1]D00000)

MEMO

- ・「読み込みエリア」では全画面共通で使用するデータや折れ線グラフの一括表示データを格納します。ご使用量にあわせて、最大 256 ワードまで [読み込みエリアサイズ] を指定できます。右記のアドレス (例「[PLC1]D00000」) から指定のワード数分が読み込みエリアとして LS エリアを占有します。

3 [システムデータエリアを使用する]にチェックを入れます。先頭アドレスから 16 ワード分は自動的に割り付けられます。

☞ 「付録 1.5.2 システムデータエリア」(A-29 ページ)

<input checked="" type="checkbox"/> システムデータエリアを使用する	
システムデータエリアの項目選択	使用ワード数 16
<input checked="" type="checkbox"/> 表示中画面番号:(1ワード)	[PLC1]D00000
<input checked="" type="checkbox"/> エラーステータス:(1ワード)	[PLC1]D00001
<input checked="" type="checkbox"/> 時計データ(現在値):(4ワード)	[PLC1]D00002
<input checked="" type="checkbox"/> ステータス:(1ワード)	[PLC1]D00006
<input checked="" type="checkbox"/> 予約(Write):(1ワード)	[PLC1]D00007
<input checked="" type="checkbox"/> 切り替え画面番号:(1ワード)	[PLC1]D00008
<input checked="" type="checkbox"/> 画面表示ON/OFF:(1ワード)	[PLC1]D00009
<input checked="" type="checkbox"/> 時計データ(設定値):(4ワード)	[PLC1]D00010
<input checked="" type="checkbox"/> コントロール:(1ワード)	[PLC1]D00014
<input checked="" type="checkbox"/> 予約(Read):(1ワード)	[PLC1]D00015
<input type="checkbox"/> ウィンドウコントロール:(1ワード)	
<input type="checkbox"/> ウィンドウ画面番号:(1ワード)	
<input type="checkbox"/> ウィンドウ表示位置:(2ワード)	

MEMO

- グローバルウィンドウをご使用の場合、[ウィンドウコントロール]、[ウィンドウ画面番号]、[ウィンドウ表示位置]の4ワード分を使用します。

☞ 「12.6 すべての画面でウィンドウを切り替えて表示したい」(12-17 ページ)

4 以上で設定が完了しました。

付録 1.5 システムエリア (メモリリンク専用エリア)

メモリリンク方式で通信する GP 内部にはシステムエリアが確保されています。この領域は、ホストとやりとりを行うための媒体となる領域です。

付録 1.5.1 システムエリア一覧

<メモリリンク方式のシステムエリア>

0000	システムデータエリア
0020	ユーザーエリア
2032	特殊リレーエリア
2048	予約
2096	ユーザーエリア
9000	9000 エリア
9999	

重要

- システムデータエリア内のアドレスを部品などのアドレスに設定する場合、データ長は 16 ビットで指定してください。

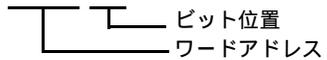
領域の名称	内容
システムデータエリア	GP の画面制御データやエラー情報など、システムの稼動に必要なデータを格納する領域です。書き込む内容が決まっています。 ☞「付録 1.5.2 システムデータエリア」(A-29 ページ)
ユーザーエリア	GP とホスト (パソコンなど) 間でデータのやりとりを行う領域です。ホスト側で GP のどのアドレスデータを書き込むかを決め、書き込むためのプログラムを作成します。GP 側ではアドレスに書き込まれたデータを表示するため別途部品の設定などを行います。スイッチ、データ表示器やキーボード部品により書き込まれたデータをホストが読み込むためには、ホスト側で GP のデータを読み出すためのプログラムを作成する必要があります。
特殊リレー	GP の通信時における各種ステータス情報を格納する領域です。 ☞「付録 1.5.3 特殊リレー」(A-37 ページ)
予約	GP 内部で使用しています。この領域は使用しないでください。正常に動作しません。
9000 エリア	折れ線グラフの過去データ、通信スキャンタイムなど GP の内部処理情報などが格納されています。一部設定可能な領域も存在します。

MEMO

- アドレスをビット指定する場合、ワードデバイスの後にビット位置を付けます。(00 ~ 15 で指定)

<例>ユーザーエリアのアドレス0020の02ビットを指定する場合

「002002」



付録 1.5.2 システムデータエリア

システムデータエリアの各アドレスに書き込むデータの内容を示します。

重要

- 通常、画面表示の OFF を行う場合、11 番地（コントロール）の「バックライト OFF」ビットを使用せず、12 番地（画面表示の ON/OFF）をご使用ください。

MEMO

- 表中の「ワードアドレス」は、[システムデータエリアを使用する]にチェックを入れて全項目を選択した場合の値です。

ワードアドレス	内容	ビット	詳細
0	予約	—	予約
1	ステータス	0 ~ 1	予約
		2	プリント中
		3	データ表示部品 設定値書き込み
		4 ~ 7	予約
		8	データ表示部品 入力エラー
		9	表示 ON/OFF 0:ON、1:OFF
		10	バックライト切れ検出
		11 ~ 15	予約
2	予約	—	予約
3	エラーステータス	0 ~ 2	未使用
		3	画面記憶メモリチェックサム
		4	SIO フレミング
		5	SIO パリティ
		6	SIO オーバーラン
		7 ~ 9	未使用
		10	バックアップ電池の電圧低下
		11 ~ 15	未使用
4	時計「年」の現在値	0 ~ 7	西暦の下 2 桁（BCD2 桁）
		8 ~ 15	未使用
5	時計「月」の現在値	0 ~ 7	01 ~ 12 月（BCD2 桁）
		8 ~ 15	未使用
6	時計「日」の現在値	0 ~ 7	01 ~ 31 日（BCD2 桁）
		8 ~ 15	未使用
7	時計「時」の現在値	0 ~ 7	00 ~ 23 時間（BCD2 桁）
		8 ~ 15	未使用
8	時計「分」の現在値	0 ~ 7	00 ~ 59 分（BCD2 桁）
		8 ~ 15	未使用
9	予約	—	予約
10	割り込み出力 (タッチ OFF 時)	—	ワードスイッチ（16 ビット）で書き込む場合、指をはなすと下位 8 ビットの内容が割り込みコードとして出力されます。 ¹

ワードアドレス	内容	ビット	詳細
11	コントロール	0	バックライト OFF
		1	ブザー ON ²
		2	プリント開始
		3	予約
		4	ブザー音
		5	AUX 出力 ²
		6	画面をタッチして画面復帰(「表示 OFF」から「表示 ON」状態)すると「FFh」を書き込む 0: 割り込み出力しない 1: 割り込み出力する
		7 ~ 10	予約
		11	印字中止
12 ~ 15	予約		
12	画面表示の ON/OFF	—	FFFFh で画面表示を OFF 0h で画面表示
13	割り込み出力 (タッチ ON 時)	—	ワードスイッチ (16 ビット) で書き込むと、 下位 8 ビットの内容が割り込みコードとして 出力されます。 ¹
14	予約	—	予約
15	表示中画面番号	—	1 ~ 9999 (BIN) 1 ~ 7999 (BCD) ³
16	ウィンドウコントロール	0	ウィンドウ表示 0:OFF、1:ON
		1	ウィンドウの重なり順序の入れ替え 0: 可、1: 不可
		12 ~ 15	予約
17	ウィンドウ登録番号	—	間接指定で選択したグローバルウィンドウの 登録番号 1 ~ 2000 (BIN / BCD)
18	ウィンドウ表示位置 (X 座標)	—	間接指定で選択したグローバルウィンドウの 左上隅の表示位置 (BIN/BCD)
19	ウィンドウ表示位置 (Y 座標)	—	

- 1 0x00 ~ 0x1F のデータを書き込むと通信に不都合が生じることがあります。システム設定ウィンドウ [本体設定] の [タッチパネル検出] の設定による影響は受けません。
ワードアドレス「10」は、指を離すと (タッチ OFF 時に) 割り込み出力し、ワードアドレス「13」は、押した (タッチ ON した) ときに割り込み出力します。
また、スイッチのブザーはそれぞれのタイミングで実行したことを知らせる意味で鳴らしています。
このため、マルチファンクションで 1 つのスイッチに「10」と「13」を設定した場合、タッチ ON 時とタッチ OFF 時、それぞれでブザーがなるようになります。
- 2 使用するには [システム設定ウィンドウ] - [本体設定] - [操作設定] の [タッチブザーの音] にチェックを入れてください。

- 3 システム設定ウィンドウ [本体設定] の [表示設定] タブで [接続機器へ反映] を指定していない場合、タッチで切り替えられた画面番号をホスト側から元の番号に戻すことができません。これを強制的に変更させるには、アドレスのビット 15 を ON にし、ビット 0 ~ 14 に切り替えたい画面番号を設定します。(つまり 8000h+ 切り替えたい画面番号の値をアドレスに入力します。)

例) 画面番号 1999 に強制画面切り替えを行う場合

8000(h)+1999(h)=9999(h) 「9999」をアドレスに書き込む。

注意)

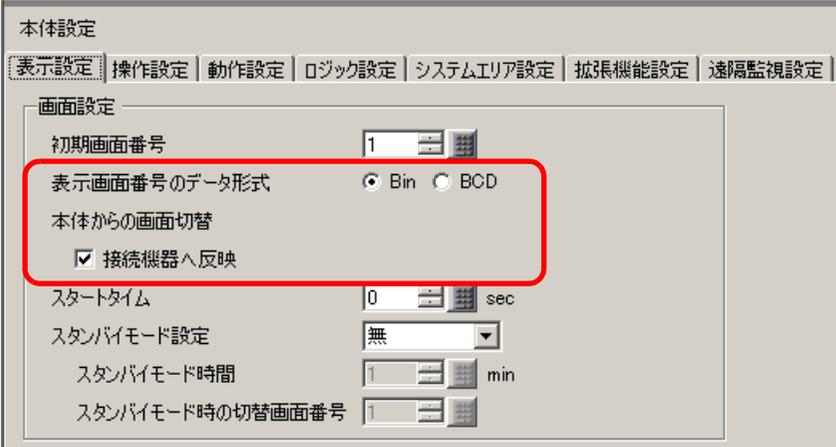
- 強制画面切り替えが有効の間 (ビット 15 が ON の間) は、タッチによる画面切り替えはできません。
- データ形式が BCD の場合は、2000 番以降の画面に切り替えることはできません。

内容	詳細		
予約	アドレス「0」,「2」,「9」,「14」は予約領域です。 ⓧ GP 内部で使用するため、データの書き込みは行わないでください。正しく動作しません。		
ステータス	必要ビットのみをビット単位で監視してください。予約ビットは GP のシステムでメンテナンスなどに使用している場合がありますので ON/OFF はしないでください。		
	ビット	内容	詳細
	0,1	予約	-
	2	プリント中	印刷中にビットが ON します。このビット ON 中にオフライン画面に切り替えると、出力が乱れる場合があります。
	3	設定値書き込み	データ表示部品（設定値入力）による書き込みが発生することにビットが反転します。
	4 ~ 7	予約	-
	8	データ表示部品 入力エラー	現在入力中のデータ表示部品が警報設定されている場合、警報範囲外の値を入力するとビットが ON します。警報範囲内の値を入力するか画面が切り替わると OFF になります。
	9	表示 ON/OFF (0:ON, 1:OFF)	GP 画面の表示の ON/OFF を、接続機器（PLC など）から検出できます。 このビットは以下の場合に変化します。 システムデータエリアの表示 ON/OFF に FFFFh を書き込み、表示を OFF した場合 スタンバイ時間が経過し、自動で表示 OFF になった場合 表示 OFF 時から画面切り替えやタッチなどで表示 ON になった場合 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin: 5px 0;">MEMO</div> <ul style="list-style-type: none"> • LS0014「コントロール」の 0 ビットめ（バックライト OFF）ではこのビットは変化しません。
10	バックライト切れ検出	バックライト切れを検出するとこのビットが ON します。	
11 ~ 15	予約	-	

内容	詳細		
エラーステータス	GPのエラー発生時に、対応するビットがONします。一度ONになったビットは電源をOFFしてから再度ONするか、オフラインモードから再度運転モードに切り替わるまで保持されます。		
	ビット	内容	詳細
	0 ~ 2	未使用	
	3	画面記憶メモリチェックサム	プロジェクトファイルに異常があります。再度転送してください。
	4	SIO フレミング	
	5	SIO パリティ	
	6	SIO オーバーラン	
	7 ~ 9	未使用	
	10	バックアップ電池の電圧低下	バックアップ用リチウム電池の電圧が低下したときにON。バックアップ電池は時計とSRAMに使用されています。
11 ~ 15	未使用		
 アドレスはシステム制御で利用しているため、データ表示部品による表示は行わないでください。			
時計データの現在値	<p>いずれもBCDで、上位0~7ビットめに格納されます。 [年]は西暦の下2桁、[月]は01~12月の2桁、[日]は01~31日の2桁、 [時]は00~23時の2桁、[分]は00~59分の2桁です。</p> <p>設定例 <05年10月19日21時57分></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「年」→ワードアドレス「4」に「0005」を書き込む ・「月」→ワードアドレス「5」に「0010」を書き込む ・「日」→ワードアドレス「6」に「0019」を書き込む ・「時」→ワードアドレス「7」に「0021」を書き込む ・「分」→ワードアドレス「8」に「0057」を書き込む 		
割り込み出力（タッチOFF時）	<p>ワードスイッチ（16ビット）で書き込む場合、指をはなしたときに下位8ビットの内容が割り込みコードとして出力されます。（コントロールコード「FFh」は出力されません。）</p> <p> 「00~1F」の範囲でコントロールコードを書き込まないでください。通信ができなくなる場合があります。</p>		

内容	詳細	
コントロール	<p>MEMO</p> <ul style="list-style-type: none"> このアドレスは必ずビット単位で書き込んでください。ワードデータで書き込むと値が変わる場合があります。 予約ビットは GP のシステムでメンテナンスなどに使用している場合がありますので、必ず OFF にしてください。 	
	0	<p>バックライト OFF</p> <p>ON でバックライトが消灯し、OFF で点灯します。(LCD は点灯したままで、画面に配置しているスイッチ等の部品も動作する状態です)</p> <p>MEMO</p> <ul style="list-style-type: none"> 通常、画面表示を OFF する場合、ワードアドレス「12」(画面表示の ON/OFF) をご使用ください。
	1	<p>ブザー ON</p> <p>0: 非出力、1: 出力</p>
	2	<p>プリント開始</p> <p>0: 非出力、1: 出力 ON すると画面のハードコピーを開始します。</p> <p>MEMO</p> <ul style="list-style-type: none"> ステータス「ビット 2」(プリント中) が ON になったら、手動で OFF に戻してください。
	3	<p>予約</p> <p>0 固定</p>
	4	<p>ブザー音</p> <p>コントロール「ビット 1」(ブザー ON) が ON の間のみ次の動作をします。 0: 出力、1: 非出力 ブザーを鳴りやめるときはこのビットを ON します。</p>
	5	<p>AUX 出力</p> <p>コントロール「ビット 1」(ブザー ON) が ON の間のみ次の動作をします。 0: 出力、1: 非出力 AUX のブザー出力をやめるときはこのビットを ON します。</p>
	6	<p>タッチパネルを押し事により表示 OFF から ON へ変更した時の割り込み出力</p> <p>(割り込みコード :FFh)0: 割り込み出力しない 1: 割り込み出力する</p>
	7 ~ 10	<p>予約</p> <p>0 固定</p>
	11	<p>印字中止</p> <p>0: 出力、1: 非出力 ON すると現在印字中のすべての印字機能を中止します。</p> <p>MEMO</p> <ul style="list-style-type: none"> 印字中止後、ステータス「ビット 2」(プリント中) が OFF になったら、手動で OFF に戻してください。 印字中止ビットが ON しても、すでにプリンタ側のメモリに取り込まれているデータは印字されます。
12 ~ 15	<p>(予約)</p> <p>0 固定</p>	

内容	詳細
画面表示の ON/OFF	<p>「0h」のときは画面表示し、「FFFFh」のときは画面表示が消えます。それ以外の値の場合は予約となります。画面表示が消えると（「FFFFh」になると）、画面消去後 1 回めのタッチ入力には画面表示 ON の動作となります。</p> <ul style="list-style-type: none">  アドレスはシステム制御で利用しているため、データ表示部品による表示は行わないでください。  アドレスはワード単位で制御しているため、ビット書き込みはできません。  「FFFFh」を書き込むと、表示中の画面が瞬時に消えます。GP オフラインモードの初期設定で指定したスタンバイモード時間で画面表示を消したい場合、「0000h」を書き込んでください。
割り込み出力（タッチ ON 時）	<p>ワードスイッチ（16 ビット）で書き込むと、下位 8 ビットの内容が割り込みコードとして GP からホストに出力されます。</p> <ul style="list-style-type: none">  「00 ~ 1F」の範囲でコントロールコードを書き込まないでください。通信ができなくなる場合があります。  アドレスはシステム制御で利用しているため、データ表示部品による表示は行わないでください。  アドレスはワード単位で制御しているため、ビット書き込みはできません。 <p>MEMO</p> <ul style="list-style-type: none"> • ワードスイッチ（16 ビット）でデータを書き込むと、割り込みデータとして出力されます。ホスト側でこの 1 バイトの割り込み出力を取り込むようにしておく（BASIC 言語の INPUT\$ 命令などで）取り込んだ割り込み出力を各サブルーチンへジャンプする判別などに使用すると、プログラムを簡素化できます。

内容	詳細																		
表示中画面番号	<p>切り替える画面番号を設定します。システム設定 [本体設定] - [基本設定] タブの、[表示画面番号のデータ形式] と [本体からの画面切替 - 接続機器へ反映] の設定の有無により設定範囲が異なります。</p>  <p>[表示画面番号のデータ形式] が [BIN] の場合</p> <table border="1" data-bbox="437 815 1210 909"> <thead> <tr> <th>接続機器へ反映</th> <th>接続機器から画面切替</th> <th>本体 (スイッチ等) から画面切替</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>有</td> <td>1 ~ 9999</td> <td>1 ~ 9999</td> </tr> <tr> <td>無</td> <td>1 ~ 9999</td> <td>1 ~ 9999</td> </tr> </tbody> </table> <p>[表示画面番号のデータ形式] が [BCD] の場合</p> <table border="1" data-bbox="437 975 1210 1070"> <thead> <tr> <th>接続機器へ反映</th> <th>接続機器から画面切替</th> <th>本体 (スイッチ等) から画面切替</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>有</td> <td>1 ~ 7999</td> <td>1 ~ 7999</td> </tr> <tr> <td>無</td> <td>1 ~ 1999</td> <td>1 ~ 7999</td> </tr> </tbody> </table> <p>⊘ アドレスはシステム制御で利用しているため、データ表示部品による表示は行わないでください。</p> <p>⊘ アドレスはワード単位で制御しているため、ビット書き込みはできません。</p>	接続機器へ反映	接続機器から画面切替	本体 (スイッチ等) から画面切替	有	1 ~ 9999	1 ~ 9999	無	1 ~ 9999	1 ~ 9999	接続機器へ反映	接続機器から画面切替	本体 (スイッチ等) から画面切替	有	1 ~ 7999	1 ~ 7999	無	1 ~ 1999	1 ~ 7999
接続機器へ反映	接続機器から画面切替	本体 (スイッチ等) から画面切替																	
有	1 ~ 9999	1 ~ 9999																	
無	1 ~ 9999	1 ~ 9999																	
接続機器へ反映	接続機器から画面切替	本体 (スイッチ等) から画面切替																	
有	1 ~ 7999	1 ~ 7999																	
無	1 ~ 1999	1 ~ 7999																	
ウィンドウコントロール	<p>ウィンドウ表示をコントロールします。</p> <p>☞「12.7.2 ワード動作」(12-23 ページ)</p>																		
ウィンドウ登録番号	<p>間接指定で選択したグローバルウィンドウの登録番号を格納します。1 ~ 2000 (BIN / BCD)</p>																		
ウィンドウ表示位置	<p>間接指定で選択したグローバルウィンドウの左上隅の表示位置を格納します。「+18」は X 座標を、「+19」は Y 座標を示します。データ形式は BIN または BCD です。</p>																		

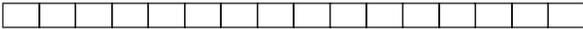
付録 1.5.3 特殊リレー

- ⊘ 特殊リレーはライトプロテクトされていません。部品などでの ON/OFF やワード書き込みしないでください。

特殊リレーの構成は次のとおりです。

メモリリンク方式

アドレス	内容
2032	共通リレー情報
2033	ベース画面情報
2034	予約
2035	1秒バイナリカウンタ
2036	表示スキャンタイム
2037	予約
2038	表示スキャンカウンタ
2039	予約
2040	
2041	
2042	
2043	
2044	
2045	
2046	
2047	

内容	詳細																																		
共通リレー情報 (2032)	<div style="text-align: center;"> 15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1 0 ビット  </div> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">ビット</th> <th style="width: 90%;">内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>予約</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>画面（ベース、ウィンドウ）切り替えから部品処理が完了するまでの間 ON になります。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>予約。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>電源投入直後の初期画面を表示している間 ON になります。</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>常時 ON になっています。</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>常時 OFF になっています。</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>バックアップ SRAM のデータが消えたときに ON します。 (バックアップ SRAM 搭載の GP のみ)</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>D スクリプト使用時、BCD エラーが発生すると ON になります。</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>D スクリプト使用時、ゼロ割算エラーが発生すると ON になります。</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>ファイリングデータでバックアップ SRAM に転送できなかった場合に ON します。</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>ファイリングデータのコントロールワードアドレスによる転送で、PLC¹ → SRAM の転送ができなかった場合に ON します。 また、特殊データ表示器（ファイリング）による PLC 間の転送で、転送完了ビットアドレスありの場合のみ、PLC¹ → エリア、PLC¹ → SRAM の転送ができなかった場合に ON します。</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>ファイリングデータで特殊データ表示器（ファイリング）による SRAM ↔ LS エリア¹ 間の転送中の際 ON になります。</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>D スクリプト使用時、memcpy()、アドレスオフセット指定の読み出しで通信エラーが発生すると ON になります。正常にデータ読み出しが終了すると OFF になります。</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>[システム設定]の[スクリプト設定]で[D スクリプト/グローバルD スクリプト]を設定していないプロジェクトで、D スクリプト/グローバルD スクリプトの[SIO ポート操作]のラベル設定（送信関数、受信関数、コントロール、ステータスの読み出し、受信データ数の読み出し）を実行すると ON します。</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>[システム設定]の[スクリプト設定]で[D スクリプト/グローバルD スクリプト]を設定しているプロジェクトで、拡張スクリプト専用の[文字列操作]関数などを実行すると ON します。また、[システム設定]の[スクリプト設定]で[拡張スクリプト]を設定しているプロジェクトで、D スクリプト/グローバルD スクリプト用[SIO ポート操作]の送受信（IO_WRITE、IO_READ）を実行しても ON になります。</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>予約</td> </tr> </tbody> </table> <p>1 メモリリンク方式の場合、システムエリア内の「ユーザーエリア」を示します。</p>	ビット	内容	0	予約	1	画面（ベース、ウィンドウ）切り替えから部品処理が完了するまでの間 ON になります。	2	予約。	3	電源投入直後の初期画面を表示している間 ON になります。	4	常時 ON になっています。	5	常時 OFF になっています。	6	バックアップ SRAM のデータが消えたときに ON します。 (バックアップ SRAM 搭載の GP のみ)	7	D スクリプト使用時、BCD エラーが発生すると ON になります。	8	D スクリプト使用時、ゼロ割算エラーが発生すると ON になります。	9	ファイリングデータでバックアップ SRAM に転送できなかった場合に ON します。	10	ファイリングデータのコントロールワードアドレスによる転送で、PLC ¹ → SRAM の転送ができなかった場合に ON します。 また、特殊データ表示器（ファイリング）による PLC 間の転送で、転送完了ビットアドレスありの場合のみ、PLC ¹ → エリア、PLC ¹ → SRAM の転送ができなかった場合に ON します。	11	ファイリングデータで特殊データ表示器（ファイリング）による SRAM ↔ LS エリア ¹ 間の転送中の際 ON になります。	12	D スクリプト使用時、memcpy()、アドレスオフセット指定の読み出しで通信エラーが発生すると ON になります。正常にデータ読み出しが終了すると OFF になります。	13	[システム設定]の[スクリプト設定]で[D スクリプト/グローバルD スクリプト]を設定していないプロジェクトで、D スクリプト/グローバルD スクリプトの[SIO ポート操作]のラベル設定（送信関数、受信関数、コントロール、ステータスの読み出し、受信データ数の読み出し）を実行すると ON します。	14	[システム設定]の[スクリプト設定]で[D スクリプト/グローバルD スクリプト]を設定しているプロジェクトで、拡張スクリプト専用の[文字列操作]関数などを実行すると ON します。また、[システム設定]の[スクリプト設定]で[拡張スクリプト]を設定しているプロジェクトで、D スクリプト/グローバルD スクリプト用[SIO ポート操作]の送受信（IO_WRITE、IO_READ）を実行しても ON になります。	15	予約
	ビット	内容																																	
0	予約																																		
1	画面（ベース、ウィンドウ）切り替えから部品処理が完了するまでの間 ON になります。																																		
2	予約。																																		
3	電源投入直後の初期画面を表示している間 ON になります。																																		
4	常時 ON になっています。																																		
5	常時 OFF になっています。																																		
6	バックアップ SRAM のデータが消えたときに ON します。 (バックアップ SRAM 搭載の GP のみ)																																		
7	D スクリプト使用時、BCD エラーが発生すると ON になります。																																		
8	D スクリプト使用時、ゼロ割算エラーが発生すると ON になります。																																		
9	ファイリングデータでバックアップ SRAM に転送できなかった場合に ON します。																																		
10	ファイリングデータのコントロールワードアドレスによる転送で、PLC ¹ → SRAM の転送ができなかった場合に ON します。 また、特殊データ表示器（ファイリング）による PLC 間の転送で、転送完了ビットアドレスありの場合のみ、PLC ¹ → エリア、PLC ¹ → SRAM の転送ができなかった場合に ON します。																																		
11	ファイリングデータで特殊データ表示器（ファイリング）による SRAM ↔ LS エリア ¹ 間の転送中の際 ON になります。																																		
12	D スクリプト使用時、memcpy()、アドレスオフセット指定の読み出しで通信エラーが発生すると ON になります。正常にデータ読み出しが終了すると OFF になります。																																		
13	[システム設定]の[スクリプト設定]で[D スクリプト/グローバルD スクリプト]を設定していないプロジェクトで、D スクリプト/グローバルD スクリプトの[SIO ポート操作]のラベル設定（送信関数、受信関数、コントロール、ステータスの読み出し、受信データ数の読み出し）を実行すると ON します。																																		
14	[システム設定]の[スクリプト設定]で[D スクリプト/グローバルD スクリプト]を設定しているプロジェクトで、拡張スクリプト専用の[文字列操作]関数などを実行すると ON します。また、[システム設定]の[スクリプト設定]で[拡張スクリプト]を設定しているプロジェクトで、D スクリプト/グローバルD スクリプト用[SIO ポート操作]の送受信（IO_WRITE、IO_READ）を実行しても ON になります。																																		
15	予約																																		
ベース画面情報 (2033)	<div style="text-align: center;"> 15 1 0 ビット  </div> <p style="text-align: center;">ベース画面切り替えから、部品処理が完了するまでの間 ON します。</p> <p style="text-align: right;">予約</p>																																		

内容	詳細
予約 (2034、2037、 2040 ~ 2047)	予約アドレスの値は不定です。使用しないでください。
1 秒バイナリカウンタ (2035)	電源投入直後より1秒ごとにカウントアップします。データはバイナリです。
表示スキャンタイム (2036)	表示画面に設定されている部品の1つめの処理開始から、最後の部品の処理終了までの時間です。データはバイナリで単位はmsで格納されます。データは対象部品の前処理が完了した時点で更新されます。データの初期値は0です。 ±10msの誤差があります。
表示スキャンカウンタ (2038)	表示画面に設定されている部品処理がひとつおりの完了するごとにカウントアップされます。データはバイナリです。

付録 1.6 制限事項

付録 1.6.1 GP 内部デバイス全体の制限事項

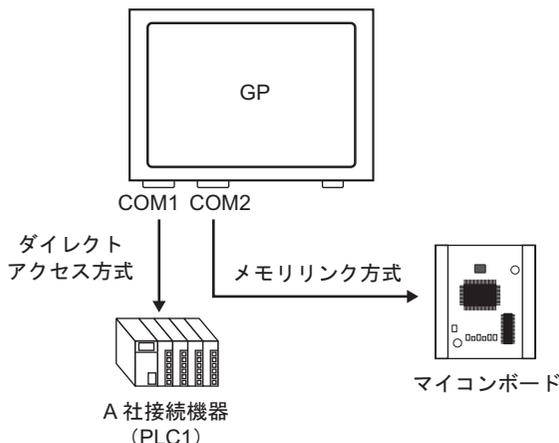
- GP の内部デバイス（メモリリンクのシステムエリアも含む）に格納されたデータは、GP の電源を OFF した時や、転送などで GP がオフライン状態になったタイミングに消去されます。ただし、ユーザーエリア内のデータはバックアップ SRAM にコピーできます。
☞ 「5.17.6 [システム設定ウィンドウ] の設定ガイド 動作設定・内部デバイスバックアップ」(5-159 ページ)

付録 1.6.2 特殊リレーの制限事項

- ❗ 通信ケーブルがはずれているなどで通信エラー状態が長時間続くとシステムエラーが発生することがあります。この場合、GP を一度リセットしてください。
- ❗ 1 秒バイナリカウンタ、表示スキャンカウンタの値をトリガアクション部品の監視ビットやスクリプト機能のトリガビットとして使用する場合、通信エラー状態が長時間続くとシステムエラーが発生することがあります。この場合、GP を一度リセットしてください。
- ⊘ 特殊リレーはライトプロテクトされていません。部品などでの ON/OFF やワード書き込みしないでください。

付録 1.6.3 ダイレクトアクセス/メモリリンク併用時の制限事項

< ダイレクトアクセス方式とメモリリンク方式を併用して接続機器と通信する場合 >



- 部品やスクリプト機能などでアドレス設定する場合、GP 内部デバイスは使い分けてください。例えば、ワードスイッチの「ワードアドレス」を設定する場合、GP 内部デバイスを使用すると次の 2 種類のデバイスコードを選択できますが、領域によって対応する通信方式が異なりますのでご注意ください。



- ・ [#INTERNAL]LS
ダイレクトアクセス方式で接続機器（PLC など）側に割り付けられるユーザーエリアです。メモリリンク方式での通信では使用できません。
- ・ [#INTERNAL]USR
ワークエリアとして自由に設定できるエリアです。ダイレクトアクセス、メモリリンク方式両方で使用できます。
- ・ [#MEMLINK]
メモリリンク方式での通信専用のユーザーエリアになります。ダイレクトアクセス方式での通信では使用できません。

- ダイレクトアクセス方式のLS エリアとメモリリンク方式専用エリア（システムエリア）は一部を除いて互いにリンクしています。

	ダイレクトアクセス方式 LS エリア		メモリリンク方式 エリア	
LS0000	システムデータ エリア	部分的に リンクしている	システムデータ エリア	0000
LS0020 (LS0276)	読み込み エリア		ユーザー エリア	0020
	ユーザー エリア			
LS2032	特殊リレー エリア	リンクしている	特殊リレー エリア	2032
LS2048	予約エリア	リンクしている	予約エリア	2048
LS2096	ユーザー エリア		ユーザー エリア	2096
LS8192	ユーザー エリア		ユーザー エリア	8192
LS9000	LS9000 エリア	リンクしている	LS9000 エリア	9000
LS9999				9999

- ダイレクトアクセス方式 (LS エリア) のシステムデータエリアと、メモリリンク専用エリアのシステムデータエリアは、部分的にリンクしています。対応表で詳細をご確認ください。

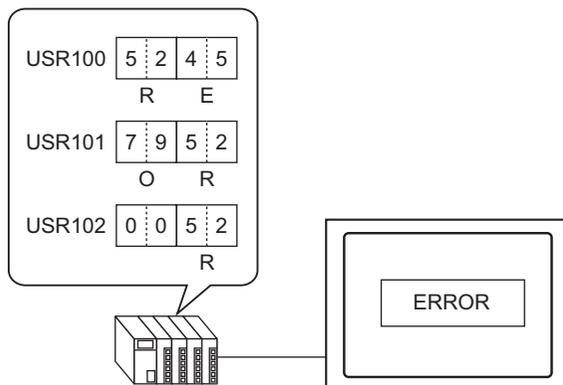
内容	ダイレクトアクセス方式	メモリリンク方式
表示中画面番号	LS0000	0015 (Read 時)
エラーステータス	LS0001	0003
時計データの現在値 (年)	LS0002	0004 (Read 時)
時計データの現在値 (月)	LS0003	0005 (Read 時)
時計データの現在値 (日)	LS0004	0006 (Read 時)
時計データの現在値 (時分)	LS0005	0007、0008 (Read 時)
ステータス	LS0006	0001
(予約)	LS0007	なし
切り替え画面番号	LS0008	0015 (Write 時)
画面表示の ON/OFF	LS0009	0012
時計データの設定値 (年)	LS0010	0004 (Write 時)
時計データの設定値 (月)	LS0011	0005 (Write 時)
時計データの設定値 (日)	LS0012	0006 (Write 時)
時計データの設定値 (時分)	LS0013	0007、0008 (Write 時)
コントロール	LS0014	0011
(予約)	LS0015	なし
ウィンドウコントロール	LS0016	0016
ウィンドウ登録番号	LS0017	0017
ウィンドウ表示位置 (X 座標)	LS0018	0018
ウィンドウ表示位置 (Y 座標)	LS0019	0019
割り込み出力データ (タッチ OFF 時)	なし	0010
割り込み出力データ (タッチ ON 時)	なし	0013

MEMO

- LS エリアは接続機器 (PLC など) と通信している部分もあります。例えばマイコンボードなどのホスト側から切り替え画面番号 (メモリリンク方式、0015) が 3 に書き換えられた場合、GP 内部でリンクしているダイレクトアクセス方式の LS0008 にも 3 が格納されますので、動作に影響がでないよう注意する必要があります。

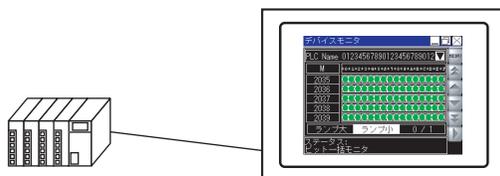
付録 1.6.4 USR エリア使用時の制限事項

- 文字列データの格納順序は次のとおりです。順序を変更することはできません。



付録 2 接続機器デバイスの現在値を一覧で確認したい(デバイスモニタ)

付録 2.1 詳細



指定した接続機器の任意のデバイスを GP 画面上でモニタできます。また GP 画面上から任意のアドレスの値を変更できます。デバッグ等に便利です。

モニタ専用の画面が用意されていますので、ベース画面を作画する必要はありません。

MEMO

- ・ LT シリーズでは本機能はご使用になれません。

デバイスモニタ機能が使用できる接続機器は次のとおりです。

メーカー	接続機器名
三菱電機(株)	A シリーズ CPU 直結
	A シリーズ イーサネット
	A シリーズ 計算機リンク
	Q シリーズ CPU 直結
	Q/QnA シリーズ イーサネット
	Q/QnA シリアルコミュニケーション
	QnA シリーズ CPU 直結
	FREQROL インバータ
	Q シリーズ QnU CPU イーサネット
	FX シリーズ CPU 直結
	FX シリーズ 計算機リンク
	QUTE シリーズ CPU 直結
オムロン(株)	C/CV シリーズ 上位リンク
	CS/CJ シリーズ 上位リンク
	CS/CJ シリーズ イーサネット
	調節器 CompoWay/F
PROFIBUS International	PROFIBUS DP スレーブ
Siemens AG	SIMATIC S7 MPI 直結
	SIMATIC S7 3964(R)/RK512
	SIMATIC S7 イーサネット
	SIMATIC S5 CPU 直結
Rockwell Automation	DF1 ¹
	EtherNet/IP (ControlLogix/CompactLogix シリーズネイティブは対象外) ¹
	DH-485 ¹

メーカー	接続機器名
(株)安川電機	MEMOBUS SIO
	MEMOBUS イーサネット
	MPシリーズ SIO(拡張)
	MPシリーズ イーサネット(拡張)
	インバータ SIO
横河電機(株)	パソコンリンク SIO
	パソコンリンク イーサネット
(株)ジェイテクト	TOYOPUC CMP-LINK SIO
	TOYOPUC CMP-LINK イーサネット
(株)キーエンス	KV-700/1000/3000/5000 CPU 直結
	KV-700/1000/3000/5000 Ethernet
	KVシリーズ CPU 直結
	KZ-10_80R/T シリーズ CPU 直結
Schneider Electric Industries	MODBUS SIO マスタ
	MODBUS TCP マスタ
	Uni-Telway
	MODBUS スレーブ
パナソニック電工(株)	FPシリーズ コンピュータリンク SIO
富士電機機器制御(株)	MICREX-Fシリーズ SIO
	MICREX-SXシリーズ SIO ¹
	MICREX-SXシリーズ イーサネット
(株)日立産機システム	Hシリーズ SIO ¹
	Hシリーズ イーサネット ¹
	インバータ Modbus RTU
	インバータ ASCII SIO
シャープMS(株)	JWシリーズ コンピュータリンク SIO
	JW コンピュータリンクイーサネット
理化工業(株)	調節器 MODBUS SIO
	温度調節計
(株)山武	デジタル調節計 SIO
GE Fanuc Automation	Series90 Ethernet
	シリーズ 90-30/70 SNP
	シリーズ 90-30/70 SNP-X
三菱重工業(株)	DIASYS Netmation MODBUS TCP
	HMI STEP3 イーサネット
LS 産電(株)	MASTER-K シリーズ Cnet
	XGT シリーズ FEnet
	XGT シリーズ Cnet
Saia-Burgess Controls Ltd.	Saia S-Bus SIO
(株)明電舎	UNISEQUE シリーズ イーサネット
ファナック	Power Mate シリーズ
ODVA	DeviceNet スレーブ
(株)日立製作所	S10V シリーズ イーサネット
	S10 シリーズ SIO

メーカー	接続機器名
神港テクノス(株)	調節計 SIO
東芝機械(株)	PROVISOR TC200
(株)東芝	コンピュータリンク SIO
	コンピュータリンク イーサネット
光洋電子工業(株)	KOSTAC/DL シリーズ CCM SIO
	KOSTAC/DL シリーズ MODBUS TCP
CC-Link Partner Association	CC-Link インテリジェントデバイス
(株)アイエイアイ	ロボシリンダ MODBUS SIO
FATEK AUTOMATION Corporation	FB シリーズ SIO
(株)チノー	調節計 MODBUS SIO
Modbus-IDA	汎用 MODBUS RTU SIO マスタ
	汎用 MODBUS TCP マスタ
(株)現代重工業	Hi4 ロボット
(株)デジタル	メモリリンク
	汎用 SIO
三明電子産業(株)	Si/CutyAxis シリーズ SIO
富士電機システムズ(株)	調節計 MODBUS SIO

- 1 デバイスモニタの一括モニタ機能で範囲外のアドレスを表示すると、範囲内のアドレスも「*」と表示されます。範囲外のアドレスを指定しないでください。

MEMO

- PLC のラダープログラムを読み込んで GP 画面上でモニタするための、ラダーモニタツールもご用意しています。ご使用の表示器機種がラダーモニタ機能をサポートしているかご確認の上、ご使用の PLC 用のラダーモニタツールを別途ご購入ください。ラダーモニタの操作方法は、ツールに付属の「PLC ラダーモニタオペレーションマニュアル」を参照してください。

付録 2.2 設定手順

GP-Pro EX での以下の設定を行います。

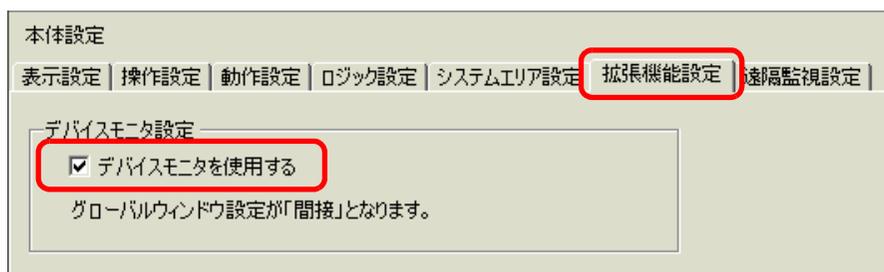
1 システム設定ウィンドウの [本体設定] を選択します。



MEMO

- ワークスペースに [システム設定ウィンドウ] タブが表示されていない場合は、[表示 (V)] メニューの [ワークスペース (W)] を選択し、[システム設定ウィンドウ (S)] を選択します。

2 [拡張機能設定] タブを開き、[デバイスモニタを使用する] にチェックを入れます。



3 プロジェクトファイルを GP に転送します。

MEMO

- デバイスモニタ画面はグローバルウィンドウを使用して GP 画面上に表示されます。そのためデバイスモニタ実行中は、他のグローバルウィンドウは表示できません。
- [デバイスモニタを使用する] にチェックを入れると、[動作設定] タブの [グローバルウィンドウ動作] は自動的に [間接] が指定されます。

付録 2.3 操作手順

デバイスモニタ画面を起動する

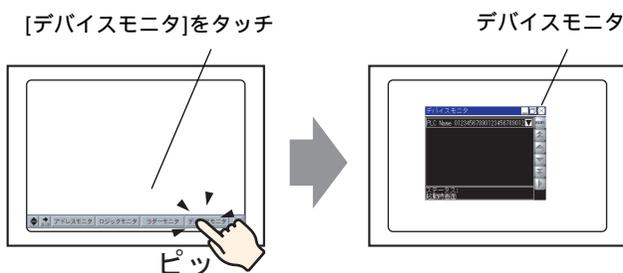
デバイスモニタ画面を起動するには次の3つの方法があります。

<システムメニューから起動する>

- 1 GP画面の右上隅→左下隅(または左下隅→右上隅)の順に0.5秒以内にタッチします。

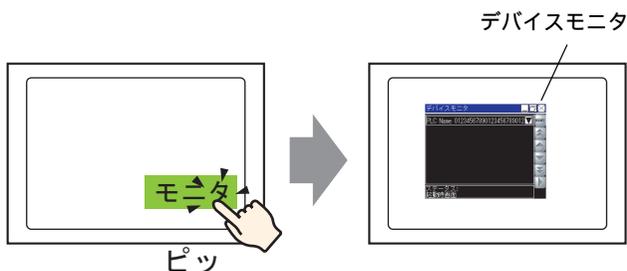


- 2 システムメニューが表示されます。[デバイスモニタ]をタッチすると、デバイスモニタ画面が表示されます。

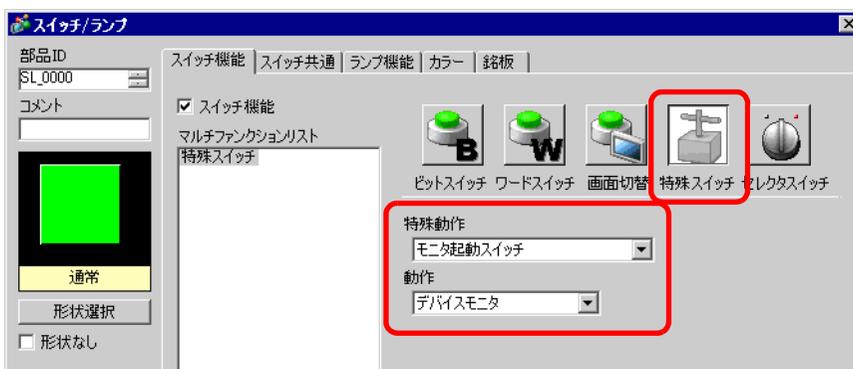


<デバイスモニタ起動用のスイッチで起動する>

あらかじめデバイスモニタ起動用のスイッチを作成・配置しておきます。



[部品(P)]メニューの[スイッチ/ランプ(C)]から[特殊スイッチ(P)]を選択するか  をクリックして画面に配置し、以下のように設定します。



<システム変数を使用して起動する>

システム変数「#H_DeviceMonitor」を ON します。

任意のデバイスをモニタする

1 モニタ方法を選択し、[メニューの終了]または[メニュー]バーの **X** をタッチしてください。

デバイスモニタ
ウィンドウを
最小化します。

ウィンドウサイズを変更します。

MEMO

- 解像度が QVGA の機種ではウィンドウサイズを変更できません。

デバイスモニタを終了します。

メニュー画面を終了します。

モニタ方法を
選択します。

機器名の表示/非表示を
選択します。

デバイスモニタ
を終了します。

任意のアドレスへ値を
書き込みます。
(A-54 ページ)

メニュー画面
を終了します。

2 モニタ画面が表示されます。

接続可能な機器一覧を
表示します。

メニュー画面を表示します。

前ページスクロール

上一行スクロール

下一行スクロール

次ページスクロール

モニタ開始/停止を切り替
えます。

SD	+0	+1	+2	+3
00100	0	0	0	0
00104	0	300	0	0
00108	0	0	0	0
00112	0	0	0	0
00116	0	0	0	0
00120	0	0	0	0

16進 符号無 符号付 8進

MEMO

- 機器名に GP 画面上で使用できない文字が含まれている場合は正しく表示されません。
- モニタする接続機器を変更したい場合は、機器名横の **▼** をタッチします。デバイスモニタ可能な機器の一覧が表示されますのでモニタしたい機器を選択してください。

デバイスモニタ

機器名選択

Q Series CPU Direct

PLC1

OK Cancel

ビット一括モニタ

指定したビットデバイスの、すべてのアドレスの状態を一覧表示します。ビット状態の表示形式は、ランプ表示または 0/1 表示から選択できます。

- 1 メニューの [ビット一括モニタ] をタッチします。
- 2 メニューの終了または [メニュー] バーの **X** をタッチします。
ビット一括モニタ画面が表示されます。



- 3 表示方法を [ランプ大]、[ランプ小]、[0/1] から選択します。ランプ表示の場合、**■**が ON、**■**が OFF を示します。

ワード一括モニタ

指定したワードデバイスの現在値を表示します。

- 1 メニューの [ワード一括モニタ] をタッチします。
- 2 メニューの終了または [メニュー] バーの **X** をタッチします。
ワード一括モニタ画面が表示されます。

- 3 データの表示形式を選択します。初期設定では 10 進数表示です。[16 進 /BCD]、[符号無]、[符号付]、[8 進] が選択できます。32 ビットデバイスの場合は [Float] も選択できます。



ランダムモニタ

モニタしたいワードアドレス、ビットアドレスのうち閲覧したいアドレスだけを選択し、表示させることができます。

MEMO

- ランダムモニタで閲覧できるのは 1 画面に表示可能な数のアドレスのみです。表示できるアドレスの数は、表示器の画面サイズやデバイスモニタのメニュー画面サイズによって異なります。
- 表示できるアドレス文字数には制限があります。表示可能な文字数は画面サイズによって異なります。

ウィンドウサイズ	最大表示可能文字数 (ASCII : 半角文字)
小 (320 × 240)	12
中 (480 × 360)	34
大 (640 × 480)	14

- ランダムモニタにて選択したアドレスは、本体の電源を切ると破棄されます。

- メニュー画面で [ランダムモニタ] をタッチします。
- メニューの終了または [メニュー] バーの [X] をタッチします。
ランダムモニタ画面が表示されます。

3 タイプ、アドレス、形式のいずれかのエリアをタッチします。



データを入力したい行をタッチしてください。

4 [変更] をタッチするとアドレス入力画面に移動します。



5 表示させたいアドレスを入力して [ENT] をタッチすると画面が切り替わります。
[OK] をタッチすると入力したアドレスがランダムモニタ画面に表示されます。



任意アドレスへの書き込み

任意のアドレスに GP 上から直接値を書き込むことができます。以下の手順は、ワードアドレス D100 に値「100」を書き込む場合を示しています。

- 1 メニュー画面から [任意アドレスへの書き込み] をタッチします。アドレス入力画面が表示されます。

MEMO

- アドレス入力画面は、各モニタ画面で任意のアドレスにタッチして表示させることもできます。

- 2 タイプで [ワード] を選択し、アドレス「D100」を指定して [ENT] をタッチします。



- 3 データの表示方法を選択し、書き込みたい値「100」を設定して [ENT] をタッチします。

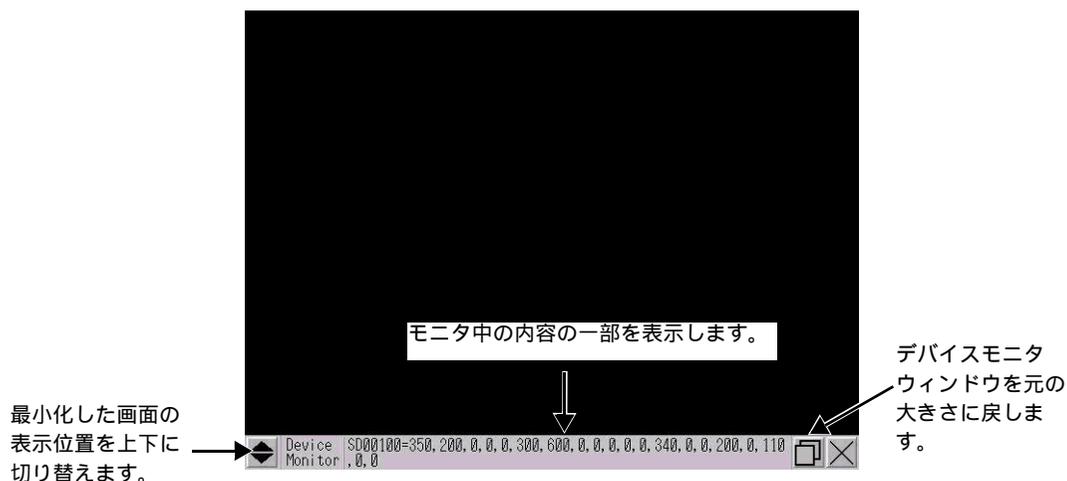


MEMO

- ビットアドレスに書き込む場合は、[ON] か [OFF] を選択して [ENT] をタッチします。

デバイスモニタ画面の最小化

タイトルバー上の  をタッチすると、画面の下方に最小表示されます。



デバイスモニタ画面の表示位置移動方法

MEMO

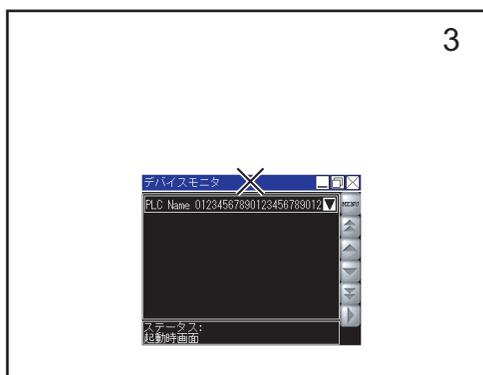
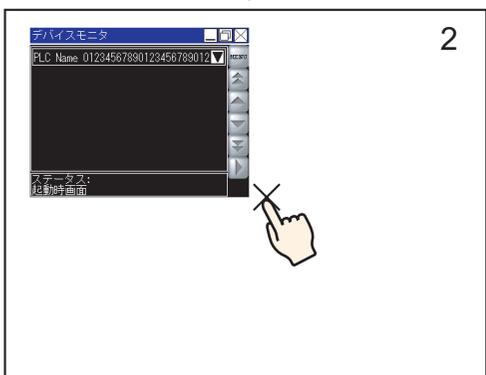
- 表示器の画面サイズとデバイスモニタ画面が同じサイズのときはこの機能は使用できません。



- デバイスモニタ画面の上部をタッチします。
- 画面上的移動させたい位置をタッチします。
- タッチした位置にデバイスモニタ画面が表示されます。

MEMO

- 指定した位置ではデバイスモニタ画面が画面からはみ出る場合は、表示できる位置に自動的に調整されます。



付録 2.4 制限事項

- デバイスモニタ画面はグローバルウィンドウを使用して表示されます。デバイスモニタ表示中は他のグローバルウィンドウを表示することができません。
- 本体の電源を切ると、デバイスモニタ画面の表示位置やサイズ、表示中の項目などの設定は破棄されます。
- 32ビットデバイスのビット表示はできません。
- ワードデバイスの2進数表示はできません。
- アドレスに範囲外の値の書き込みを行わないでください。エラーの原因となります。
- デバイスモニタ画面の表示言語はシステム言語に依存します。日本語以外の場合は英語表示となります。接続機器名のシステム言語で使用できない文字が使用されている場合は正しく表示されません。
- デバイスモニタ中は、プロトコルや表示画面のサイズによって画面の読み出しが遅くなる場合があります。
- 解像度がQVGAの機種ではウィンドウサイズを変更できません。

付録 3 スイッチ操作で複数のアクション（プログラム）を実行したい

付録 3.1 トリガアクション部品の設定ガイド

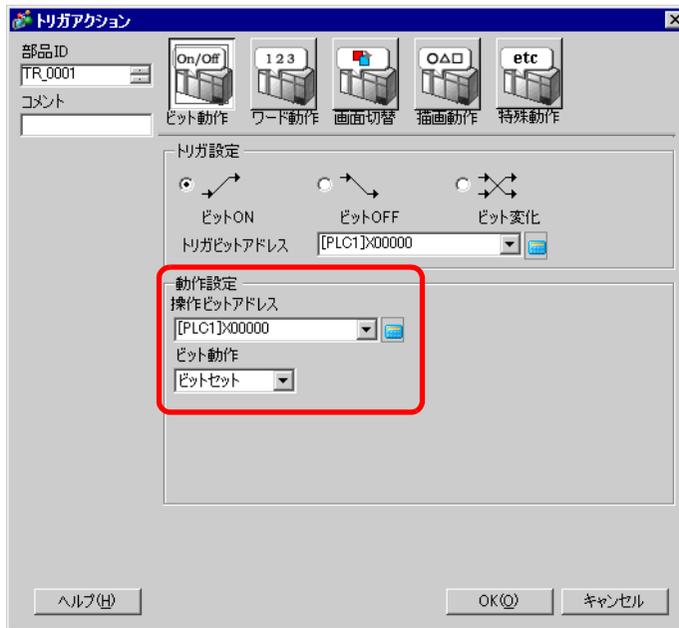
[部品]メニューの[トリガアクション]を選択すると、[トリガアクション一覧]ダイアログボックスが表示されます。[作成]または[編集]をクリックすると次の設定ダイアログボックスが表示されます。

MEMO

- 登録されたトリガアクション部品は、登録された順番に番号が付けられコンポーネントトレイに表示されます。コンポーネントトレイ内の部品を番号順に整列させるには、[編集]メニューの[トレイの自動整列]を実行してください。コンポーネントトレイ内の部品をダブルクリックすると編集ダイアログボックスが表示され、設定の変更ができます。

ビット動作

トリガとなるビットアドレスの状態変化によって、指定したビットアドレスを操作します。



設定項目		設定内容
トリガ設定	ビット ON	[トリガビットアドレス]の OFF → ON のタイミングで [動作設定] で指定するアクションが起動します。
	ビット OFF	[トリガビットアドレス]の ON → OFF のタイミングで [動作設定] で指定するアクションが起動します。
	ビット変化	[トリガビットアドレス]の ON/OFF が切り替わるごとに [動作設定] で指定するアクションが起動します。
	トリガビットアドレス	[動作設定] で指定するアクションを起動させるトリガとなるビットアドレスを指定します。

次のページに続きます。

設定項目		設定内容	
動作設定	操作ビットアドレス	アクションさせるビットアドレスを指定します。	
	ビット動作	ビットセット	[操作ビットアドレス]がONし、ONの状態を保持します。
		ビットリセット	[操作ビットアドレス]がOFFし、OFFの状態を保持します。
		反転	[操作ビットアドレス]のON/OFF状態が切り替わります。
		比較	比較条件が成立した場合に[操作ビットアドレス]がONします。ワードアドレス内のデータと定数を比較します。 
		比較用ワードアドレス	比較対象のワードアドレスを指定します。
		比較条件	比較子から選択します。
		定数	比較対象の定数を指定します。
		データ形式	定数のデータ形式を [Dec]、[BCD]、[Hex] から選択します。

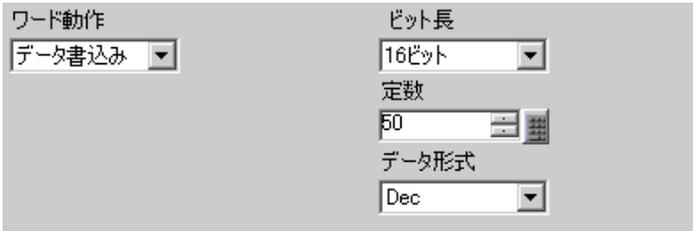
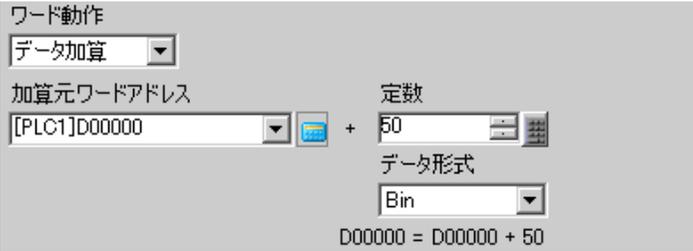
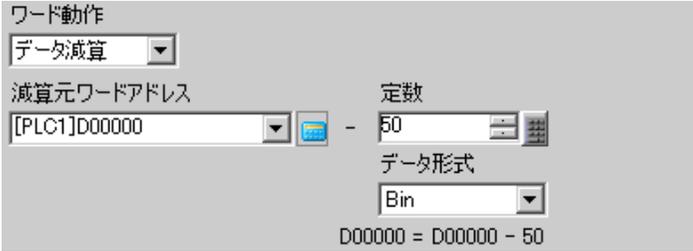
ワード動作

トリガとなるビットアドレスの状態変化によって、指定したワードアドレスを操作します。



設定項目		設定内容
トリガ設定	ビット ON	[トリガビットアドレス]の OFF → ON のタイミングで [動作設定] で指定するアクションが起動します。
	ビット OFF	[トリガビットアドレス]の ON → OFF のタイミングで [動作設定] で指定するアクションが起動します。
	ビット変化	[トリガビットアドレス]の ON/OFF が切り替わるごとに [動作設定] で指定するアクションが起動します。
	トリガビットアドレス	[動作設定] で指定するアクションを起動させるトリガとなるビットアドレスを指定します。
動作設定	操作ワードアドレス	アクションさせるワードアドレスを指定します。

次のページに続きます。

設定項目		設定内容	
動作設定	ワード動作	[操作ワードアドレス] に定数を書き込みます。 	
		ビット長	ワードアドレスで扱うデータ長を 16 ビットか 32 ビットで指定します。
		定数	書き込む定数を指定します。
		データ形式	定数のデータ形式を指定します。
	データ加算	[加算元ワードアドレス] に定数を加算した値を [操作ワードアドレス] に書き込みます。 	
		加算元ワードアドレス	定数と加算するワードアドレスを指定します。
		定数	加算する定数を指定します。
		データ形式	定数のデータ形式を指定します。
	データ減算	[減算元ワードアドレス] から定数を減算した値を [操作ワードアドレス] に書き込みます。 	
		減算元ワードアドレス	減算するワードアドレスを指定します。
		定数	減算する定数を指定します。
		データ形式	定数のデータ形式を指定します。

画面切替

トリガとなるビットアドレスの状態変化によって、画面切替を行います。



設定項目		設定内容	
トリガ設定	ビット ON	[トリガビットアドレス]の OFF → ON のタイミングで [動作設定] で指定するアクションが起動します。	
	ビット OFF	[トリガビットアドレス]の ON → OFF のタイミングで [動作設定] で指定するアクションが起動します。	
	ビット変化	[トリガビットアドレス]の ON/OFF が切り替わるごとに [動作設定] で指定するアクションが起動します。	
	トリガビットアドレス	[動作設定] で指定するアクションを起動させるトリガとなるビットアドレスを指定します。	
動作設定	画面切替動作	画面切替	表示中の画面から指定した画面へ表示を切り替えます。
		画面切替番号	表示させたい画面の番号を 1 ~ 9999 で指定します。[画面切替動作] で [画面切替] を選択した場合のみ指定できます。
		階層表示画面切替	画面切り替えに階層構造を持たせることができます。[画面切替動作] で [画面切替] を選択した場合のみ指定できます。32 階層まで設定できます。
	前画面に戻る	表示中の画面からその前に表示していた画面に戻ります。画面が階層構造になっている場合は、1 つ上の階層画面（親画面）に戻ります。	

描画動作

トリガとなるビットアドレスが OFF→ON すると、描画を行います。



設定項目		設定内容
トリガ設定	ビット ON	[トリガビットアドレス] の OFF → ON のタイミングで [動作設定] で指定するアクションが起動します。
	トリガビットアドレス	図形を描画させるトリガとなるビットアドレスを指定します。 MEMO <ul style="list-style-type: none"> 描画が表示されると自動で OFF します。 描画中は描画データを保持してください。
動作設定	データ格納先頭アドレス	描画する図形や属性などを描画データとしてワードアドレスに格納します。このワードアドレスの先頭アドレスを指定します。 ☞ 「描画データ」(A-64 ページ)
	データ読出しワード数	描画データのワード数を 5 ~ 7 で指定します。
	消去トリガビットアドレス	描画した図形を消去するための起動ビットを指定します。消去ビット ON で消去用画面を上書き表示します。 MEMO <ul style="list-style-type: none"> 消去用画面が表示されると自動で OFF します。
	消去画面番号	描画した図形を消去するための画面（ベース画面）の画面番号を指定します。消去画面はあらかじめ準備しておく必要があります。
	消去画面呼出位置	消去画面の呼び出す位置（X 座標、Y 座標）を指定します。 MEMO <ul style="list-style-type: none"> 画面左上が (0,0) となります。

次のページに続きます。

設定項目		設定内容
動作設定	起動後読出し	[トリガ設定]の条件成立時に描画データを読み出します。 MEMO • [データ格納ワードアドレス]が内部デバイスのときは使用できません。

描画データ

データ格納先頭アドレスより始まる描画データは以下のようになります。



• 描画種 (+0)

直線、四角形、円、ドットを表示させることができます。以下のように対応する値を格納します。

直線：「1」、四角形：「2」、円：「3」、ドット：「5」

• 表示属性 (+1)

表示属性は、線種、塗り込みパターンなど、各描画により異なります。ドットを描画する場合は、表示属性 (+1) のデータは無視されます。

< 直線を描画する場合 >



矢印

格納値	矢 印
0	無し
1	一端 (終点側)
2	両端

線種

格納値	線 種
0	(実線：太さ1ドット)
1	(点線：太さ1ドット)
2	(1点鎖線：太さ1ドット)
3	(2点鎖線：太さ1ドット)
4	(実線：太さ2ドット)
5	(点線：太さ2ドット)
6	(1点鎖線：太さ2ドット)
7	(2点鎖線：太さ2ドット)
8	(実線：太さ3ドット)
9	(実線：太さ5ドット)

< 四角形を描画する場合 >



モード

格納値	モード
0	線描画
1	塗り込み

線種 / 塗り込みパターン

格納値	線 種	塗り込みパターン
0	(実線 : 太さ 1 ドット)	
1	(点線 : 太さ 1 ドット)	
2	(1点鎖線 : 太さ 1 ドット)	
3	(2点鎖線 : 太さ 1 ドット)	
4		
5		
6		
7		
8	(実線 : 太さ 3 ドット)	
9	(実線 : 太さ 5 ドット)	

<円を描画する場合>



モード

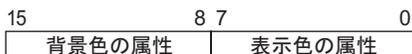
格納値	モード
0	線描画
1	塗り込み

線種 / 塗り込みパターン

格納値	線種	塗り込みパターン
0	————— (実線：太さ1ドット)	
1 (点線：太さ1ドット)	
2	- · - · - · - · (1点鎖線：太さ1ドット)	
3	- · - · - · - · (2点鎖線：太さ1ドット)	
4		
5		
6		
7		
8	————— (実線：太さ3ドット)	
9	————— (実線：太さ5ドット)	

• 色属性 (+2)

表示色、背景色、各プリnkを設定することができます。以下のように表示色の属性データを0～7ビットめ、背景色の属性データを8～15ビットめに格納します。

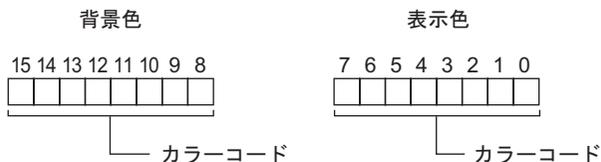


以下の表示色やプリnkの有無によって、属性データを格納するフォーマットが異なります。

- 256色表示（プリnkなし）
- 64色表示 + 3速プリnk
- モノクロ16階調 + 3速プリnk

< 256色表示（プリnkなし）の場合 >

以下のように表示色のカラーコードを0～7ビットめ、背景色のカラーコードを8～15ビットめに格納します。カラーコードについては下表を参照してください。

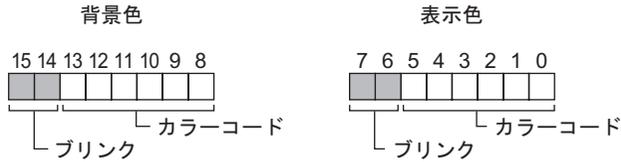


カラーコード表

カラーコード	RGB コード						
0	00h	64	6Eh	128	CCh	192	A2h
1	01h	65	7Eh	129	DCh	193	B2h
2	02h	66	7Fh	130	DDh	194	B3h
3	03h	67	6Fh	131	CDh	195	A3h
4	04h	68	2Eh	132	C4h	196	AAh
5	05h	69	3Eh	133	D4h	197	BAh
6	06h	70	3Fh	134	D5h	198	BBh
7	07h	71	2Fh	135	C5h	199	ABh
8	10h	72	82h	136	8Ch	200	E2h
9	11h	73	92h	137	9Ch	201	F2h
10	20h	74	93h	138	9Dh	202	F3h
11	30h	75	83h	139	8Dh	203	E3h
12	31h	76	8Ah	140	84h	204	EAh
13	21h	77	9Ah	141	94h	205	FAh
14	22h	78	9Bh	142	95h	206	FBh
15	32h	79	8Bh	143	85h	207	EBh
16	33h	80	C2h	144	28h	208	EEh
17	23h	81	D2h	145	38h	209	FEh
18	12h	82	D3h	146	39h	210	FFh
19	13h	83	C3h	147	29h	211	EFh
20	40h	84	CAh	148	68h	212	E6h
21	50h	85	DAh	149	78h	213	F6h
22	51h	86	DBh	150	79h	214	F7h
23	41h	87	CBh	151	69h	215	E7h
24	60h	88	CEh	152	6Ch	216	A Eh
25	70h	89	DEh	153	7Ch	217	B Eh
26	71h	90	DFh	154	7Dh	218	B Fh
27	61h	91	CFh	155	6Dh	219	A Fh
28	62h	92	C6h	156	2Ch	220	A6h
29	72h	93	D6h	157	3Ch	221	B6h
30	73h	94	D7h	158	3Dh	222	B7h
31	63h	95	C7h	159	2Dh	223	A7h
32	42h	96	8Eh	160	A0h	224	2Ah
33	52h	97	9Eh	161	B0h	225	3Ah
34	53h	98	9Fh	162	B1h	226	3Bh
35	43h	99	8Fh	163	A1h	227	2Bh
36	44h	100	86h	164	A8h	228	6Ah
37	54h	101	96h	165	B8h	229	7Ah
38	55h	102	97h	166	B9h	230	7Bh
39	45h	103	87h	167	A9h	231	6Bh
40	64h	104	0Ah	168	E0h	232	08h
41	74h	105	1Ah	169	F0h	233	18h
42	75h	106	1Bh	170	F1h	234	19h
43	65h	107	0Bh	171	E1h	235	09h
44	66h	108	4Ah	172	E8h	236	48h
45	76h	109	5Ah	173	F8h	237	58h
46	77h	110	5Bh	174	F9h	238	59h
47	67h	111	4Bh	175	E9h	239	49h
48	46h	112	4Eh	176	ECh	240	4Ch
49	56h	113	5Eh	177	FCh	241	5Ch
50	57h	114	5Fh	178	FDh	242	5Dh
51	47h	115	4Fh	179	EDh	243	4Dh
52	14h	116	0Eh	180	E4h	244	0Ch
53	15h	117	1Eh	181	F4h	245	1Ch
54	24h	118	1Fh	182	F5h	246	1Dh
55	34h	119	0Fh	183	E5h	247	0Dh
56	35h	120	C0h	184	ACH	248	90h
57	25h	121	D0h	185	BCh	249	91h
58	26h	122	D1h	186	BDh	250	81h
59	36h	123	C1h	187	ADh	251	88h
60	37h	124	C8h	188	A4h	252	98h
61	27h	125	D8h	189	B4h	253	99h
62	16h	126	D9h	190	B5h	254	89h
63	17h	127	C9h	191	A5h	255	80h

< 64 色表示 + 3 速ブリンクの場合 >

以下のように表示色のカラーコードを 0 ~ 5 ビットめ、背景色のカラーコードを 8 ~ 13 ビットめに格納します。カラーコードについては、256 色表示のカラーコード表を参照してください。

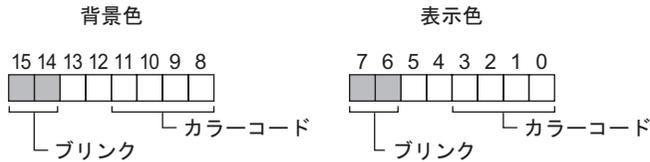


ブリンクの格納値について

7 ビットめ 15 ビットめ	6 ビットめ 14 ビットめ	ブリンク状態
0	0	なし
0	1	高速ブリンク
1	0	中速ブリンク
1	1	低速ブリンク

< モノクロ 16 階調 + 3 速ブリンクの場合 >

以下のように表示色のカラーコードを 0 ~ 3 ビットめ、背景色のカラーコードを 8 ~ 11 ビットめに格納します。カラーコードについては下表を参照してください。



カラーコード表

カラーコード	0	1	2	3	...	12	13	14	15
表示色	黒	→							白

ブリンクの格納値について

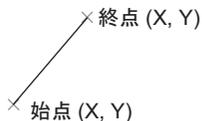
7 ビットめ 15 ビットめ	6 ビットめ 14 ビットめ	ブリンク状態
0	0	なし
0	1	高速ブリンク
1	0	中速ブリンク
1	1	低速ブリンク

- 座標データ (+3)

座標データは画面左上が (0,0) となります。ウィンドウ内の描画はウィンドウ登録した画面の左上が (0,0) となります。

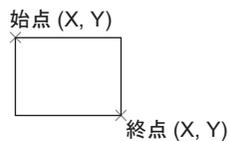
< 直線を描画する場合 >

+3	始点 X 座標
+4	始点 Y 座標
+5	終点 X 座標
+6	終点 Y 座標



< 四角形を描画する場合 >

+3	始点 X 座標
+4	始点 Y 座標
+5	終点 X 座標
+6	終点 Y 座標



< 円を描画する場合 >

+3	中心 X 座標
+4	中心 Y 座標
+5	半径

半径 : 0 は不可



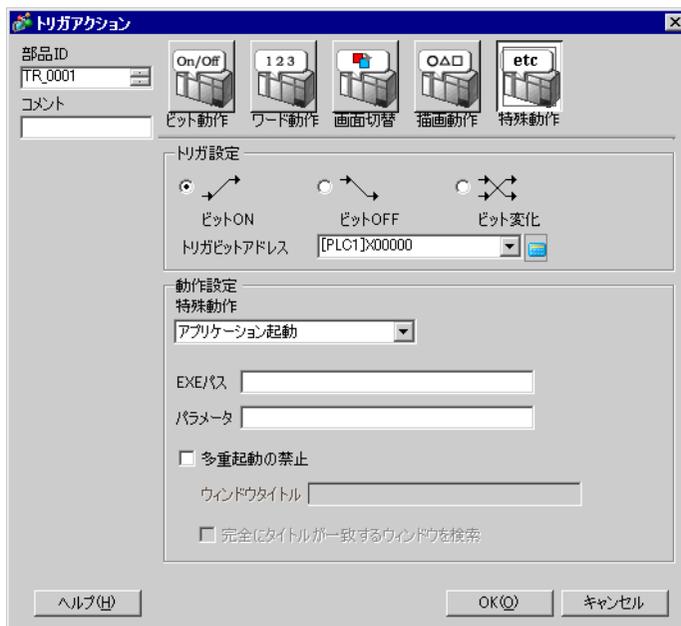
< ドットを描画する場合 >

+3	中心 X 座標
+4	中心 Y 座標



特殊動作

WinGP 使用時に、トリガとなるビットアドレスの状態変化によって、アプリケーションの起動や WinGP の終了を行います。



設定項目		設定内容
トリガ設定	ビット ON	[トリガビットアドレス]の OFF → ON のタイミングで [動作設定] で指定するアクションが起動します。
	ビット OFF	[トリガビットアドレス]の ON → OFF のタイミングで [動作設定] で指定するアクションが起動します。
	ビット変化	[トリガビットアドレス]の ON/OFF が切り替わるごとに [動作設定] で指定するアクションが起動します。
	トリガビットアドレス	[動作設定] で指定するアクションを起動させるトリガとなるビットアドレスを指定します。

次のページに続きます。

設定項目		設定内容
動作設定	特殊動作	動作を [アプリケーション起動]、[WinGP の終了] から選択します。
	アプリケーション起動	WinGP 上で起動するアプリケーションを設定します。
	EXE パス	起動したいアプリケーションの実行ファイル (.EXE) の絶対パスを入力します。最大 255 文字まで入力できます。
	パラメータ	実行ファイル起動時の引数を入力します。最大 255 文字まで入力できます。
	多重起動の禁止	設定しているアプリケーションがすでに起動している場合には、動作条件が成立しても起動を行わないよう設定します。 MEMO • 設定しているアプリケーションがすでに起動している場合は、設定しても何も実行されません。
	ウィンドウタイトル	多重起動を監視するための [ウィンドウタイトル] を設定します。最大 63 文字まで入力できます。 [ウィンドウタイトル] と一致するウィンドウが見つければ、指定したアプリケーションを起動しません。[ウィンドウタイトル] に何も設定されていない場合は、多重起動許可となります。
	完全にタイトルが一致するウィンドウを検索	[ウィンドウタイトル] に設定したタイトルと、完全に一致するウィンドウが見つければ、指定したアプリケーションを起動しません。
	WinGP の終了	
確認ダイアログを表示	WinGP 終了時に確認メッセージを表示します。	

MEMO

- IPC シリーズ以外を選択した場合、[特殊動作] のトリガアクションを設定しても動作しません。[特殊動作] の実行には WinGP の起動が必要です。

付録 3.2 トリガアクション部品の制限事項

- トリガビットの ON/OFF は、通信サイクルタイム¹ もしくは表示スキャンタイム² のいずれか長い方の時間以上保持してください。
- トリガビットアドレスを ON してから描画もしくは消去が完了するまでに画面切り替えが発生した場合、トリガビットアドレスは OFF されません。
- 格納する描画データは Bin データのみです。BCD データは使用できません。
- 格納する描画データが範囲外の場合は、デフォルト値の 0 となります。
- 座標データは画面左上が (0,0) となります。ウィンドウ内の描画はウィンドウ登録した画面の左上が (0,0) となります。
- 色属性の背景色に「黒 + 中速ブリンク」またはカラーコード 255 を指定すると、背景色の表示は透かし表示（透明色）となります。
- 画面切り替え直後、および電源投入直後の動作について以下に示します。

トリガ条件	ダイレクトアクセス方式		メモリリンク方式	
	ビット値「0」	ビット値「1」	ビット値「0」	ビット値「1」
0 → 1 (ビット立ち上がり)	×		×	×
1 → 0 (ビット立ち下がり)		×	×	×
0 ↔ 1 (ビットの状態変化)			×	×

：画面切替直後または電源投入直後に処理を実行します。

×：画面切替直後または電源投入直後に処理を実行しません。

- 通信サイクルタイムとは、GP から接続機器にデータを要求して取り込むまでの時間です。内部デバイスの LS2037 にバイナリデータで格納されます。単位は ms です。±10ms の誤差があります。
- 表示スキャンタイムとは、1 画面の表示・演算処理にかかる時間です。内部デバイスの LS2036 にバイナリデータで格納されます。単位は ms です。±10ms の誤差があります。

付録 4 外国語で作画したい

付録 4.1 詳細

ここでは、「中国語（簡体字）」のストロークフォントを使ってスイッチの銘板を作画する例をご紹介します。

GP-Pro EX では、中国語（簡体字）のほか、欧米、中国語（繁体字）、韓国語、キリル文字、タイ語での作画もできます。



付録 4.2 設定手順

MEMO

- 本手順では、「12.2 タッチで表示画面を切り替えたい」で紹介する画面切替スイッチの銘板を中国語（簡体字）で入力します。画面切替スイッチの設定手順については「タッチで表示画面を切り替えたい」を参照してください。
 - ☞「11.2 タッチで表示画面を切り替えたい」(11-4 ページ)
- ストロークフォントの詳細は、「ストロークフォント、標準フォント」を参照してください。
 - ☞「6.2 ストロークフォント、標準フォント」(6-3 ページ)

中国語（簡体字）を例にスイッチの銘板を作画します。



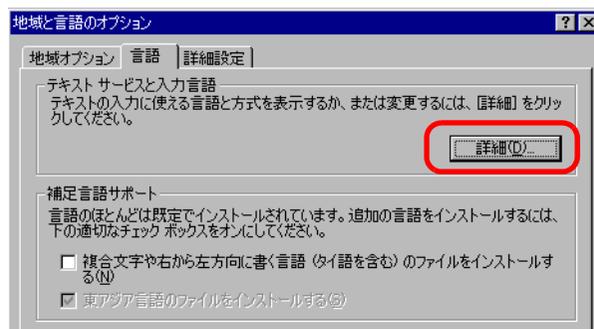
次の3種類の設定を行います。番号順に、ページ番号をクリックして読み進んでください。

1. Windows® の多言語表示 / 入力機能の設定で中国語（簡体字中国語）を追加する
 - 「 Windows®XP をご使用の場合」(A-74 ページ)
 - 「 Windows®2000 をご使用の場合」(A-76 ページ)
2. 「 中国語（簡体字）ストロークフォントをプロジェクトに追加する」(A-78 ページ)
3. 「 画面切替スイッチの銘板を中国語（簡体字）で入力する」(A-80 ページ)

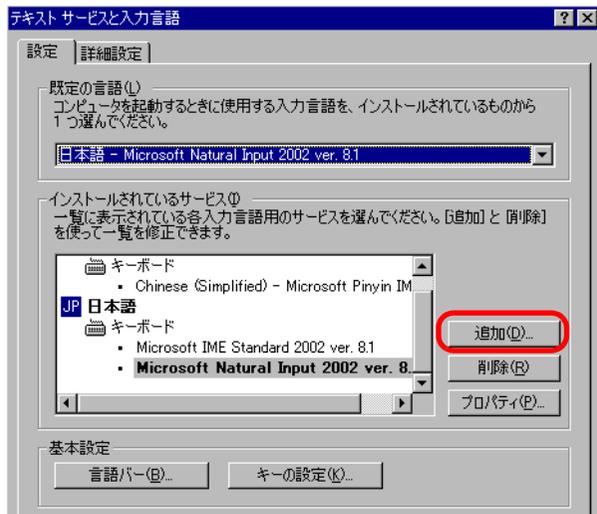
Windows® の多言語表示 / 入力機能の設定で中国語（簡体字中国語）を追加する

Windows®XP をご使用の場合

- 1 スタートメニューから [コントロールパネル] を開き、[地域と言語のオプション] をダブルクリックします。
- 2 [言語] タブの [テキストサービスと入力言語] にある「詳細」ボタンをクリックします。



- 3 [テキストサービスと入力言語] ダイアログボックスが開きます。[設定] タブにある [インストールされているサービス] で [追加] ボタンをクリックします。



- 4 [入力言語の追加] ダイアログボックスの [入力言語] で「中国語 (中国)」を選択します。ここでは、[キーボード レイアウト/入力システム] に「Chinese(Simplified)-Microsoft Pinyin IME 3.0」を設定例として選択します。[OK] で閉じます。



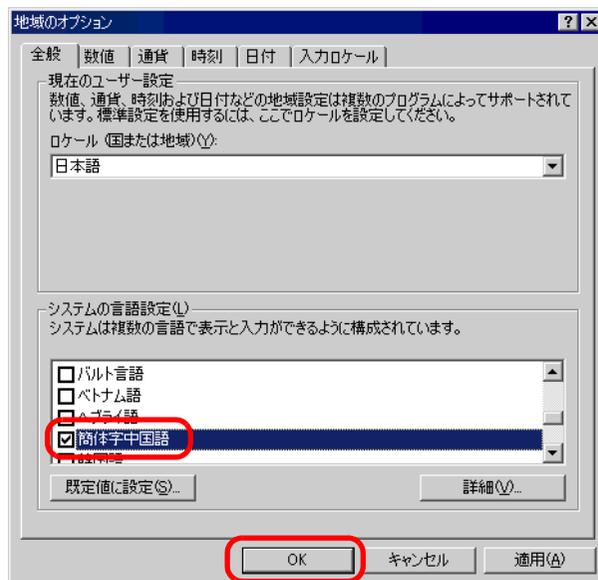
- 5 [テキストサービスと入力言語] ダイアログボックスに戻ります。[インストールされているサービス] に「中国語 (中国)」が追加されていることを確認したら [適用] をクリックし、[OK] で閉じます。



- 6 [地域と言語のオプション] ダイアログボックスに戻りますので [OK] で閉じます。

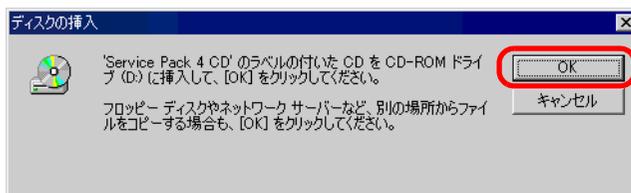
Windows®2000 をご使用の場合

- 1 スタートメニューから [設定]、[コントロールパネル] を開き、[地域のオプション] をダブルクリックします。
- 2 [全般] タブの [システムの言語設定] にて「簡体字中国語」を選択し [OK] をクリックします。

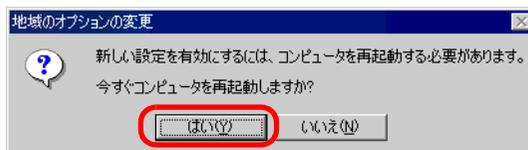


MEMO

- はじめて簡体字中国語を追加する場合、以下のようなダイアログボックスが表示されます。Windows®2000 CD-ROM をコンピュータに挿入して [OK] をクリックしてください。

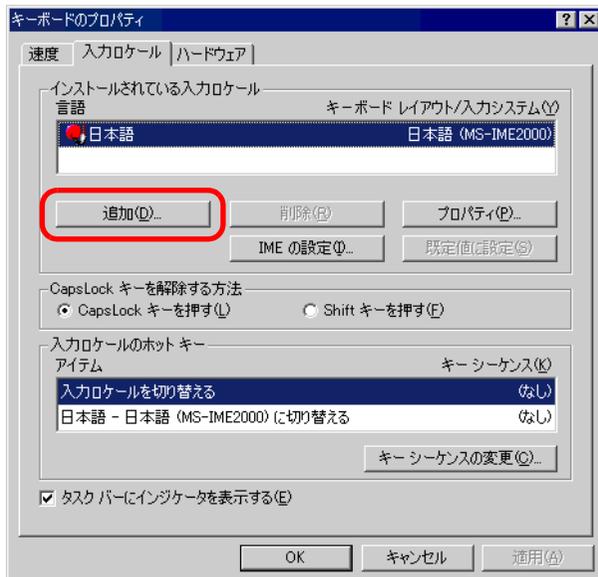


- 3 CD-ROM からのデータコピーが終了したら、コンピュータを再起動します。
以下のダイアログボックスが表示されますので [はい] をクリックしてください。



- 4 再起動後、スタートメニューから [設定]、[コントロールパネル] を開き、[キーボード] をダブルクリックします。

- 5 [キーボードのプロパティ] ダイアログボックスの[入力ロケール]タブを開き、[インストールされている入力ロケール]の[追加]ボタンをクリックします。

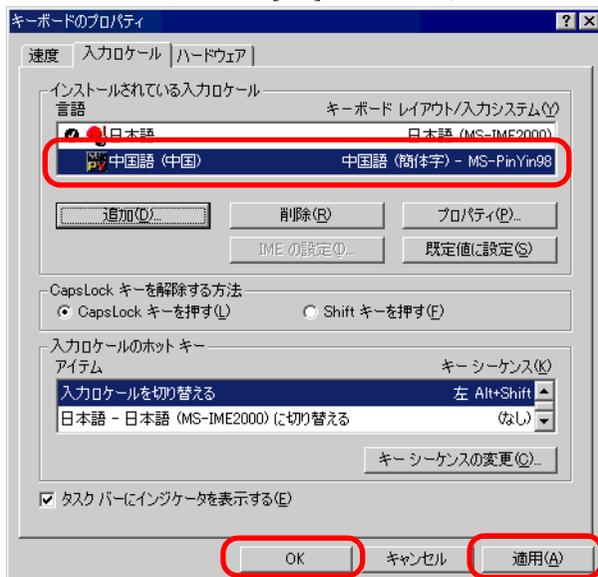


- 6 [入力ロケールの追加] ダイアログボックスが表示されます。追加する言語をプルダウンから選択し[OK]をクリックします。

(例) [入力ロケール]に「中国語(中国)」、[キーボードレイアウト/入力システム]に「中国語(簡体字)-MS-PinWin98」を選択しています。



- 7 [インストールされている入力ロケール]の言語に「中国語(中国)」が追加されていることを確認します。[適用]ボタンをクリックし、最後に[OK]で閉じます。



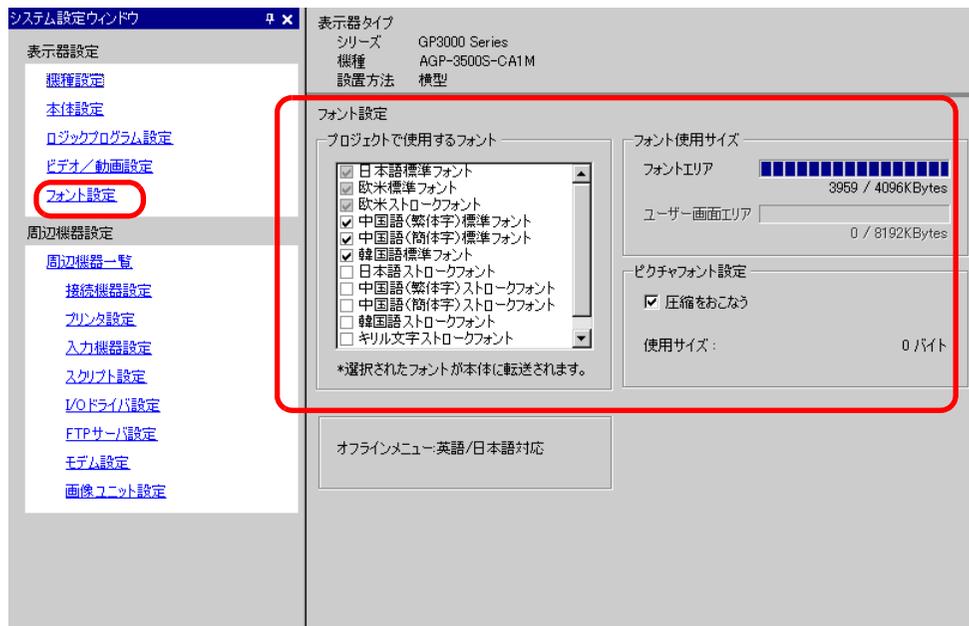
中国語（簡体字）ストロークフォントをプロジェクトに追加する

MEMO

- ・ ストロークフォントの詳細は次を参照してください。

☞「6.2 ストロークフォント、標準フォント」(6-3 ページ)

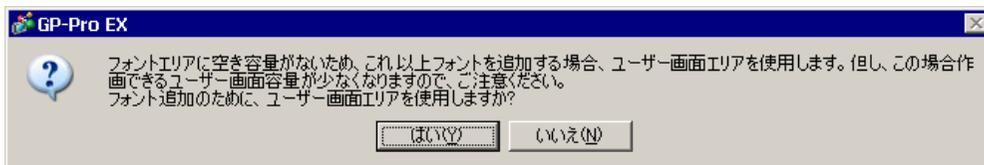
- 1 GP-Pro EX の [システム設定ウィンドウ] の [フォント設定] をクリックすると、[フォント設定] 画面が表示されます。



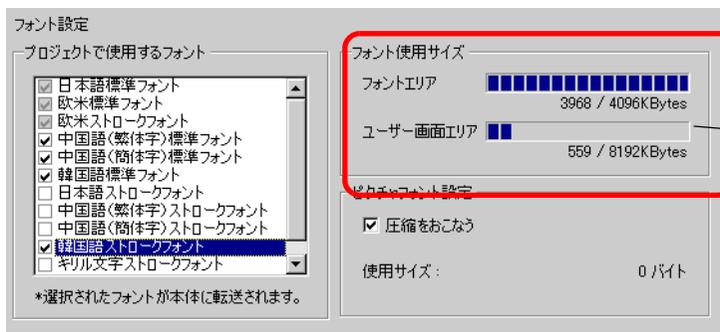
MEMO

- ・ ワークスペースに [システム設定ウィンドウ] タブが表示されていない場合は、[表示 (V)] メニューから [ワークスペース (W)] を選択し、[システム設定ウィンドウ (S)] を選択します。

- 2 [プロジェクトで使用するフォント] で、[中国語（簡体字）ストロークフォント] の にチェックを入れてフォントを追加します。
- 3 チェックを入れると以下のような注意が表示されます。



[フォントエリア] 内に格納しきれないフォント容量を [ユーザー画面エリア] に収めてよい場合、または手順 4 のように、後でフォントエリアを調整する場合は [はい] をクリックします。[はい] をクリックすると、ユーザー画面エリアの領域も使用していることが確認できます。



画面データが格納されるエリアにもフォントデータが格納されます

[いいえ]をクリックすると、フォントの追加をキャンセルします。

4 使用しないフォントのチェックをはずします。より多くの空き容量をフォントエリア内に確保できます。

MEMO

- 「日本語標準フォント」、「欧米標準フォント」、「欧米ストロークフォント」は固定です。チェックをはずすことはできません。

画面切替スイッチの銘板を中国語（簡体字）で入力する

- 1 タスクバーの入力システム（Windows®XP では「言語」）のアイコンをクリックし、中国語入力システム（Windows®XP では「中国語（中国）」）を起動します。

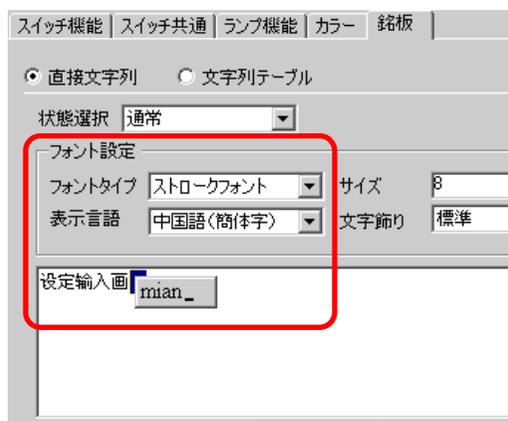
<Windows®XP の場合 >



<Windows®2000 の場合 >

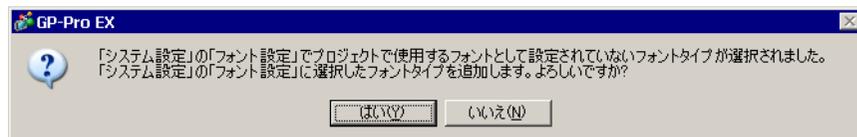


- 2 GP-Pro EX を起動し、「11.2 タッチで表示画面を切り替えたい」（11-4 ページ）の設定手順で作成した画面切替スイッチをダブルクリックします。[銘板] タブを開き、[フォントタイプ] と [表示言語] を設定し文字をローマ字入力します。



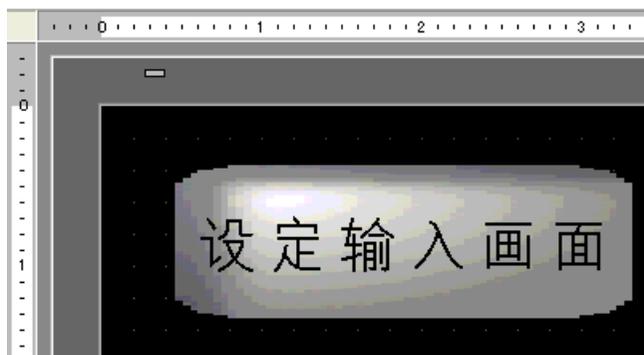
MEMO

- [フォントタイプ] で [ストロークフォント] を選択した瞬間や [表示言語] を変更した瞬間に、以下のダイアログボックスが表示される場合があります。フォントの追加より先にスイッチの設定を行ったため、フォントタイプを追加するかどうか確認するものです。



フォントを追加する場合は、[はい] をクリックします。
[キャンセル] するとフォントの追加は取り消され、その状態で GP に転送すると、設定した文字列は表示できません。

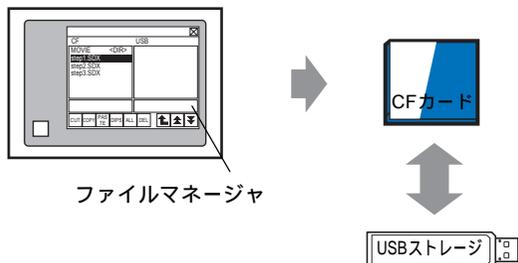
- 3 [OK] で [スイッチ/ランプ] ダイアログボックスを閉じると、中国語（簡体字）銘板の入った画面切替スイッチに変わります。



付録 5 CF カードと USB ストレージ間でデータを移動したい

付録 5.1 詳細

GP 画面上に表示した特殊データ表示器 [ファイルマネージャ] を利用して、CF カードから USB ストレージに、または USB ストレージから CF カードにデータをコピーしたり移動したりできます。空き容量の少ない CF カードにデータを保存したいときに、CF カード内のすぐには必要ではないデータを USB ストレージに移動して空き容量を確保したり、データのバックアップをとったりしておくときに使用できます。



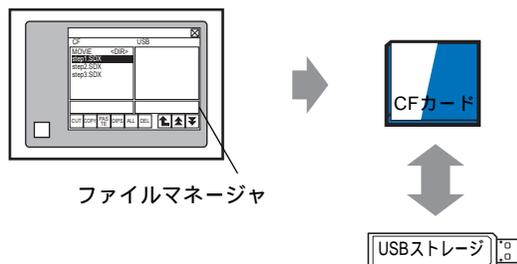
付録 5.2 設定手順

MEMO

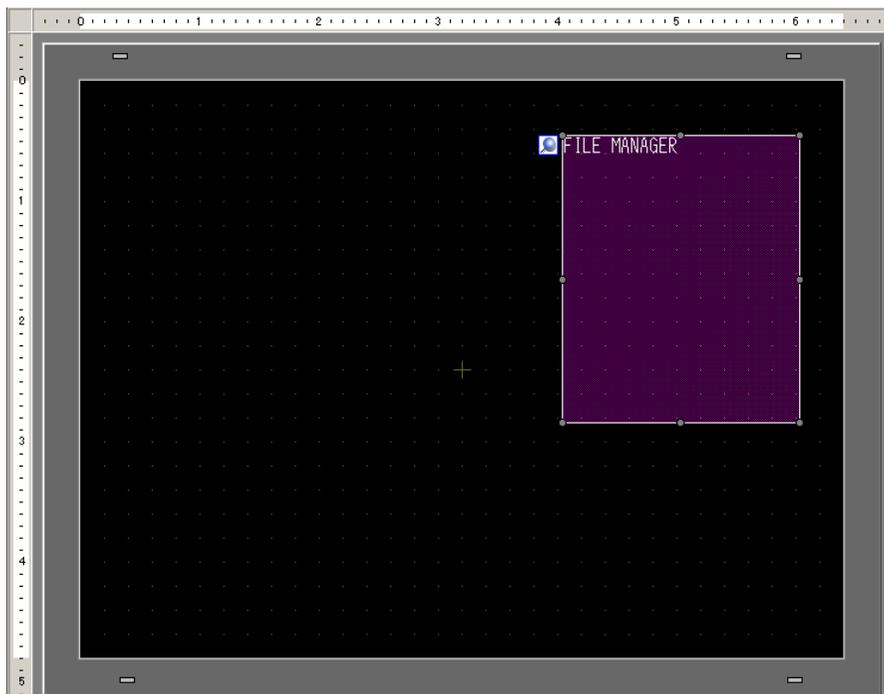
- 設定内容の詳細は設定ガイドを参照してください。

☞ 「25.10.2 特殊データ表示器の設定ガイド ファイルマネージャ」(25-82 ページ)

特殊データ表示器 [ファイルマネージャ] を使用して、GP に装着した CF カードのデータを USB ストレージに移動します。



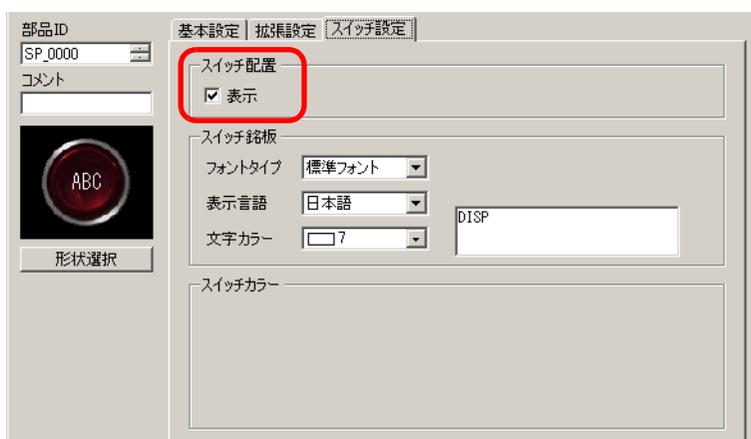
- [部品 (P)] メニューから [特殊データ表示器 (P)] - [ファイルマネージャ (M)] を選択し、画面に配置します。



- 2 配置した特殊データ表示器 [ファイルマネージャ] をダブルクリックすると、次のダイアログボックスが開きます。



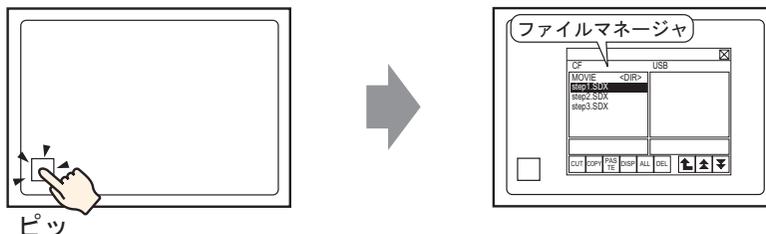
- 3 [動作モード] の [ファイル操作] を選択し、[対象データ] の [CF<->USB ストレージ] を選択します。
- 4 [スイッチ設定] タブを開き、[表示] にチェックを入れます。[形状選択] でスイッチの形状を選択し、必要に応じて铭板や色を設定して [OK] をクリックします。

**MEMO**

- CF カードおよび USB ストレージの空き容量は、システム設定ウィンドウの [本体設定] - [動作設定] で [CF カード空き容量]、[外部メモリ空き容量] を設定することで確認できます。

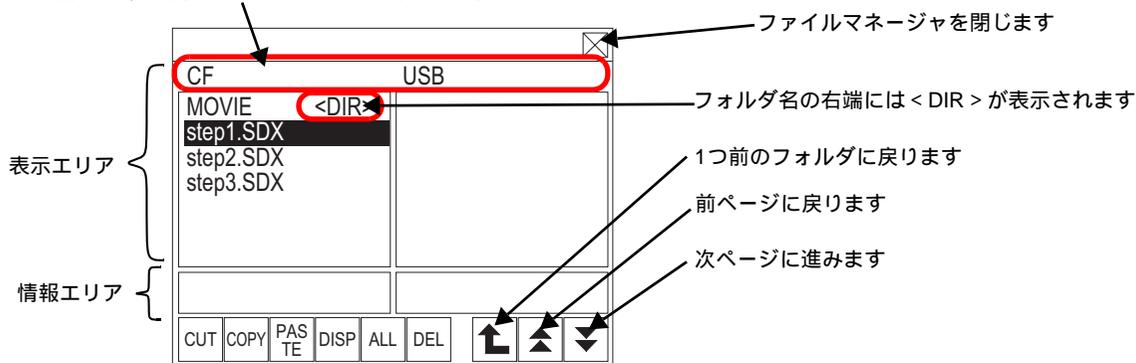
付録 5.3 操作手順

- 1 CF カードと USB ストレージを GP に装着します。
- 2 ファイルマネージャ表示用のスイッチをタッチすると、[ファイルマネージャ] が GP 画面上に呼び出されます。



(もう一度表示用スイッチをタッチすると [ファイルマネージャ] が閉じます。)

左側にCF、右側にUSBストレージの内容を表示します



- [DEL] : 選択したファイルまたはフォルダを削除します
- [ALL] : 表示中フォルダ内のすべてのファイルを選択します
- [DISP] : 選択したフォルダの中にあるファイルを表示します。
CSVファイルを選択している場合は[CSV表示器]に、JPEGファイルの場合は[図形表示器]に表示します。
- [PASTE] : 切り取りまたはコピーしたファイルを貼り付けます
- [COPY] : 選択したファイルまたはフォルダをコピーします
- [CUT] : 選択したファイルまたはフォルダを切り取ります

- 表示エリア

ファイル名は拡張子までを最大 19 文字分表示します。19 文字を超える場合は、ファイル名が途中から「...」で省略表示されます。(例:「ZR12345678901234...」)

フォルダ名は最大 14 文字まで表示します。14 文字を超える場合は、フォルダ名が途中から「...」で省略表示されます。(例:「ABCDEFGHIJK...<DIR>」)

フルパス (フォルダ名 + ファイル名) は最大 99 文字まで有効です。

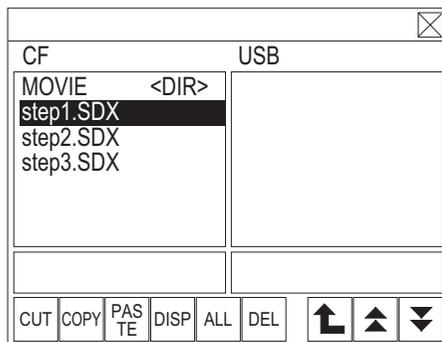
- 情報エリア

フォルダを選択している場合はフォルダの作成日時が、ファイルを選択している場合はファイルの作成日時とファイルサイズが表示されます。

MEMO

- USB ストレージを接続するのは 1 つのみにしてください。複数接続された場合には、正しく認識されない場合があります。
- CF カードおよび USB ストレージなどが装着されていない場合、ファイルマネージャは表示されますが、表示エリアには何も表示されません。GP に装着した直後は、必ずルートフォルダからの表示になります。

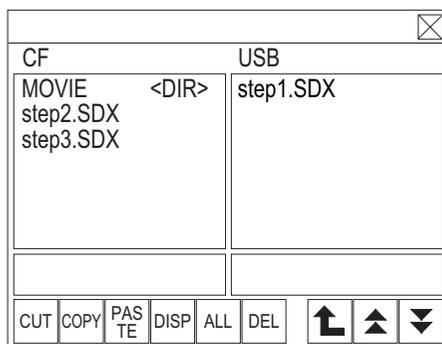
- 3 [CF] 内のファイルを選択します。(移動したいファイルがフォルダ内にある場合は、フォルダ名を選択して [DISP] をタッチすると、フォルダ内のファイル名が表示されます。)

**MEMO**

- 選択したファイルを再度タッチすると、選択は解除されます。
- 表示されているエリア内で、複数のファイルを選択することもできます。ページを切り替えると選択状態は解除されます。1 ページに表示できるフォルダ / ファイルは 7 個までです。
- 表示されるファイルの順番は、ファイルの作成順になります。日付順にソートして表示させることもできます。

☞ 「25.10.2 特殊データ表示器の設定ガイド 拡張設定」(25-85 ページ)

- 4 [CUT] をタッチします。貼り付け先となる [USB] が自動的に反転表示され、選択状態になります。
- 5 [PASTE] をタッチすると、「ファイルが存在する場合は上書き保存されます」とメッセージが表示されます。[OK] をタッチすると、[USB] にファイルが貼り付けられます。



これで、CF カードから USB ストレージへファイルが移動されました。

重要

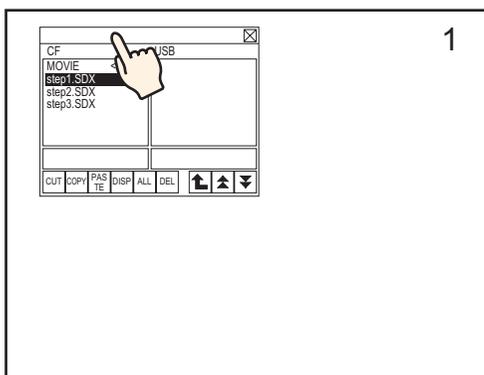
- CF カードおよび USB ストレージにアクセス中は、本体のリセット、CF カードや USB ストレージの抜き差しを行わないでください。

MEMO

- ファイルマネージャのサイズは変更できません。
- CF→CF 間、USB→USB 間でファイルのコピーや移動はできません。
- [CUT]、[COPY] した状態でページを切り替えた場合、選択は解除されません。
- CSV 表示器で表示中の CSV ファイルは、切り取り・削除できません。
- ファイルのコピー / 切り取り / 削除を行っている間に、画面切り替えを行った場合、処理は継続されたまま画面が切り替わります。
- ファイルマネージャに正常に表示されていないフォルダへの移動やファイル操作はエラーになります。

<ファイルマネージャの移動方法>

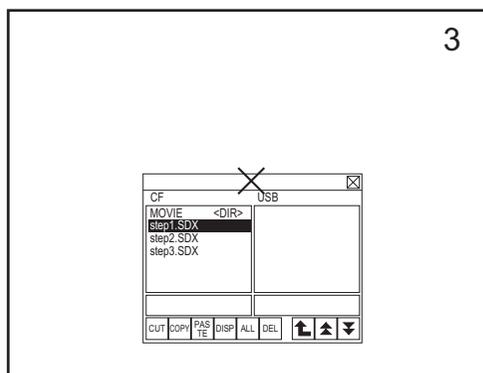
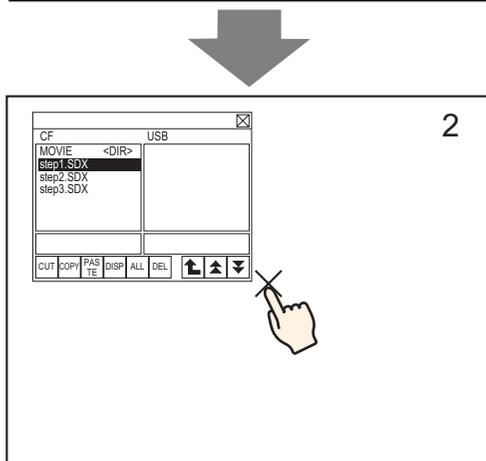
特殊データ表示器 [ファイルマネージャ] は、画面上で表示位置を変更できます。



- 1 [ファイルマネージャ] 表示器の上部をタッチします。
- 2 画面上の移動させたい位置をタッチします。
- 3 タッチした位置に [ファイルマネージャ] 表示器が表示されます。

MEMO

- ・ 指定した位置では [ファイルマネージャ] 表示器が画面からはみ出る場合は、表示できる位置に自動的に調整されます。



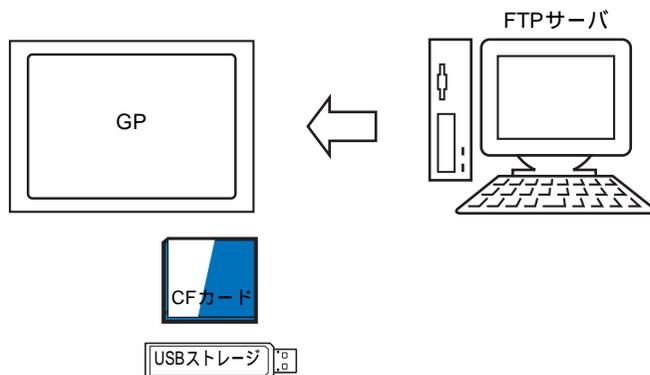
付録 6 FTP サーバを用いてデータを表示器の外部ストレージにバックアップしたい

付録 6.1 詳細

FTP サーバ上のデータを表示器上の CF カードや USB ストレージにコピーできます。

接続機器データのバックアップとしてお使いいただけます。

また、特殊表示器 [ファイルマネージャ] を利用して保存されているデータを一覧で確認したり、レシビデータとして使用することもできます。



付録 6.2 設定手順

MEMO

- 設定内容の詳細は設定ガイドを参照してください。

☞ 「25.10.2 特殊データ表示器の設定ガイド ファイルマネージャ」(25-82 ページ)

FTP サーバ上のデータを表示器上の CF カードや USB ストレージにコピーできます。

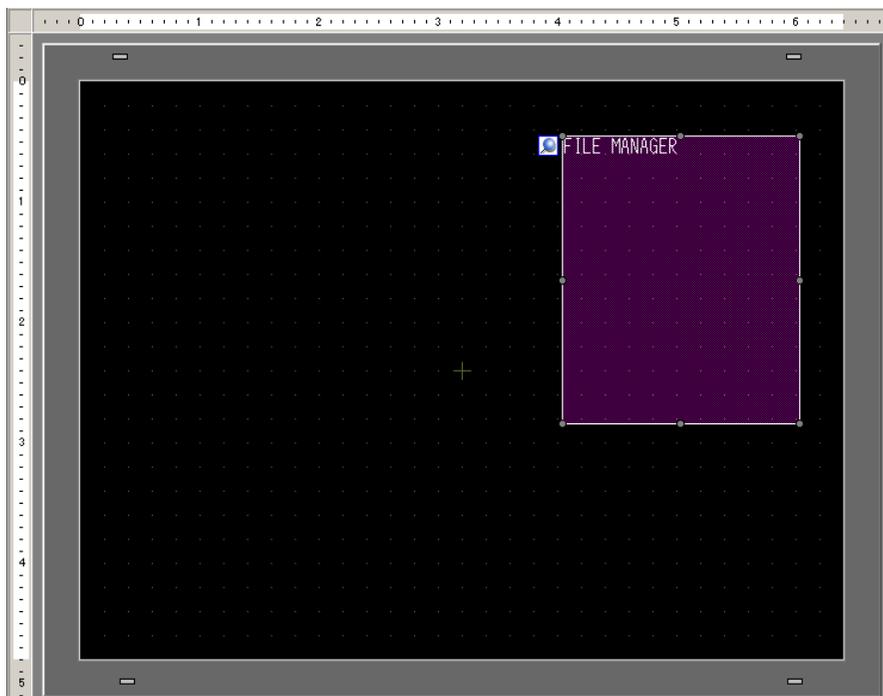
- 1 [システム設定] - [周辺機器設定] - [FTP サーバ設定] で [新規作成] をクリックし、接続したい FTP サーバを登録します。

MEMO

- 設定内容は以下を参照してください。

☞ 「27.9.2 [FTP サーバ設定] の設定ガイド」(27-86 ページ)

- 2 [部品 (P)] メニューから [特殊データ表示器 (P)] - [ファイルマネージャ (M)] を選択し、画面に配置します。



- 3 配置した特殊データ表示器 [ファイルマネージャ] をダブルクリックすると、次のダイアログボックスが開きます。



- 4 [動作モード] の [ファイル操作] を選択し、[対象データ] の [CF<-->FTP] を選択します。

MEMO

- [USB ストレージ <-->FTP] を選択すると、データを USB ストレージにコピーします。

- 5 [接続先 FTP サーバ] で [直接] を選択します。

MEMO

- [間接] を選択すると、接続する FTP サーバの情報をアドレスで指定します。

- 6 [FTP サーバ] に 1 . で設定した FTP サーバが表示されます。接続したい FTP サーバを選択します。

- 7 [スイッチ設定] タブを開き、[表示] にチェックを入れます。[形状選択] でスイッチの形状を選択し、必要に応じて銘板や色を設定して [OK] をクリックします。

部品ID
SP_0000
コメント

基本設定 | 拡張設定 | **スイッチ設定**

スイッチ配置
 表示

スイッチ銘板
フォントタイプ 標準フォント
表示言語 日本語
文字カラー 7 DISP

形状選択

MEMO

- ファイルマネージャ画面の詳細と操作手順は以下を参照してください。
☞ 「付録 5.3 操作手順」(A-85 ページ)
FTP サーバの内容を表示する場合は、[FTP] というスイッチが表示されますが、このスイッチにタッチすると FTP サーバへの接続を行います。
- FTP サーバとの接続を切断するにはファイルマネージャを閉じるか画面切替を行ってください。

付録 6.3 制限事項

- 以下の FTP サーバをサポートします。
 - FTP サーバは UNIX 型と DOS 型に対応しています。
 - インターネットインフォメーションサービス (IIS) Windows 2000、Windows XP、Windows Server 2003、Windows Vista
- [FTP] のファイルを選択中は [DISP] にタッチしても、選択した CSV、JPEG ファイルを CSV 表示器や図形表示器で表示させることはできません。
- ファイルサイズが 4GB 以上のファイルは、ファイルマネージャ上でファイルサイズの数値が「*****」と表示されます。
- ファイルまたはフォルダはファイルマネージャ上で 200 個まで指定できます。
- ファイルマネージャでファイル一覧を表示中に FTP サーバのファイルに変化があっても、リアルタイムに変更されません。
- CF カード /USB ストレージ内のフォルダやファイルの名前に、小文字のアルファベットを使用していた場合、ファイルマネージャでは小文字のアルファベットは大文字に変換されて表示されません。ただし、FTP サーバ内のフォルダやファイルの名前は小文字は小文字、大文字は大文字として表示されます。
- FTP サーバのパスワードには半角英数のみ対応しています。記号などは使用できません。FTP サーバの接続方法を [間接] に設定したとき、パスワードに半角英数以外の文字列が含まれていると、最初に現れた半角英数以外の文字以降の文字列は無視されます。
- ファイルマネージャの設定で [接続先 FTP] - [間接] を設定している場合、[システム設定] - [FTP サーバ設定] の登録数を 31 個までにしてください。

付録 7 システム変数

GP-Pro EX であらかじめ定義されている変数をシステム変数と呼びます。

システム変数には、ロジックシステム変数（#L システム変数）と HMI システム変数（#H システム変数）があり、GP の状態を示し、動作に影響します。また、シンボル変数と同様に変数タイプ（整数・ビット）を持ち、同じ働きをします。

重要

- システム変数は、ユーザが任意で追加・削除することはできません。
- すべてのシステム変数は [変数方式]、[アドレス方式] にかかわらず、システム変数名称を指定してください。
- #L システム変数は保持型変数です。GP の電源を OFF しても現在値が保持されます。#H システム変数は非保持型変数です。保持 / 非保持は、プロパティウィンドウの [詳細情報] で確認できます。
- #H システム変数はロジックプログラムとは非同期で動作しているため、タイミングによっては正しい値がとれない場合があります。

付録 7.1 ロジックシステム変数（#L システム変数）

ロジックシステム変数が使用できるのは、ロジックプログラム機能をサポートする機種で、システム設定ウィンドウ [ロジックプログラム設定] の [ロジックプログラム] を [使用する] に設定している場合のみです。

ロジックプログラム機能をサポートしている機種については、以下を参照してください。

☞ 「1.3 機種別サポート機能一覧」(1-7 ページ)

ビット型ロジックシステム変数

変数名称	内容	読み込み	書き込み
ラダーリファレンスフラグ			
#L_RunMonitorA	RUN 中は ON		×
#L_AlwaysON	常時 ON		×
演算フラグ			
#L_CalcZero	ゼロフラグ		×
#L_CalcCarry	桁上がりフラグ		×
システム設定			
#L_ScanModeSW	ロジックの動作モード設定		×
#L_AutoRunSW	立ち上げ時の動作モード設定		×
#L_InOutSW	外部入出力切り離し設定		×
#L_FaultStopSW	継続異常スイッチ設定		×
#L_SyncRunSW	外部接続機器との通信同期設定		×
動作情報			
#L_UnlatchClear	非保持エリアの 0 クリア		
#L_LatchClear	保持エリアの 0 クリア		
時間			
#L_Clock100ms	100ms クロックパルス		×
#L_Clock1sec	1 秒クロックパルス		×
#L_Clock1min	1 分クロックパルス		×

次のページに続きます。

変数名	内容	読み込み	書き込み
アドレスリフレッシュ			
#L_RefreshEnable	アドレスリフレッシュ有効フラグ		×
エラー情報			
#L_BatteryErr	バッテリー異常		×
#L_Error	ロジックエラー		×
#L_StopPending	ロジック停止待ちフラグ		×
#L_Fault	エラーハンドラ停止フラグ		
#L_IOFault	I/O 異常フラグ		×

#L_RunMonitorA (RUN 中は ON)

ロジックプログラムが実行しているときはビット ON、ロジックプログラムが実行していないときは、ビット OFF になります。

読み込み専用エリアのため、書き込みできません。書き込みした場合は動作保証できませんので、ご了承ください。

#L_AlwaysON (常時 ON)

ロジックプログラム使用・未使用にかかわらず、ロジックスキャンの初期にビット ON します。

読み込み専用エリアのため、OFF の書き込みをした場合は OFF 以下のプログラムは、#L_AlwaysON のビットが OFF になります。

次のスキャンの初期で再度 ON に書き換えられますが、#L_AlwaysON に対して書き込み処理をしないでください。

#L_CalcZero (ゼロフラグ)

演算命令結果がゼロ (0) になった場合のみ、#L_CalcZero が ON します。

演算命令が実行されるごとに、#L_CalcZero の内容を書き換えます。

演算命令実行後に、#L_CalcZero が OFF か ON の書き換えを行います。読み込み専用エリアのため、書き込みできません。

#L_CalcCarry (桁上がりフラグ)

演算命令実行後の結果によって桁上がりが発生した場合のみ、#L_CalcCarry が ON します。

演算命令が実行されるごとに、#L_CalcCarry の内容を書き換えます。

演算命令実行後に、#L_CalcCarry が OFF か ON の書き換えを行います。読み込み専用エリアのため、書き込みはできません。

#L_ScanModeSW (ロジックの動作モード設定)

現在実行されているロジックプログラムの動作モードの確認ができます。

#L_ScanModeSW が ON の状態でパーセントスキャンモードになり、#L_ScanModeSW が OFF の状態でコンスタントスキャンモードになります。読み込み専用エリアのため、書き込みできません。

#L_AutoRunSW (立ち上げ時の動作モード)

電源 ON 時の動作設定が RUN に設定されている場合は、#L_AutoRunSW は ON となります。

電源 ON 時の動作設定が STOP に設定されている場合は、#L_AutoRunSW は OFF となります。

読み込み専用エリアのため、書き込みできません。

#L_InOutSW (外部入出力切り離し設定)

電源 ON 時の動作設定で外部入出力設定が有効に設定されている場合は、#L_InOutSW が ON になります。

電源 ON 時の動作設定で外部入出力設定が無効に設定されている場合は、#L_InOutSW が OFF になります。

読み込み専用エリアのため、書き込みできません。

#L_FaultStopSW (継続異常スイッチ設定)

継続異常が有効 (継続異常発生時停止) に設定されている場合は、#L_FaultStopSW が ON になります。継続異常が無効 (継続異常発生時運転継続) に設定されている場合は、#L_FaultStopSW が OFF になります。

読み込み専用エリアのため、書き込みできません。

#L_SyncRunSW (外部接続機器との通信同期設定)

電源 ON 時の動作設定で外部接続機器との通信が同期の場合は、#L_SyncRunSW が ON になります。

電源 ON 時の動作設定で外部接続機器との通信が非同期の場合は、#L_SyncRunSW が OFF になります。

読み込み専用エリアのため、書き込みできません。

#L_UnLatchClear (非保持エリアの 0 クリア)

#L_UnLatchClear を ON することで、非保持エリアの 0 クリアを要求します (立ち上がりを検出し 0 クリアします)。

ロジックプログラムが STOP 中のときのみ動作します。

タイマの設定値とタイムベース、カウンタの設定値は 0 クリアできません。また、システム変数、接続機器アドレスも 0 クリアできません。

読み込みと書き込みができます。

#L_LatchClear (保持エリアの 0 クリア)

#L_LatchClear を ON することで、保持エリアの 0 クリアを要求します (立ち上がりを検出し 0 クリアします)。

ロジックプログラムが STOP 中のときのみ動作します。

タイマの設定値とタイムベース、カウンタの設定値は 0 クリアできません。また、システム変数、接続機器アドレスも 0 クリアできません。

読み込みと書き込みができます。

#L_Clock100ms (100ms クロックパルス)

OFF 時間 50ms と ON 時間 50ms の周期で、ON と OFF を繰り返し実行します。

読み込み専用エリアのため、書き込みできません。

クロックパルスの時間よりスキャンタイムが長い場合は、ON と OFF を繰り返しません。スキャンタイムを確認して設定してください。

#L_Clock1sec (1 秒クロックパルス)

OFF 時間 500ms と ON 時間 500ms の周期で、ON と OFF を繰り返し実行します。

読み込み専用エリアのため、書き込みできません。

クロックパルスの時間よりスキャンタイムが長い場合は、ON と OFF を繰り返しません。スキャンタイムを確認して設定してください。

#L_Clock1min (1分クロックパルス)

OFF 時間 30s と ON 時間 30s の周期で、ON と OFF を繰り返し実行します。

読み込み専用エリアのため、書き込みできません。

クロックパルスの時間よりスキャンタイムが長い場合は、ON と OFF を繰り返しません。スキャンタイムを確認して設定してください。

#L_RefreshEnable

アドレスリフレッシュ有効時にビットが ON します。

有効の条件： PLC の第 1 通信スキャン完了 (複数接続時はすべての第 1 通信スキャンが完了している)

PLC 通信が正常

無効の条件： PLC の第 1 通信スキャンが未完了 (複数接続時はすべての第 1 通信スキャンが完了していない)

PLC 通信に異常が発生 (複数接続時は 1 つ以上の PLC 通信異常が発生している)

#L_BatteryErr (バッテリー異常)

GP 本体からの電池異常情報を検出した場合にビットが ON します。

ビットが ON すると、GP 本体がリセットされるか電源が OFF になるまで、#L_BatteryErr のビットは OFF になりません。

読み込み専用エリアのため、書き込みできません。

#L_Error (ロジックエラー)

ロジック動作でエラーが発生した場合 (#L_CalcErrCode にエラー状態が格納された場合) にビットが ON します。

ビットが ON すると、GP 本体がリセットされるか電源が OFF になるまで、#L_Error のビットは OFF になりません。

読み込み専用エリアのため、書き込みできません。

#L_StopPending (ロジック停止待ちフラグ)

#L_StopScans が 0 になるまで、#L_StopPending のビットが ON になります。

#L_StopScans のビットが OFF になると、ロジックが停止するまでのスキャン分 ON します。

読み込み専用エリアのため、書き込みできません。

#L_Fault (エラーハンドラ停止フラグ)

"エラーハンドラ" サブルーチンの終了時に、ロジックプログラムの実行を停止するか継続するかを判断するために参照されます。

#L_Fault を ON にすることで、GP のロジックプログラムの実行を停止することができます。

読み込みと書き込みができます。

"エラーハンドラ" サブルーチンがないときは、#L_Fault は使用しません。

#L_IOFault (I/O 異常フラグ)

I/O ドライバで I/O エラーが発生し、#L_IOStatus にエラーステータスが格納されたときに、

#L_IOFault が ON になります。#L_IOFault[1] には内部 I/O ドライバのエラーが、#L_IOFault[2] には外部 I/O ドライバのエラーが格納されます。

次のエラーが発生するか、または GP がリセットされるまで保持されます。

整数型ロジックシステム変数

変数名	内容	読み込み	書き込み
スキャンタイム			
#L_ScanTime	0 ステップめ開始 ~ 次のスキャンの 0 ステップめ開始までの時間		×
#L_AvgScanTime	#L_ScanTime の 64 サイクル分の平均		×
#L_MinScanTime	#L_ScanTime の最小スキャンタイム		×
#L_MaxScanTime	#L_ScanTime の最大スキャンタイム		×
#L_ScanCount	スキャン回数		×
#L_LogicTime	0 ステップめ開始 ~ END 命令までの時間		×
#L_AvgLogicTime	#L_LogicTime の 64 サイクル分の平均		×
#L_MinLogicTime	#L_LogicTime の最小ロジックタイム		×
#L_MaxLogicTime	#L_LogicTime の最大ロジックタイム		×
ステータス			
#L_Status	ロジックのステータス情報		×
#L_Platform	GP プラットフォームのコード		×
#L_Version	ロジックのファームウェアバージョン		×
#L_EditCount	オンライン編集された回数		×
#L_ForceCount	強制変更された変数の延べ回数		×
#L_IOInfo	I/O ドライバ情報		×
#L_LogicInfo	ロジック情報		×
#L_IOMasterDrv* ¹	マスター I/O ドライバの拡張情報	ドライバに 依存	ドライバに 依存
システム設定			
#L_ConstantScan	ロジックの起動周期		×
#L_PercentScan	ロジックの動作割合		×
#L_WatchdogTime	ロジックの WDT 値		×
#L_AddressRefreshTime	接続機器アドレスのアドレスリフレッシュ時間		×
時間			
#L_Time	時分情報		×
動作情報			
#L_Command	ロジックの動作モード変更		
#L_LogicMonitor	ロジックモニタの起動スイッチ		
#L_LogicMonStep	ロジックモニタの表示ステップを指示		
I/Oステータス			
#L_IOStatus	内蔵 I/O ドライバのステータス		×
エラー情報			
#L_CalcErrCode	演算異常コード格納エリア		×
#L_FaultStep	演算異常発生ステップ番号格納エリア		×
#L_FaultLogicScreen	演算異常発生ロジック番号格納エリア		×

次のページに続きます。

変数名	内容	読み込み	書き込み
ロジック停止			
#L_StopScans	ロジック停止スキャン回数		
保持変数バックアップ			
#L_BackupCmd	バックアップコマンド		
LT 共通 ² ³			
#L_ExIOFirmVer	拡張 I/O ボードのファームウェアバージョン		×
#L_ExIOSpCtrl	特殊 I/O 制御		
#L_ExIOSpOut	特殊 I/O 出力		×
#L_ExIOSpParmChg	特殊 I/O パラメータ変更		
#L_ExIOSpParmErr	特殊 I/O パラメータ異常		×
#L_ExIOAccelPlsTbl	加減速パルス用テーブル制御		
#L_ExIOCntInCtrl	カウンタ入力制御		
#L_ExIOCntInExtCtrl	カウンタ入力外部制御		
#L_PWM*_WHZ	Ch* の出力周波数		
#L_PWM*_DTY	Ch* の ON デューティ値		
#L_PLS*_LHZ	Ch* の出力周波数		
#L_PLS*_NUM	Ch* の出力パルス数		
#L_PLS*_SHZ	Ch* の初期出力周波数		
#L_PLS*_ACC	Ch* の加減速時間		
#L_PLS*_CPC	Ch* のパルス出力数現在値		×
#L_HSC*_MOD	Ch* のカウント方式		
#L_HSC*_PLV	Ch* のプリロード値		
#L_HSC*_PSV	Ch* のプリストローブ値		×
#L_HSC*_ONP	Ch* の ON プリセット値		
#L_HSC*_OFP	Ch* の OFF プリセット値		
#L_HSC*_HCV	Ch* のカウンタ現在値		×

1 [*] には 0 ~ 255 が入ります。

2 詳細は、「30.5 LT で外部 I/O を制御したい」(30-27 ページ) を参照してください。

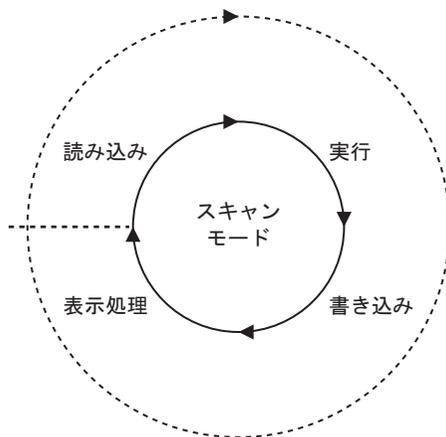
3 [*] には Ch 値 (1 ~ 4) が入ります。

#L_ScanTime (0 ステップめ開始 ~ 次のスキャンの 0 ステップめ開始までの時間)

毎スキャン実行前の 1 つ前のスキャンタイムを最新のスキャンタイムとして格納します。

スキャンタイムとは、I/O の読み込み、ロジックプログラムの実行、I/O の出力、表示処理までに必要な時間です。

単位は 0.1ms になります。



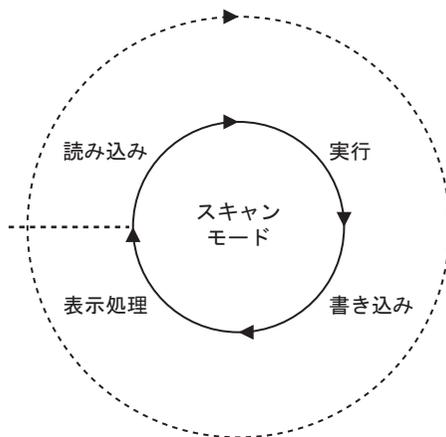
#L_AvgScanTime (#L_ScanTime の 64 サイクル分の平均)

平均スキャンタイムを格納します。

平均スキャンタイムとは、1 回のスキャン実行で I/O の読み込み、ロジックプログラムの実行、I/O の書き込み、表示処理までに必要な時間の平均です。

64 回スキャン実行するごとに更新されます。

単位は 0.1ms になります。



#L_MinScanTime (#L_ScanTime の最小スキャンタイム)

ロジックプログラムの実行最小スキャンタイムを格納します。

#L_ScanTime の更新時に最小スキャンチェックを行い、スキャンごとに更新します。

単位は 0.1ms です。

#L_MaxScanTime (#L_ScanTime の最大スキャンタイム)

ロジックプログラムの実行最大スキャンタイムを格納します。

#L_ScanTime の更新時に最大スキャンチェックを行い、スキャンごとに更新します。

単位は 0.1ms です。

#L_ScanCount (スキャン回数)

カウンタで、ロジックプログラムのスキャン実行が 1 回終わるごとにインクリメントされます。

#L_ScanCount の値の範囲は 0 ~ 16#FFFFFFFF で、最大値 (16#FFFFFFFF) を超えると 0 から再度インクリメントされます。

#L_ScanCount を確認することで、ロジックプログラムが実行されているかを容易に知ることができます。

#L_LogicTime (0 ステップめ開始 ~ END 命令までの時間)

前回のスキャン実行のロジックタイムを格納します。

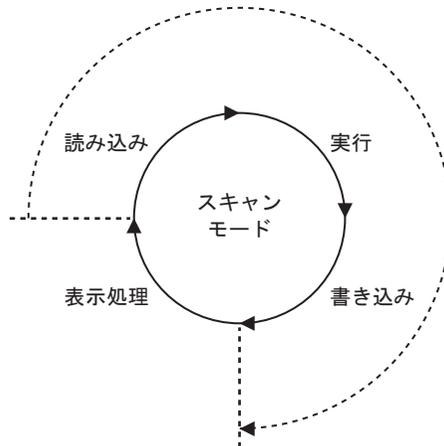
ロジックタイムとは、1 回のスキャン実行で I/O の読み込み、ロジックプログラムの実行、I/O の書き込みまでに必要な時間です。表示処理を実行している時間は含まれません。単位は 0.1ms です。

#L_AvgLogicTime (#L_LogicTime の 64 サイクル分の平均)

平均ロジックタイムを格納します。

平均ロジックタイムとは、1 回のスキャン実行で I/O の読み込み、ロジックプログラムの実行、I/O の書き込みまでに必要な時間の平均です。

64 回スキャン実行するごとに更新されます。単位は 0.1ms です。



#L_MinLogicTime (#L_LogicTime の最小ロジックタイム)

ロジックプログラムの実行最小ロジックタイムを格納します。

#L_LogicTime の更新時に最小ロジックタイムのチェックを行いスキャンごとに更新します。

単位は 0.1ms になります。

#L_MaxLogicTime (#L_LogicTime の最大ロジックタイム)

ロジックプログラムの実行最大ロジックタイムを格納します。

#L_LogicTime の更新時に最大ロジックタイムのチェックを行いスキャンごとに更新します。

単位は 0.1ms になります。

#L_Status (ロジックのステータス情報)

GP の状態を表示します。バイトとビットを、次のように定義します。

バイト 0 : GP の現在のエラー状態が表示されます。

バイト 1 : エラー状態の履歴が表示されます。GP をリセットしたときのみ、0 にリセットされます。

バイト 2 : 現在の動作状態が表示されます。

バイト 3 : 予約エリアです。

バイト 3 予約	バイト 2 現在の状態	バイト 1 エラー状態の履歴	バイト 0 現在のエラー状態
-------------	----------------	-------------------	-------------------

0 バイトめ Byte : 0 (ラッチ)

ビット	7	6	5	4	3	2	1	0
	トータル エラー	スキャン エラー	予約	読み込み エラー	オーバ フロー	I/O エラー	マイナ エラー	メジャー エラー

1 バイトめ Byte : 1 (ラッチ)

ビット	15	14	13	12	11	10	9	8
	トータル エラー	スキャン エラー	予約	読み込み エラー	オーバ フロー	I/O エラー	マイナ エラー	メジャー エラー

2 バイトめ Byte : 2 (ラッチ)

ビット	23	22	21	20	19	18	17	16
	予約	通信待機	待機	停止中	一時停止	強制変更 有効 / 無効	I/O 使用可	運転中

3 バイトめ Byte : 3 (ラッチ)

ビット	31	30	29	28	27	26	25	24
	予約							

#L_Platform (GP プラットフォームのコード)

GP のプラットフォームのコードを格納します。

H															
	GP プラットフォームのコードを格納する														
L															

形式	コード
AGP-3302B	0x00020404
AGP-3301	0x00020504
AGP-3300	0x00020514
AGP-3400	0x00020614
AGP-3500	0x00020714
AGP-3600	0x00020814
AGP-3450	0x00020634
AGP-3550	0x00020734
AGP-3650	0x00020834
AGP-3750	0x00020934
AGP-3510	0x00020A14
AGP-3560	0x00020A34
LT-3201A	0x00030204
LT-3301	0x00030504
LT-3300	0x00030514

#L_Version (ロジックのファームウェアバージョン)

ロジックのファームウェアバージョンを格納します。

#L_EditCount (オンライン編集された回数)

オンラインエディットの回数を格納します。(RUN 中書き込み時は実行できません。)

#L_ForceCount (強制変更された変数の延べ回数)

強制変更された変数の延べ回数を格納します。

#L_IOInfo (I/O ドライバ情報)

I/O ドライバの情報を格納します。

#L_LogicInfo (ロジック情報)

システムで予約されています。

#L_IOMasterDrv* (マスター I/O ドライバの拡張情報)

[*] には 0 ~ 255 が入ります。

マスター I/O ドライバの拡張情報を格納します。

 「30.7.4 I/O ドライバ命令を使用する」(30-143 ページ)

#L_ConstantScan (ロジックの起動周期)

コンスタントスキャンモードの場合に、スキャンタイムを 10ms 単位で設定します。

ロジックタイムが一定の場合、#L_ConstantScan の値を大きくすると、表示処理の処理時間を長くすることができます。また、値を小さくすると、表示処理の時間が短くなります。これは、処理時間の大半をロジック機能が使用するためです。

初期設定として設定してください。単位は 0.1ms です。

MEMO

☞「29.13.3 ロジックスキャンタイムの調整をしたい コンスタントスキャン」
(29-111 ページ)

#L_PercentScan (ロジックの動作割合)

パーセントスキャンモードの場合に、ロジックの総処理時間に対してロジック機能が使用できる割合を設定します。スキャンタイムの値が 10ms 単位になるように設定してください。

初期設定として設定してください。

MEMO

☞「29.13.3 ロジックスキャンタイムの調整をしたい パーセントスキャン」(29-113 ページ)

#L_WatchdogTime (ロジックの WDT 値)

WDT (ウォッチドッグタイマ) の値を ms 単位で設定します。

#L_ScanTime がこの値を超えると、メジャー異常が発生します。

初期設定として設定してください。単位は 0.1ms です。

#L_AddressRefreshTime (接続機器アドレスのアドレスリフレッシュ時間)

ロジックプログラム上で使用されている接続機器アドレスのアドレスリフレッシュ時間が格納されています。単位は 100 μ s です。

MEMO

☞「29.13.3 ロジックスキャンタイムの調整をしたい アドレスリフレッシュ」
(29-115 ページ)

#L_Time (時分情報)

ロジックに設定されている「時分」を BCD4 桁で示します。

時分は次の状態で格納されています。

例) 午後 11 時 19 分の場合

	時 (10 の桁)	時 (1 の桁)	分 (10 の桁)	分 (1 の桁)
値	2	3	1	9

#L_Command (ロジックの動作モード変更)

ロジックに対する制御コマンドとして使用される整数変数です。

ロジックは、#L_Command を認識した後、ビット 7 以外を 0 にリセットします。複数のビットが ON になっている場合、最下位ビットが優先されます。

3 バイトめ (予約)	2 バイトめ (予約)	1 バイトめ (予約)	0 バイトめ
----------------	----------------	----------------	--------

0 バイトめ

I/O 有効/無効	予約	一時停止	継続	1 スキャン 実行	リセット	運転	停止
--------------	----	------	----	--------------	------	----	----

ビット 7 6 5 4 3 2 1 0

#L_LogicMonitor (ロジックモニタの起動スイッチ)

GP のロジックプログラムモニタ機能の起動、操作を行います。

各操作については、次のとおりです。

バイト 3	バイト 2	バイト 1	バイト 0
-------	-------	-------	-------

0 バイトめ Byte : 0

予約	予約	予約	予約	予約	予約	ロジックモニタ 起動 : 1	アドレスモニタ 起動 : 1
----	----	----	----	----	----	-------------------	-------------------

ビット 7 6 5 4 3 2 1 0

1 バイトめ Byte : 1

予約							
----	----	----	----	----	----	----	----

ビット 15 14 13 12 11 10 9 8

2 バイトめ Byte : 2

予約							
----	----	----	----	----	----	----	----

ビット 23 22 21 20 19 18 17 16

3 バイトめ Byte : 3

起動中 : 1 停止中 : 0	予約						
--------------------	----	----	----	----	----	----	----

ビット 31 30 29 28 27 26 25 24

#L_LogicMonStep (ロジックモニタの表示ステップを指示)

ロジックモニタが起動している場合に表示する先頭行番号を格納します。

また、ロジックモニタが起動していない場合は、#L_LogicMonStep に行番号を書き込むことによって、ロジックモニタ起動ビット (#L_LogicMonitor のビット 0) が OFF → ON 時に指定行番号を先頭にロジックモニタが起動します。

ロジックモニタ機能が有効の場合に使用できます。

#L_IOStatus (内蔵 I/O ドライバのステータス)

内蔵 I/O ドライバのエラーコードを格納します。

エラーコードは # L_IOStatus と画面に表示されるエラーメッセージにより確認できます。

エラーコードの詳細分類は次のように設定されます。

エラーコード	内容
001-049	プロジェクトデータ関連異常
050-099	ハードウェア関連異常
100-199	アプリケーション関連異常
200-254	内部エラー

格納されたエラーコードは次のようになります。

H	号機番号格納エリア								
L	重 故 障	0	0	0	0	0	設 定	照 合	エラーコード格納エリア

号機番号格納エリア

エラーが発生したユニットの号機番号が格納されます。使用する I/O ドライバによっては予約ビットとなります。

照合

設定されたユニットと実際に接続されたユニットの I/O 属性が一致し、点数が異なる場合に「1」がセットされます。使用する I/O ドライバによっては予約ビットとなります。

設定

設定されたユニットと実際に接続されたユニットの I/O 属性が不一致の場合に「1」がセットされます。使用する I/O ドライバによっては予約ビットとなります。

重故障

補助ボードの ID 不一致、プロジェクトデータ破損など、ロジックを停止 (Stop) させる必要がある故障を検出したときに「1」がセットされます。

エラーメッセージ

エラーコード分類	内容
RGEA***	内蔵の I/O ドライバ

*** は各ドライバのエラーコードを格納 (0 ~ 255) します。

詳細は各ドライバのエラー情報を参照してください。

配列

各要素の配列は次の通りです。

#L_IOStatus(0) : 予約

#L_IOStatus(1) : 内部 IO

#L_IOStatus(2) : 外部 IO (EX モジュール、CANopen ユニット)

#L_IOStatus(3) : 予約

#L_CalcErrCode

#L_CalcErrCode では、最新のエラー状態が識別されます。リセットですべて 0 にクリアされます。

H																				
	演算異常コードを格納する																			
L																				

エラーコード一覧

エラーコード	内容	
0000	-	異常なし
0001	マイナー異常 (継続)	実数 → 整数、64bit 実数 → 32bit 実数変換でオーバーフロー発生
0002	メジャー異常 (停止)	配列の領域を超えて参照されました
0003		整数の範囲を超えて参照されました
0004		スタックがオーバーフローしました
0005		不正な命令コードを使用しています
0006		エラーハンドラ中にエラー発生
0007		スキャンタイムが WDT を超えました
0008	メジャー異常 (停止)	I/O ドライバで重故障が発生しました
0009		ソフトウェアエラー
0010		不正なオペランドを使用しています
0011	-	予約
0012	マイナー異常 (継続)	BCD/BIN 変換エラー
0013		ENCO/DECO 変換エラー
0014	-	予約
0015	マイナー異常 (継続)	SRAM データ (ユーザプログラム) が破壊された FROM から読み出します
0016		シフトビット数の範囲を超えました
0100	メジャー異常 (停止)	I/O ドライバ命令でメジャーエラー発生
0105	マイナー異常 (継続)	I/O ドライバ命令でマイナーエラー発生
6701	継続異常	<ul style="list-style-type: none"> • CJ 命令、CALL 命令のジャンプ先がない • インデックス修飾の結果、ラベルが定義されていない P0 ~ P4095 以外になった • CALL 命令で P63 を実行した P63 は END へ分岐するラベルのための CALL 命令では使用できません
6702		CALL 命令のネスティングレベルが 6 以上
6703		割り込みのネスティングレベルが 3 以上
6704		FOR-NEXT 命令のネスティングが 6 以上
6705		応用命令のオペランドが対象デバイス以外
6706		応用命令のオペランドのデバイス番号範囲やデータの値がオーバー

次のページに続きます。

エラーコード	内容	
6707	継続異常	ファイルレジスタのパラメータ設定なしでファイルレジスタにアクセスした
6708		FROM/TO 命令エラー
6709		その他（不正分岐など）
6710		パラメータ間のアンマッチ
6730		サンプリングタイム（ T_s ）が対象範囲外（ $T_s = 0$ ）
6731		
6732		入力フィルタ定数（ α ）が対象範囲外（ $\alpha < 0$ または $100 < \alpha$ ）
6733		比例ゲイン（ K_p ）が対象範囲外（ $K_p < 0$ ）
6734		積分時間（ T_i ）が対象範囲外（ $T_i < 0$ ）
6735		微分ゲイン（ K_d ）が対象範囲外（ $K_d < 0$ または $201 < K_d$ ）
6736		微分時間（ T_d ）が対象範囲外（ $T_d < 0$ ）
6740		サンプリングタイム（ T_s ） 演算周期
6742	測定値変化量オーバー（ $\Delta PV < -32768$ または $32767 < \Delta PV$ ）	
6743	偏差オーバー（ $EV < -32768$ または $32767 < EV$ ）	
6744	積分計算値がオーバー（ $-32768 \sim 32767$ 以外）	
6745	微分ゲイン（ K_p ）オーバーによる微分値オーバー	
6746	微分計算値がオーバー（ $-32768 \sim 32767$ 以外）	
6747	PID 演算結果オーバー（ $-32768 \sim 32767$ ）	
6748	PID 出力上限設定値 < 出力下限設定値	
6749	PID 入力変化量警報設定、出力変化量警報設定値異常	
6750	《ステップ応答法》 オートチューニング結果不良	
6751	《ステップ応答法》 オートチューニング動作方向不一致	
6752	《ステップ応答法》 オートチューニング動作不良	
6753	《リミットサイクル法》 オートチューニング用出力設定値異常 [ULV（上限） LLV（下限）]	
6754	《リミットサイクル法》 オートチューニング用 PV スレッシュホールド（ヒステリシス）設定値異常（ $SH_{pv} < 0$ ）	
6755	《リミットサイクル法》 オートチューニング遷移状態異常 （遷移状態を管理するデバイスのデータが異常に書き換えられた）	
6756	《リミットサイクル法》 オートチューニング測定時間超過による結果異常 （ $\tau_{on} > \tau$ 、 $\tau_{on} < \tau$ 、 $\tau < 0$ ）	

次のページに続きます。

エラーコード	内容
6757	《リミットサイクル法》 オートチューニング結果比例ゲインオーバー ($K_p=0 \sim 32767$ 以外)
6758	《リミットサイクル法》 オートチューニング結果積分時間オーバー ($T_i=0 \sim 32767$ 以外)
6759	《リミットサイクル法》 オートチューニング結果微分時間オーバー ($T_d=0 \sim 32767$ 以外)
6760	サーボからの ABS データのサム不一致
6762	インバータ通信命令で指定したポートがすでに他の通信で使用
6765	応用命令の使用回数エラー
6770	FLASH メモリカセット書き込み不良
6771	FLASH メモリカセット未接続
6772	FLASH メモリカセットが書き込み禁止時の書き込みエラー

#L_FaultStep

演算処理が正常に行われなかった場合のプログラム Step 番号を格納します。

#L_FaultLogicScreen

演算処理が正常に行われなかった場合のロジック画面番号を格納します。

INIT : 1

MAIN : 2

ERRH : 3

SUB-01 : 32 ~ SUB-32 : 63

#L_StopScans

数値を入力することで、設定された数値の回数分 Scan が実行され、設定値が 0 になるまでロジックのスキャンを実行します。その間、#L_StopPending のビットは ON になります。ビットが OFF になるとロジックが停止します。

#L_BackupCmd

保持設定されている変数のデータをバックアップする際の、バックアップ、レストアのトリガとなります。

0ビット：バックアップ実行時に自動的に下位16ビットをOFF。

1ビット：レストア実行時に自動的に下位16ビットをOFF。

8ビット：バックアップ完了（正常終了）時にON、エラー発生時はOFF。

9ビット：レストア完了（正常終了）時にON、エラー発生時はOFF。

上記以外のビットは予約です。

H	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
L	0	0	0	0	保持変数バックアップ完了ビット	0	0	0	0	保持変数バックアップ要求ビット						

保持変数バックアップ要求ビット

0	0	レストア実行	バックアップ実行
---	---	--------	----------

ビット	OFF	ON
バックアップ実行	なし	要求（変数のバックアップ）
レストア実行	なし	要求（変数のレストア）

実行後は自動的にOFFになります。

同時に要求ビットがONとなった場合には、バックアップを実行後にレストアが実行されます。

保持変数バックアップ完了ビット

0	0	レストア完了	バックアップ完了
---	---	--------	----------

ビット	OFF	ON
バックアップ完了	なし	完了通知
レストア完了	なし	完了通知

MEMO

- ・オフラインモードや転送モードでのバックアップできません。
- ・バックアップした際のプロジェクトと同一の場合にのみレストアします。異なる場合はレストアは実行されません。
- ・バックアップ、レストアを連続して実行した場合、画面の表示速度が遅くなったり、ロジックのオンラインモニタが中断されることがあります。またプロジェクトによっては通信などに影響が出る場合もあります。スイッチ部品へ「#L_BackupCmd」を割り付ける場合には[ビットセット]に設定し、続けてタッチしないようにしてください。またDスクリプトで「#L_BackupCmd」を使用したバックアップ、レストアは行わないでください。
- ・ロジック停止中のみバックアップできます。

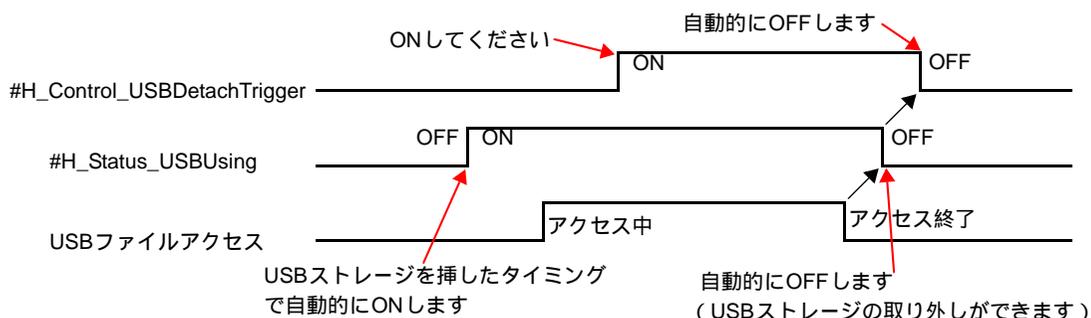
付録 7.2 HMI システム変数 (#H システム変数)

ビット型

変数名	内容	読み込み	書き込み
#H_Alarm_Trigger	アラーム発生（発生内容にかかわらず）		
#H_Control_Buzzer	ブザー音出力		
#H_Control_BuzzerEnable	ブザー音出力許可		
#H_Control_HardcopyPrint	画面ハードコピー印刷コントロール		
#H_Control_JpegCaptureEnable	画面キャプチャ許可		
#H_Control_JpegCaptureTrigger	画面キャプチャコントロール		
#H_Control_PLCmonopoly	シリアルマルチリンク接続時に PLC 専有		
#H_Control_PrintCancel	印刷キャンセルコントロール		
#H_Control_USBDetachTrigger	USB 取り外しコントロール ¹		
#H_Control_SecureWriteTrigger	セキュリティデータ書き込み開始 ²		
#H_Control_SecureWriteMode	セキュリティデータ書き込みモード		
#H_Control_SecureDeleteMode	セキュリティデータ削除モード		
#H_Control_SecureReadDevice	セキュリティデータ読み込み先		
#H_DeviceMonitor	デバイスモニタ起動		
[PLC*]#H_ErrorStatus	PLC（接続機器*）の通信エラーステータス		×
#H_Expression_BCD_Err ³	アニメーションの演算で BCD エラー		
#H_Expression_Division_Err ³	アニメーションの演算でゼロ除算エラー		
#H_Expression_Overflow	アニメーションで 64 ビット符号ありのデータを 32 ビット符号ありに格納する際の丸め発生の状態		
#H_IsLockedState	操作ロックの状態		×
#H_IsLockOwner	操作中のサーバ/ビューア、マスター/スレーブが操作ロック元		×
#H_IsAutoUnlockTimerMoved	自動解除タイマの動作確認		
#H_LadderMonitor	ラダーモニタ起動 ⁴ （キャッシュ起動なし）		
#H_LadderMonitorCache	ラダーモニタ起動 ⁴ （キャッシュ起動あり）		
#H_IsMasterDispUnit	Ether マルチリンクのマスター局		×
#H_IsSlaveDispUnit	Ether マルチリンクのスレーブ局		×
#H_Reset	本体リセット	×	
#H_Status_DispOnOff	表示 ON/OFF		×
#H_Status_JpegCaptureCompletion	画面キャプチャステータス（完了）		×
#H_Status_JpegCaptureProcess	画面キャプチャステータス（処理中）		×
#H_Status_PLCmonopoly	シリアルマルチリンク接続時に他の表示器が PLC 専有		
#H_Status_Print	プリンタステータス		×
#H_Status_SecureWriteProcess	セキュリティデータ書き込み中		×
#H_Status_SecureWriteCompletion	セキュリティデータ書き込み完了		×
#H_Status_USBUUsing	USB 使用中ステータス ¹		×

変数名	内容	読み込み	書き込み
[PLC*]#H_ScanOffStatus ⁵	PLC(接続機器 *) のスキャンステータス		×
[PLC*]#H_ScanOffControl ⁵	PLC(接続機器 *) のスキャンコントロール		

- WinGP では動作しません。「#H_Status_USBUsing」は常に OFF 状態です。
「#H_Control_USBDetachTrigger」を ON しても何も処理されません。
USB ストレージの抜き挿しによる動作は次のようになります。
表示器に USB ストレージを接続すると「#H_Status_USBUsing」が ON になります。
USB ストレージを取り外す場合は、「#H_Control_USBDetachTrigger」を ON します。
取り外しが可能な状態になると、「#H_Status_USBUsing」が自動的に OFF されます。
USB ストレージ内のデータを書き込み中に「#H_Control_USBDetachTrigger」を ON した場合、データの読み書きが終了するまで「#H_Status_USBUsing」は OFF されません。



「#H_Status_USBUsing」が OFF すると USB ストレージにはアクセスできません。USB ストレージを一度抜き挿ししてください。

USB ストレージにデータ書き込み中に、オフラインモードへの移行、表示器への画面データ転送、USB ストレージの抜き挿しをしないでください。未完成のファイルが残ったり、USB ストレージが壊れたりする可能性があります。

- セキュリティデータ書き込みについては、次を参照してください。
「 H_SecurityWriteControl」(A-122 ページ)
- 画面切り替え直後にエラーが発生した場合、各アニメーションの動作は以下の通りです。
可視アニメーション：不可視
位置・回転アニメーション：作画時に設定した位置に表示
カラーアニメーション：ワードアドレスまたは条件設定（数値）選択時はそのときの値に設定されたカラーで、ビットアドレスまたは条件設定 (ON/OFF) 選択時は、OFF 時のカラーで表示する。
フロントレイヤに表示された後にエラーが発生した場合、表示状態を維持しますが、他部品の描画の影響により、一部消去、又は全部消去される場合があります。
- ラダーモニタ起動については、ご使用の PLC 用ラダーモニタ（別売品）に付属の「PLC ラダーモニタオペレーションマニュアル」を参照してください。
- [*] には接続機器名が入ります。

#H_Alarm_Trigger

アラームの種類に関わらず、アラームが発生した場合に ON になるシステム変数です。
アラーム発生により、画面切り替え・データ収集等、何らかの処理を行いたい場合に、アラーム発生
のトリガとして利用できます。
このシステム変数は任意に ON/OFF できます。
このシステム変数は一度 ON になると、任意に OFF にしない限り、GP の電源を OFF するまで ON し
続けます。

#H_Control_Buzzer

GP のブザー音を制御するシステム変数です。
通信方式がダイレクトアクセスの場合は L001401 に、メモリリンク方式の場合は 001101 に格納しま
す。ブザー音出力中に、このシステム変数が ON になります。

MEMO

- #H_Control_BuzzerEnable が OFF の状態では、このシステム変数が ON になってもブ
ザーは鳴りません。

#H_Control_BuzzerEnable

GP のブザー機能を制御するシステム変数です。
通信方式がダイレクトアクセスの場合は L001404 に、メモリリンク方式の場合は 001104 に格納しま
す。このシステム変数が ON の場合、ブザー音出力が可能です。

#H_Control_HardcopyPrint

GP で表示中の画面の印刷に使用するシステム変数です。このシステム変数のビットが ON になると、
GP で表示している画面の印刷が開始されます。通信方式がダイレクトアクセスの場合は L001402 に、
メモリリンク方式の場合は 001102 に格納します。

#H_Control_JpegCaptureEnable

Pro-Server EX による GP の画面の保存を制御するシステム変数です。LS207600 に格納します。このシ
ステム変数のビットが ON になると、Pro-Server EX による GP の画面の保存ができるようになります。

#H_Control_JpegCaptureTrigger

GP で表示している画面の保存を行うシステム変数です。LS207200 に格納します。このシステム変数
のビットが ON になると、GP で表示している画面を Jpeg 形式で GP に取り付けられた GF カードに保
存されます。

#H_Control_PLCmonopoly

シリアルマルチリンク接続時に PLC を専有すると ON します。LS0014 の 7 ビット目に格納します。

#H_Control_PrintCancel

このシステム変数は、GP に接続されたプリンタの印刷を中止します。このシステム変数のビットが ON になると、GP に設定されているすべての印字処理がキャンセルされます。通信方式がダイレクトアクセスの場合は L001411 に、メモリリンク方式の場合は 001111 に格納します。

#H_Control_USBDetachTrigger

GP から USB ストレージを取り外すときに使用するシステム変数です。このシステム変数を ON にすると、#H_Status_USBUsing が OFF になり、GP から USB ストレージを取り外すことができます。

MEMO

- USB ストレージ内のデータを書き込み中にこのシステム変数を ON にした場合、データの読み書きが終わるまで #H_Status_USBUsing は OFF になりません。

#H_Control_SecureWriteTrigger

セキュリティデータの書き込み開始させるときに使用するシステム変数です。セキュリティデータ書き込みについては、次を参照してください。

☞ 「 H_SecurityWriteControl 」 (A-122 ページ)

#H_Control_SecureWriteMode

セキュリティデータの書き込みモードを選択するシステム変数です。セキュリティデータ書き込みについては、次を参照してください。

☞ 「 H_SecurityWriteControl 」 (A-122 ページ)

#H_Control_SecureDeleteMode

セキュリティデータの削除モードを選択するシステム変数です。セキュリティデータ書き込みについては、次を参照してください。

☞ 「 H_SecurityWriteControl 」 (A-122 ページ)

#H_Control_SecureReadDevice

セキュリティデータの読み込み先を選択するシステム変数です。セキュリティデータ書き込みについては、次を参照してください。

☞ 「 H_SecurityWriteControl 」 (A-122 ページ)

#H_DeviceMonitor

デバイスモニタの稼動状況を表示するシステム変数です。このシステム変数のビットが ON になると、デバイスモニタが起動します。

[PLC*]#H_ErrorStatus

PLC（接続機器）の通信エラー状態を表示するシステム変数です。

ビット	状態
OFF	通信状態は正常です。
ON	通信状態に異常があります。

#H_Expression_BCD_Err

アニメーションの演算で「BCDエラー」が発生すると ON になります。

#H_Expression_Division_Err

アニメーションの演算で「ゼロ除算エラー」が発生すると ON になります。

#H_Expression_Overflow

アニメーションの演算では、「64 ビット符号あり」のデータを「32 ビット符号あり」に格納する際、「丸め」を行います。その丸めが発生すると ON になるシステム変数です。

MEMO

- 演算途中で「64 ビット符号あり」の範囲を超えた場合は、丸めの発生が検出できなくなります。

#H_IsLockedState

操作中の GP または GP-Viewer EX の操作ロック状態を表示するシステム変数です。他の GP または GP-Viewer EX が操作ロック元になり、操作中の GP または GP-Viewer EX が操作ロックされると、このシステム変数のビットが ON になります。

#H_IsLockOwner

操作中の GP または GP-Viewer EX の操作ロック状態を表示するシステム変数です。操作中の GP または GP-Viewer EX が操作ロック元になり、他の GP または GP-Viewer EX が操作ロックされると、このシステム変数のビットが ON になります。

#H_IsAutoUnlockTimerMoved

操作ロックの自動解除タイマーの動作状態を表示するシステム変数です。

ビット	状態
OFF	動作していません。
ON	動作中です。

#H_LadderMonitor

ラダーモニターを起動するシステム変数です。LS207801 に格納します。このシステム変数のビットが ON になると、ラダーモニターが起動します。

#H_LadderMonitorCache

ラダーモニターを起動するシステム変数です。LS207803 に格納します。このシステム変数のビットが ON になると、ラダーモニターが起動し、CF にキャッシュされているラダープログラムを表示されます。

#H_IsMasterDispUnit

Ether マルチリンク接続時の GP の局状態を表示するシステム変数です。Ether マルチリンクのマスタ局であれば ON になります。

#H_IsSlaveDispUnit

Ether マルチリンク接続時の GP の局状態を表示するシステム変数です。Ether マルチリンクのスレーブ局であれば ON になります。

#H_Reset

GP を再起動するシステム変数です。このシステム変数のビットが ON になると、GP が再起動します。

#H_Status_DisponOff

GP の画面表示状態を表示するシステム変数です。

通信方式がダイレクトアクセスの場合は L000609 に、メモリリンク方式の場合は 000109 に格納します。GP 画面の表示中に、このシステム変数が ON になります。

#H_Status_JpegCaptureCompletion

GP で表示している画面の保存状況を表示するシステム変数です。画面の保存が完了すると、このシステム変数のビットが ON になります。

#H_Status_JpegCaptureProcess

GP で表示している画面の保存状況を表示するシステム変数です。画面の保存中に、このシステム変数のビットが ON になります。

#H_Status_PLCmonopoly

シリアルマルチリンク接続時に他の表示器が PLC を専有すると ON します。LS0006 の 7 ビット目に格納します。

#H_Status_Print

GP の印刷状態を表示するシステム変数です。次の機能に対する印刷の実行中に、このシステム変数が ON になります。通信方式がダイレクトアクセスの場合は L000602 に、メモリリンク方式の場合は 000102 に格納します。

- 画面ハードコピー
- 流れアラーム
- アラーム履歴（リアルタイム、一括印字）
- サンプリング（リアルタイム、一括印字）
- CSV 表示機能（部分印字、全体印字）

#H_Status_SecureWriteProcess

セキュリティデータの書き込み状況を表示するシステム変数です。セキュリティデータ書き込み中は、このシステム変数のビットが ON になります。

#H_Status_SecureWriteCompletion

セキュリティデータの書き込み状況を表示するシステム変数です。セキュリティデータ書き込みが完了すると、このシステム変数のビットが ON になります。

#H_Status_USBUsing

GP に接続している USB ストレージの接続状況を表示するシステム変数です。

このシステム変数のビット状態は次の通りです。

ビット	状態
OFF	次のいずれかの状態です。 <ul style="list-style-type: none"> • USB ストレージが GP に接続されていません。 • USB ストレージが GP から取り外し可能です。
常時 ON	USB ストレージが GP に接続中です。

MEMO

- USB ストレージと GP が物理的に接続されている状態でも、このシステム変数が OFF になると、USB ストレージにはアクセスできません。USB ストレージを一度抜き差ししてください。
- USB ストレージへデータ書き込み中のときは、次の行為を行わないでください。未完成のファイルが USB ストレージに残ったり、USB ストレージが壊れたりする可能性があります。
 - オフライン移行
 - GP への画面データ転送
 - USB ストレージの抜き差し

[PLC*]#H_ScanOffStatus

PLC（接続機器）の通信スキャン状況を表示するシステム変数です。PLC（接続機器）の通信スキャン中は、このシステム変数のビットが ON になります。

[PLC*]#H_ScanOffControl

PLC（接続機器）の通信スキャンを制御するシステム変数です。LS955000 ~ LS955115 に、PLC（接続機器）の Node1 ~ 32 までの値が順に格納されます。以下同様に、2 台目の PLC の値が LS955200 ~ LS955135 に、3 台目 PLC の値が LS955400 ~ LS955515 に、4 台目の PLC の値が LS955600 ~ 955715 に格納されます。

このシステム変数のビットを ON にすると、PLC（接続機器）の通信をスキャンします。

MEMO

- PLC（接続機器）は、接続機器の設定で指定した名称となります。
 - このシステム変数は、接続機器で設定されている機器だけが設定可能です。
-

整数型

変数名	内容	読み込み	書き込み
#H_BackLightColor	バックライト 2 色切り替え		
#H_ChangeScreenNo	切替画面番号		
#H_CounterbySecond	1 秒バイナリカウンタ		×
#H_CurrentDay	日データ (現在値)		×
#H_CurrentDayofTheWeek	曜日 (現在値)		×
#H_CurrentHour	時データ (現在値)		×
#H_CurrentMinute	分データ (現在値)		×
#H_CurrentMonth	月データ (現在値)		×
#H_CurrentScreenNo	表示中画面番号		×
#H_CurrentSecond	秒データ (現在値)		×
#H_CurrentTokenSpeed	シリアルマルチリンク接続時にトークンパケットの受け渡しが一週する時間の現在値		×
#H_CurrentYear	年データ (現在値)		×
#H_DispScanCounter	表示スキャンカウンタ		×
#H_DispScanTime	表示スキャンタイム		×
#H_EtherLink_ConstCommuniMemInfo	マスター GP のマスター / スレーブ / GP-Viewer の局常時通信量の合計値 (アドレス数単位)		×
#H_EtherLink_ConstItemCount	マスター GP がスレーブ / GP-Viewer から実際に要求を受けている常時通信量の合計値 (バイト単位)		×
#H_Expression_Err_Status	アニメーションの演算のエラーステータス		
#H_GlobalWindowControl	ウィンドウコントロール		
#H_GlobalWindowNo	ウィンドウ登録番号		
#H_GlobalWindowPosX	ウィンドウ表示位置 (X)		
#H_GlobalWindowPosY	ウィンドウ表示位置 (Y)		
#H_JpegCaptureFileNo	画面キャプチャファイル番号		
#H_LockElapsedTime	操作ロックを開始してから経過した時間 (秒)		×
#H_LockRemainderTime	操作ロック残り時間 (秒)		×
#H_LockOwnerIPAddr	操作ロック元の IP アドレス		×
#H_LoginUserID	ログオン中のユーザの ID		×
#H_MachineNo	変換アダプタで設定された号機番号		×
#H_MAXTokenSpeed	シリアルマルチリンク接続時にトークンパケットの受け渡しが一週する時間の最大値		
#H_SecurityWriteControl	セキュリティデータ書き込み		
#H_SecurityWriteStatus	セキュリティデータ書き込みステータス		×

変数名	内容	読み込み	書き込み
#H_SetDay	日データ (設定値)		
#H_SetHour	時データ (設定値)		
#H_SetMinute	分データ (設定値)		
#H_SetMonth	月データ (設定値)		
#H_SetSecond	秒データ (設定値)		
#H_SetYear	年データ (設定値)		
[PLC*]#H_DriverCycleTime	PLC(接続機器 *) の周期時間		×
[PLC*]#H_IsLockedState	PLC(接続機器 *) のエラーコード		×
[PLC*]#H_IsLockedCount	PLC(接続機器 *) のエラー回数		×
[PLC*]#H_DriverErrorDate	PLC(接続機器 *) のエラー発生日時		×

#H_BackLightColor

バックライトの表示色を切り替えます。バックライト 2 色切り替えに対応した機種でのみ動作します。

☞ 「1.3 機種別サポート機能一覧」(1-7 ページ)

「0」を書き込むとアンバー色、「1」を書き込むと赤色になります。その他の値はセットしないでください。

#H_ChangeScreenNo

切り替え先の画面番号を指定します。

通信方式がダイレクトアクセスの場合は LS0008 に、メモリリンク方式の場合は 0015 に格納します。

#H_CounterbySecond

電源投入後より経過時間を 1 秒ごとにカウントアップし、バイナリ形式で LS2035 に格納します。

#H_CurrentDay

日付情報の「日」を BCD 形式で LS2050 に格納します。

#H_CurrentDayofTheWeek

時間情報の「時」を BCD 形式で LS9310 に格納します。格納する値については、以下を参照してください。

☞ 「時計データの現在値」(A-16 ページ)

#H_CurrentHour

時間情報の「時」を BCD 形式で LS2051 に格納します。

#H_CurrentMinute

時間情報の「分」をBCD形式でLS2052に格納します。

#H_CurrentMonth

日付情報の「月」をBCD形式でLS2049に格納します。

#H_CurrentScreenNo

表示中の画面番号を格納します。通信方式がダイレクトアクセスの場合はL0000に、メモリリンク方式の場合は0015に格納します。

#H_CurrentSecond

時間情報の「秒」をBCD形式でLS2053に格納します。

#H_CurrentTokenSpeed

シリアルマルチリンク接続時のみ使用します。

トークンパケット(PLCへのコマンド発行権)の受け渡しが、複数台接続された表示器間で一周する時間の現在値です。単位は10msで格納されます。データは最大値が変化すること、または画面切り替えごとに更新されます。データの初期値は0です。±10msの誤差があります。LS2041に格納します。

#H_CurrentYear

日付情報の「年」をBCD形式でLS2048に格納します。格納する値は西暦の下2桁です。

#H_DispscanCounter

表示画面に設定されている部品処理がひととおり完了するごとにカウントアップします。

値は、対象部品の全処理が完了した時点で更新され、バイナリ形式でLS2038に格納されます。

#H_DispscanTime

表示画面に設定されている部品の1つめの処理開始から、最後の部品の処理終了までの時間です。

データはバイナリで単位はmsでLS2036に格納されます。データは対象部品の全処理が完了した時点で更新されます。データの初期値は0で、±10msの誤差があります。

#H_EtherLink_ConstCommuniMemInfo

マスター GP のみで使用できます。

マスター / スレーブ / GP-Viewer の局常時通信量の合計値を格納します。アドレス数の算出方法は、以下を参照してください。

 「7.5.3 通信量の計算方法」(7-29 ページ)

#H_EtherLink_ConstItemCount

マスター GP のみで使用できます。

マスターが、マスター / スレーブ / GP-Viewer から実際に要求を受けている常時通信量の合計値を、バイト単位で格納します。

16 ビットアドレスは 2 バイト、32 ビットアドレスは 4 バイト、ビットアドレスは 2 バイトとして計算します。

#H_Expression_Err_Status

アニメーション機能の演算のエラーステータスを格納します。

0 ビットめは #H_Expression_BCD_Err、1 ビットめは #H_Expression_Division_Err、2 ビットめは #H_Expression_Overflow のエラーステータスがそれぞれ格納されます。詳細は以下を参照してください。
☞ 「付録 7.2 HMI システム変数 (#H システム変数) ビット型」(A-110 ページ)

#H_GlobalWindowControl

L0016 の 0 ビットめが ON のとき、グローバルウィンドウを表示し、OFF のとき非表示にします。

L0016 の 1 ビットめが ON のとき、グローバルウィンドウの表示順序を変更できます。

#H_GlobalWindowNo

間接指定で選択したグローバルウィンドウの登録番号を L0017 に格納します。格納する値はバイナリまたは BCD 形式で 1 ~ 2000 です。

#H_GlobalWindowPosX

間接指定で選択したグローバルウィンドウの左上隅の X 座標表示位置を L0018 に格納します。値はバイナリまたは BCD 形式です。

#H_GlobalWindowPosY

間接指定で選択したグローバルウィンドウの左上隅の Y 座標表示位置を L0019 に格納します。値はバイナリまたは BCD 形式です。

#H_JpegCaptureFileNo

保存先が CF カードまたは USB ストレージのとき、取得する画面キャプチャのファイル番号を L2074 に指定します。

[システム設定] - [本体設定] - [動作設定] - [画面キャプチャ設定] で [ファイル番号自動加算] を設定した場合に使用できます。

#H_LockElapsedTime

[システム設定] - [本体設定] - [拡張機能設定] - [操作ロック設定] で [操作ロックを使用する] を設定したとき、操作ロックを開始してからの経過秒数を格納します。

#H_LockRemainderTime

[システム設定] - [本体設定] - [拡張機能設定] - [操作ロック設定] で [自動解除時間] を設定したとき、操作ロックが解除されるまでの残りの秒数を格納します。

#H_LockOwnerIPAddr

操作ロック元となる GP の IP アドレスを格納します。

#H_LoginUserID

現在のログインしている人のユーザー ID が格納されます。

#H_MachineNo

ハンディタイプ GP をご使用の場合、変換アダプタの号機番号を格納します。
電源投入後、変換アダプタから号機番号が読み出せるまでの間、値は 0 になります。

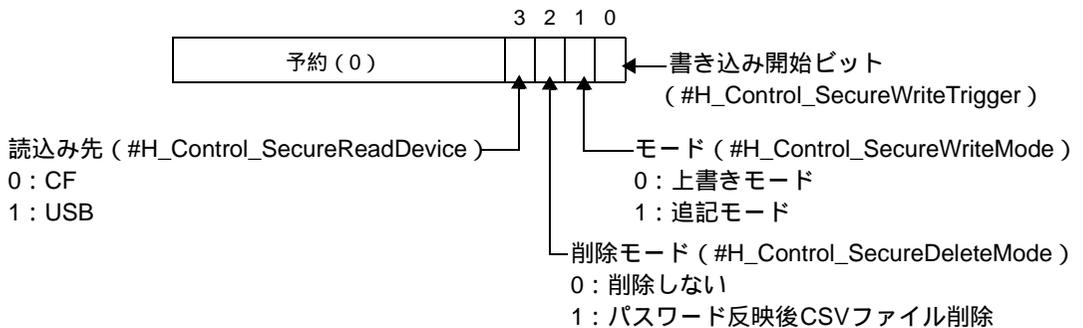
#H_MAXTokenSpeed

シリアルマルチリンク接続時のみ使用します。

トークンパケット (PLC へのコマンド発行権) の受け渡し、複数台接続された表示器間で一周する時間の現在値です。単位は 10ms で格納されます。データは最大値が変化すること、または画面切り替えごとに更新されます。データの初期値は 0 です。± 10ms の誤差があります。LS2040 に格納されません。

H_SecurityWriteControl

パスワードのオンライン書き込みの実行ステータスや書き込み先などを格納します。



0 ビットめを OFF ON することで、CSV ファイルのパスワードを本体に反映します。

- 書き込み時のエラーチェック

本体書き込み時にレベルモード/ユーザ ID モード、書き込みモード別に次の項目をチェックします。

○ : エラーチェックする × : チェックしない

エラーチェック内容	レベルモード		ユーザ ID モード	
	上書	追記	上書	追記
CF/USB が本体に装着されているか				
CSV ファイルが指定のパス、ファイル名であるか				
CSV ファイルが指定フォーマットに従っているか				
CSV ファイルのパスワードデータに次のような異常はないか	-	-	-	-
• パスワード（レベル、ユーザ ID 含む）が半角英数字で 8 文字以内であるか				
• パスワード（レベル、ユーザ ID 含む）にスペースが入っていないか				
• レベル、パスワード、ユーザ ID の中に空文字はないか（ただしすべて空白文字（スペース）の場合は削除とみなす、エラーではない）	×	×		
• レベル値が範囲内（1 ~ 15）であるか	×	×		
ユーザ ID の設定数が 64 個以内であるか ¹	×	×		
レベルモード/ユーザ ID モードが CSV ファイルと本体側とで一致しているか				
ユーザ ID（パスワード）が重複していないか ²				

書き込みモード別でエラーチェックの内容が変わります。

1 ユーザ ID 設定数チェック

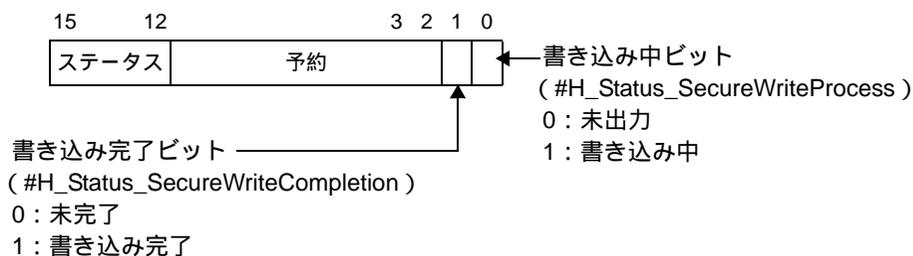
上書	書き込み用ファイル内の設定数をチェック
追記	書き込み用データと既存データの設定数の合計をチェック

2 データ重複チェック

レベルモード	上書	書き込み用ファイル内でパスワードが重複していないかチェック
	追記	上記 + 書き込み用データと既存データでパスワードが重複していないかチェック
ユーザ ID モード	上書	書き込み用ファイル内で ID が重複していないかチェック
	追記	上記 + 書き込み用データと既存データで ID が重複していないかチェック

#H_SecurityWriteStatus

パスワードのオンライン書き込み中にエラーが発生した場合にエラーステータスを格納します。



ステータス詳細

ビット 12 ~ 15	内容	詳細
0000	正常終了	本体書き込みが正常に終了したとき
0001	予約	
0010	予約	
0011	予約	
0100	CF カード、 USB ストレージなし	本体への書き込み時に CF カードまたは USB ストレージが挿されていないか、CF カードのハッチが開いているとき
0101	削除エラー	CSV ファイルの削除に失敗したとき
0110	予約	
0111	予約	
1000	ユーザ ID 数オーバー	本体書き込み時にユーザ ID 数が 64 を超えていたとき
1001	データ書き込みエラー	NAND への書き込みに失敗したとき
1010	CSV ファイル名、 パスエラー	CSV ファイルが指定のパス、ファイル名でないとき
1011	CSV ファイル フォーマットエラー	CSV ファイルが指定のフォーマットとおりでないとき
1100	CSV データエラー	パスワードデータに異常があるとき
1101	モードエラー	レベルモード、ユーザ ID モードが本体と不一致のとき
1110	重複エラー	パスワード重複しているとき (レベル PS モード) ユーザ ID が重複しているとき (ユーザ ID モード)

- 書き込み中ビットは、書き込みが完了すると自動的に OFF して同時に書き込み完了ビットが ON します。
ユーザが書き込み開始ビットを OFF することで、完了ビットも自動的に OFF します。
- 書き込み完了ビットが ON する前に書き込み開始ビットを OFF した場合でも書き込み完了ビットは自動的に OFF されます。
- 書き込み中にエラーが発生した場合は、完了ビットは ON しません。書き込み中ビットが OFF になり、エラーステータスが HMI システム変数 #H_SecurityWriteStatus に格納されます。書き込み開始ビットを OFF してもステータス自動クリアはされません。次回正常終了したときにクリアされます。

#H_SetDay

日付情報の「日」の設定値を BCD 形式で LS2058 に格納します。格納する値は、01 ~ 31 (日) の 2 桁です。

この値をデータ部品などで書き換えると、時間データの「日」を変更することが出来ます。ただし、範囲外の数値は格納できません。

#H_SetHour

時間情報の「時」の設定値を BCD 形式で LS2059 に格納します。格納する値は、00 ~ 23 (時) の 2 桁です。

この値をデータ部品などで書き換えると、時間データの「時」を変更することが出来ます。ただし、範囲外の数値は格納できません。

#H_SetMinute

時間情報の「分」の設定値を BCD 形式で LS2060 に格納します。格納する値は、00 ~ 59 (分) の 2 桁です。

この値をデータ部品などで書き換えると、時間データの「分」を変更することが出来ます。ただし、範囲外の数値は格納できません。

#H_SetMonth

日付情報の「月」の設定値を BCD 形式で LS2057 に格納します。格納する値は、01 ~ 12 (月) の 2 桁です。

この値をデータ部品などで書き換えると、時間データの「月」を変更することが出来ます。ただし、範囲外の数値は格納できません。

#H_SetSecond

時間情報の「秒」の設定値を BCD 形式で LS2061 に格納します。

格納する値は、00 ~ 59 (秒) の 2 桁です。

この値をデータ部品などで書き換えると、時間データの「秒」を変更することが出来ます。ただし、範囲外の数値は格納できません。

#H_SetYear

日付情報の「年」の設定値をBCD形式でLS2056に格納します。

格納する値は、西暦の下2桁(00～99)です。

この値をデータ部品などで書き換えると、時間データの「年」を変更することが出来ます。ただし、範囲外の数値は格納できません。

[PLC*]#H_DriverCycleTime

GPから接続機器にデータを要求して取り込むまでの時間を格納します。[*]には値を取得する接続機器名が入ります。

LS9400～LS9431に、PLC(接続機器)の通信サイクルタイム1～32が順に格納されます。以下同様に、PLC2, 3, 4台目までの値がLS9432～LS9527に格納されます

MEMO

- PLC(接続機器)は、接続機器の設定で指定した名称となります。

[PLC*]#H_DriverErrorCode

発生したエラーコードを格納します。[*]には値を取得する接続機器名が入ります。

[PLC*]#H_IsLockedCount

[*]には値を取得する接続機器名が入ります。

[PLC*]#H_DriverErrorDate

エラーの発生日時が格納されます。[*]には値を取得する接続機器名が入ります。

付録 8 Microsoft® Visio® で作成したパッケージファイルを GP-Pro EX で使いたい

Microsoft® Visio® で作成したパッケージファイルを GP-Pro EX で使用するには、GP-Pro EX に標準でバンドルされている Pro-face コンバータというツールが必要です。Pro-face コンバータは、Visio® で作成したデータを GP-Pro EX で使用できるパッケージファイルへ変換するためのツールです。

付録 8.1 Pro-face コンバータ動作環境

Pro-face コンバータの動作環境は、Microsoft® Visio® の動作環境に準じます。

Microsoft® Visio® 2003/2007 の動作環境は以下のとおりです。

	Microsoft® Visio® 2003	Microsoft® Visio® 2007
CPU	233MHz 以上	500MHz 以上
解像度	SVGA (800 × 600)	XGA (1024 × 768)
ハードディスクスペース	最小 230M バイト以上 (Professional 使用時)	最小 1.5G バイト
メモリ	128M バイト以上	256M バイト以上
OS	Windows® 2000 (Service Pack3 以上) /Windows® XP (Home Edition/ Professional Edition)	Windows® XP (Home Edition/Professional Edition SP2 以上)

MEMO

- Microsoft® Visio® 2003 および 2007 の詳細な動作環境については、Microsoft 社のホームページよりご確認ください。
- Microsoft® Visio® のバージョンは、[ヘルプ] メニューの [バージョン情報] から確認できます。

付録 8.2 Pro-face コンバータのインストール

Pro-face コンバータは、インストールすると Microsoft® Visio® にアドインされます。
Pro-face コンバータをインストールする際は、インストールするパソコンをインターネットに接続してください。

MEMO

- 事前に日本語版の Microsoft® Visio® をインストールしてください。
- Pro-face コンバータのインストーラは、Microsoft® Visio® のバージョンによって異なります。Microsoft® Visio® のバージョンをご確認ください。

インストール手順

- 1 GP-Pro EX のインストール Disk 2 をパソコンの CD-ROM ドライブに挿入します。
- 2 SET UP MENU 画面が表示されます。[次のページへ] をクリックします。
- 3 インストールされているバージョンの Visio® に対応する Pro-face コンバータをクリックします。



- 4 [Pro-face コンバータ セットアップウィザードへようこそ] 画面が表示されますので [次へ] をクリックしてください。
- 5 [インストール フォルダの選択] 画面で、Pro-face コンバータをインストールしたいフォルダを選択し、[次へ] をクリックします。
- 6 [インストールの確認] 画面で [次へ] をクリックするとインストールが開始されます。
- 7 [インストールが完了しました] で、[閉じる] をクリックするとインストールは完了です。

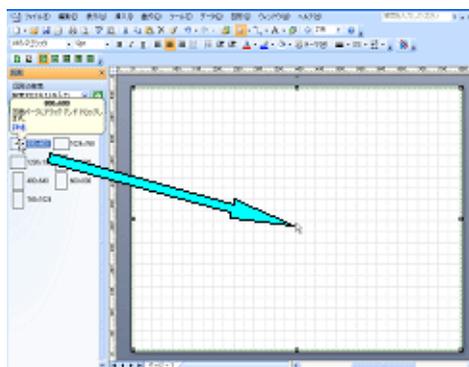
付録 8.3 Pro-face コンバータ使用方法

Microsoft® Visio® で GP-Pro EX 用の図面を作成し、Pro-face コンバータでパッケージファイルに変換する手順を紹介します。

付録 8.3.1 Microsoft® Visio® で GP-Pro EX 用のデータを作成する

既存の Visio® データで GP-Pro EX 用の図面を作成する

- 1 Microsoft® Visio® を起動し、[ファイル] - [新規作成] - [Pro-face] - [Pro-face コンバータ] を選択します。図面 1 が作成されます。
- 2 [図形] - [解像度] でお使いの表示器の解像度を選択して、図面 1 のページにドラッグ&ドロップします。



MEMO

- 各シリーズの解像度は、次のとおりです。

320 × 240	GP3200 シリーズ、AGP3310H を除く GP3300 シリーズ
640 × 480	AGP3310H、GP3400 シリーズ、 AGP3510 および AGP3560 を除く GP3500 シリーズ
800 × 600	AGP3510 および AGP3560、GP3600 シリーズ
1024 × 768	GP3700 シリーズ

- 3 [ファイル] - [開く] で既存の Visio® データを選択し、[開く] ボタンをクリックします。
- 4 [編集] - [すべて選択] を選択し、[編集] - [コピー] でコピーします。
- 5 [ウィンドウ] メニューで貼り付け先の図面を選択します。ここでは [図面 1] を選択します。
- 6 [編集] - [形式を選択して貼り付け] を選択します。
[Microsoft Visio 図面] を選択し、[OK] ボタンをクリックしコピーしたデータを貼り付けます。

MEMO

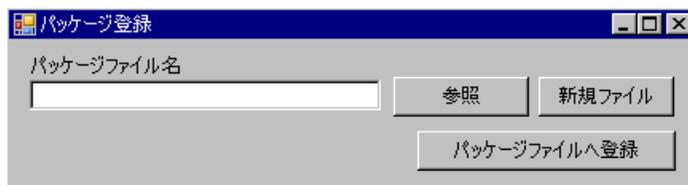
- Microsoft® Visio® の操作・作図については、製品のマニュアルを参照してください。

作成した図面をパッケージファイルに変換する

- 1 Pro-face コンバータのアイコンをクリックします。

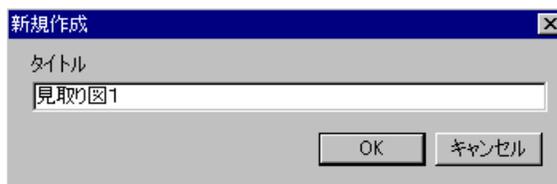


- 2 [パッケージ登録] ダイアログボックスが表示されるので、[新規ファイル] をクリックしてください。

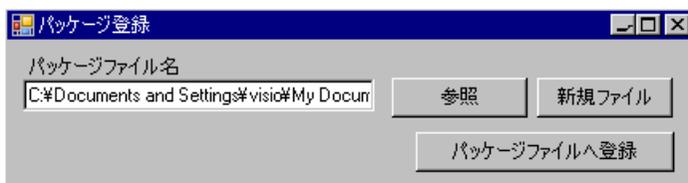


- 3 [名前を付けて保存] 画面でファイル名を入力し、[保存] をクリックします。

- 4 [新規作成] ダイアログボックスで、タイトルを入力し [OK] をクリックしてください。ここで設定したタイトルは GP-Pro EX に登録されるパッケージファイルの名称になります。



- 5 「パッケージ登録」ダイアログボックスで [パッケージファイルへ登録] をクリックします。



- 6 [部品名称] ダイアログボックスでタイトルを入力し [OK] をクリックしてください。ここで設定したタイトルは、GP-Pro EX での部品の名称になります。

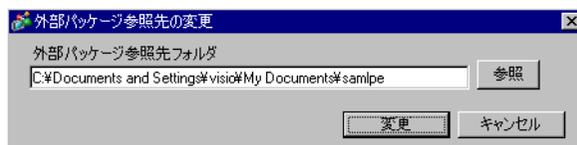
- 7 「パッケージファイルへ保存しました。」のメッセージが表示されますので [OK] をクリックしてください。

GP-Pro EX にパッケージファイルを取り込む

- 1 GP-Pro EX を起動し、新しいプロジェクトを作成します。
- 2 [ベース画面作成] をクリックします。
- 3 メニューバーの [表示] から [パッケージ一覧] を選択します。
- 4 [パッケージの一覧] ダイアログボックスが表示されますので [外部パッケージを参照する] にチェックを入れます。



- 5 [参照先変更] をクリックすると、[外部パッケージ参照先の変更] ダイアログボックスが表示されます。[参照] をクリックして参照先を指定します。



- 6 [変更] をクリックすると [パッケージの一覧] ダイアログボックスに Microsoft Visio で作成したパッケージが表示されます。
- 7 [表示] - [パッケージ] でパッケージダイアログボックスを表示し、部品をドラッグ&ドロップで画面に配置してください。

